

社会・地理歴史・公民 WG取りまとめ（案）

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性

(1) 現状の成果

ア. 現行学習指導要領の考え方	3
イ. これまでの成果	3

(2) 現状の課題

ア. 系統的・体系的な整理の必要性	3
イ. 課題を追究・解決する活動における課題	4
ウ. 社会情勢の変化に伴う課題	4
エ. 社会参画意識に関する課題	4
オ. デジタル学習基盤の活用に関する課題	5
カ. 学校外施設・人材との連携に関する課題	5

(3) 改善の方向性

ア. 「深い学び」の実現	6
イ. 学習指導要領及び教科書の精選	6
ウ. 社会情勢の変化を踏まえた教育内容の見直し	6
エ. 主権者教育の促進	6
オ. 課題を追究・解決する学習の充実	6

2. 目標及び見方・考え方のあり方

(1) 目標のあり方

ア. 基本的な考え方	7
イ. 柱書のあり方	7
ウ. 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」 「学びに向かう力、人間性等」のあり方	7

(2) 見方・考え方のあり方

ア. 社会科等における捉え方	8
イ. 見直しに向けた考え方	8

3. 資質・能力の構造化のポイント

(1) 高次の資質・能力のあり方

ア. 示し方	9
イ. 考え方	9

(2) 表形式化の形式

9

4. 内容の改善のあり方

(1) 系統性・体系性の整理

ア. 共通	10
イ. 小学校段階	10
ウ. 中学校段階	10
エ. 高等学校段階	10

(2) 内容の精選

ア. 学習指導要領の精選	12
イ. 教科書の精選	13

(3) 内容の充実

15

(4) 主権者教育の促進

ア. 基本的考え方	16
イ. 具体的な方向性	16

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方

(1) 課題を追究・解決する学習の充実

ア. 社会的事象等について調べまとめる技能の見直し	18
イ. デジタル学習基盤を活用した学習の充実	18
ウ. AI活用の考え方	18

(2) 地域を題材とした学習活動のあり方

19

(3) 学校外施設・人材との連携

19

(4) 学習評価のあり方

20

(5) 柔軟な教育課程の編成・実施

20

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

ア. 現行学習指導要領の考え方

- 社会科等では、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力」を共通の目標として整理し、資質・能力の育成を図ることとしている。
- 今次の学習指導要領では、グローバル化への対応、持続可能な社会の形成など現代的な諸課題を踏まえた社会参画への意識の涵養をねらいとし、
 - ・知識や思考力を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、
 - ・自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、
 - ・持続可能な社会作りの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度

など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことや、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実などの点から、教育内容の見直しを行った。

- そのため、全ての学校段階を通じた問題解決的、課題解決的な学習の過程の充実を図るとともに、特に高等学校では、選挙権年齢の引き下げや、その後の成年年齢の引き下げも見据え、
 - ・共通必修科目としての「地理総合」「歴史総合」「公共」を設置し、
 - ・これらを発展的に学習する選択必修科目として「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」を設置する。

など科目構成の見直しを行った。

イ. これまでの成果

- これらの内容・構造の改善の成果として、
 - ・学習目標の明確化
 - ・地域課題等への意識と実践の充実
 - ・具体的な社会事象との関わりを意識した学習内容の改善
 - ・社会的な見方・考え方を中核とした学習課題の解決を意識した学習活動の充実

などが進められ、その影響として、例えば生徒にとって社会科等の学習が「役に立つ」「わかる」「好き」と答える割合が従前と比べて改善されるなどの状況も現れてきた。

(2) 現状の課題

ア. 系統的・体系的な整理の必要性

- 今次改訂において、小・中・高の系統性を高め授業改善が進められる一方、依然として、断片的な知識の習得中心の授業が行われている実態も見受けられ、学習上の課題（問い）による追究や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が道半ばであること、そうした問題の背景として、高校入試改革等が道半ばであること、教科書の分量等が多すぎることを指摘する声もある。
- こうした成果と課題を踏まえつつ、児童生徒の発達段階を踏まえ、より一層、児童生徒の資質・能力を育成するため、内容等の系統的な整理や分野・科目の体系的な整理、必要な精選を図る必要がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

イ. 課題を追究・解決する活動における課題

- 今次の学習指導要領改訂においては、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実が図られ、課題把握（動機づけ、方向づけ）、課題追究（情報収集、考察・構想）、課題解決（まとめ）、新たな課題発見（振り返り）といった学習過程を、単元など内容や時間のまとまりの中で児童生徒が行うこととされたが、「資料などから疑問を見つけたり問いを作ったりしている生徒」は60%前後（暫定値）にとどまっている。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、多様な立場の人々による様々な情報や資料等が溢れる現代社会において、その情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することは一層重要となっている。

ウ. 社会情勢の変化に伴う課題

- グローバルな協調や競争に関する課題、内なる国際化、地球環境の変化やそれに伴う自然災害の頻発化・激甚化、生成AIなどデジタル技術の飛躍的な発展、人口減少・少子高齢化の加速がもたらす持続可能性の危機など、社会情勢の変化の観点から内容の見直しの必要性が高まっている。
- また、現行学習指導要領改訂後に制定・改正された人権に関する教育と関連のある法令等（こども基本法、障害者差別解消法、理解増進法、偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画など）を踏まえた検討も必要となっている。その際、人権教育に関する教師の指導力向上を併せて図ることも重要である。
- 一方、上記に関する内容の充実を図る際、調整授業時数制度も見据え、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る必要がある。

エ. 社会参画意識に関する課題

- 今次改訂において、小・中・高等学校の各段階を通じて教科等横断的な視点から主権者教育に関する内容が充実されたが、一部の教科等では社会の一員としてのよりよい社会づくりの意識に課題があり、社会との関わりを実感できる学習活動が不十分ではないかといった指摘がある。（学習指導要領実施状況調査（R4～6年度））
- 18歳の意識調査において、当事者意識は上昇傾向にあるものの、諸外国と比較すると低い水準にある。（18歳の意識調査（日本財団、2026年4月6日））また、直近の衆議院議員総選挙における全体の投票率（56.26%）に比べて、10代の投票率（43.45%）は低い状況が見られる。（総務省）
- また、昨年の参議院議員通常選挙等を対象にしたSNS情報の投票行動等への影響に関する調査において、若い世代ほどSNSの情報が投票先に影響を与えていること（都議会議員選挙・参議院選挙2025有権者アンケート（日本総合研究所未来価値研究所政治人材バンクプロジェクト、2025年8月19日））、18歳以上を対象にした調査において、多くの人がオンラインコンテンツについての改ざんや誤情報になることに懸念をいっているなどの結果も見られる。（フェイク情報への懸念と生成AIの影響についてのグローバル調査（アドビ株式会社、2024年6月25日））
- 高等学校における外部機関との連携状況については、第1から第3学年において、選挙管理委員会との連携は約20%、地方公共団体との連携は約7%、関係団体・NPO等との連携は約3～5%など必ずしも高くない状況が見受けられる。（主権者教育実施状況調査（R7年度））
- 一人一人の自己決定権を尊重し、社会参加を促進する観点から、「こども基本法」や成年年齢の18歳への引き下げを踏まえた、主権者教育のさらなる充実が求められる。社会参加に関わっては、SNSや生成AIの普及などが選択・判断に影響を与えることがあることも踏まえる必要がある。特に、SNSの活用により取り返しのつかない事態に発展するリスクがあることをあまり意識せずに安易に活用するケースもみられる。このようなことから、情報モラルやメディアリテラシーの重要性が一層高まっていることを踏まえる必要がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性③

オ. デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 社会科の教師におけるICT端末の活用の場面が、「共通の資料を大きく提示する場面」や「インターネットで自由に調べる場面」が中心となっており、論点整理でも指摘されているように、ICTの活用が教具的発想に留まっている状況が見られる。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、ブラウザにAIが実装され、検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストしている児童生徒に対して、適切な指導がなされていない実態もみられる。収集した情報の信頼性を確認する技能を一層高めるとともに、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題となっている。

カ. 学校外施設・人材との連携に関する課題

- 社会が多様化・複雑化していく中で、外部機関や地域人材等の協力を得ることや、デジタル環境も有効活用すること等により、児童生徒が実感をもった学習活動を行うことの必要性が高まっている。
- 特に中学校や高等学校における「博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業」の実施状況が、20%前後となっており、地域の素材や人材の活用割合が必ずしも高くない状況が見受けられ、こういった点も実感をもった学習活動に繋がっていない要因の1つであるとの声もある。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度）、高等学校学習指導要領実施状況調査（R6年度））
- 一方で、外部人材等の活用にあたり、必ずしも指導の目的や教育的効果等を十分に踏まえ、形式的な連携にとどまっている場合も見受けられる。
- また、学校周辺の地域の資源（公共施設、商店や文化財など）や人材、学校外施設などの活用は、地域を題材とした学習活動を実施する上で効果的である一方、以下の課題も見受けられる。
 - 学校の学習に協力する地域人材の情報不足や、人事異動等により活用し得る人材が引き継がれない状況もあること
 - 時間割編成や引率教員の人数などの制約もあり学校外施設の活用等が難しい状況や、地理的制約などにより現地に行くことが難しい状況もあること
 - 1人1台端末を活用する中、博物館や資料館、図書館等と接続して、デジタルコンテンツを活用した学習などの工夫も見られるが、必ずしも十分活用されているとは言えない状況があること

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性④

(3) 改善の方向性

ア. 「深い学び」の実現

- 今次改訂で進めてきた方向性に一定の成果が見られることを踏まえつつ、社会情勢の変化の激しい時代に対応できる資質・能力を育成することが重要である。
- 特に、単なる知識を網羅的に学習するのではなく、社会科等における学習がより探究的な学びとなるよう、学習上の課題（問い）に基づく、問題解決的、課題解決的な学習を充実することで、民主的で持続可能な社会の創り手を育成することが必要である。
- このため、小学校・中学校・高等学校を通じた目標や見方・考え方、学習内容の系統性・体系性の見直しを行うとともに、高次の資質・能力を新たに設け、単元づくりのイメージを教師が持てるようにすることで子供たちの「深い学び」の実現を目指す。

イ. 学習指導要領及び教科書の精選

- 学習指導要領について、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る必要があることを踏まえ、各学校段階で重複する事項を扱う際の精選や、学習指導要領の構造化等の見直しによる整理を行う。
- 教科書についても、知識を網羅的に記載するのではなく、高次の資質・能力の獲得に必要なものに厳選したり、学習上の課題（問い）を充実したりすることなどで、児童生徒の探究的な学びにつながるような見直しを促進する。このことにより、教科書を網羅的に教えるのではなく、学習指導要領の趣旨に沿った指導を推進するなど教科書「を」教えるから、教科書「で」教える学習への転換を促進する。

ウ. 社会情勢の変化を踏まえた教育内容の見直し

- グローバル化の進展、国際情勢の変化、人口減少・少子高齢化、内なる国際化、自然災害の激甚化や生成AIをはじめとするデジタル技術の発展など、社会を取り巻く課題は大きく変化している。また、人権に関する法制度の整備や多様性を尊重・包摂する社会づくりの重要性も高まっている。
- このため、社会科等において、持続可能な社会の形成という観点から、これらの現代的な諸課題を適切に扱い、課題の背景や構造を理解するとともに、解決に向けて考察する力を育成するために内容についての見直しを行う。

エ. 主権者教育の促進

- 社会参画意識を高めることが求められる中、若年層の政治参加や社会への当事者意識について、改善傾向は見られるものの、依然として課題が見られる。
- このため、子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動をより一層重視するとともに、外部機関との連携・協働や他教科との連携強化を促進する。その際、選挙管理委員会や地方公共団体、NPOなどの外部機関との連携を進め、多様な立場の人々との協働を通して、合意形成や意思決定の過程を学ぶ機会の充実を図る。

オ. 課題を追究・解決する学習の充実

- 現代社会では、生成AIやSNSの普及により、膨大な情報が容易に得られる一方で、その真偽や信頼性を適切に判断する力が求められている。
- このため、資料や情報を収集するだけでなく、その真偽や意図、背景等をこれまで以上に把握し、その信ぴょう性等を検証し、根拠に基づいて自らの考えを形成する力を育成することが必要である。
- さらに、自らの考えを批判的に見直しながら、他者と対話し、より適切な判断につなげる学習過程を充実することで、社会科等における深い学びの実現を目指す必要があることから、「社会的事象等について調べまとめる技能」の見直しを行う。
- 身近な題材を扱うことで実感を持った学習を進めるため、体験的な学習を含む地域を題材とした学習活動の充実を図る。

2. 目標及び見方・考え方のあり方①

(1) 目標のあり方

【補足イメージ1-①～1-④：21～24ページ参照】

ア. 基本的な考え方

- 各科目の背景にある学問的な知見に基づく社会的事象に関する概念を理解し、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、資料や概念に基づき、課題発見・解決できる力や自らの考えを批判的に捉え直す力を養うことによって、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する。
- 見やすさや分かりやすさを踏まえた改善を図るため、箇条書き等により、できるだけ簡潔な表記で示す。

イ. 柱書のあり方

- 教育基本法等の理念を踏まえつつ、骨格は引き続き小中高等学校を通じて共通のものとした上で、発達段階を踏まえた表現とする。
- 現行の「グローバル化する国際社会」という記載は、将来社会を見据えた際に、地域社会から国際社会まで（地域・国・世界）含めて、よりよい社会の形成が一層求められていることを踏まえて記載を見直す。
- また、「主体的に生きる」ことについても、より多様な他者と「協働的に」生きることが求められることを踏まえて、あわせて記載を見直す。その際、教科の目標であるという位置付けを踏まえ、できるだけ端的な表現とする。

ウ. 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のあり方

＜①知識及び技能＞

- 知識及び技能の深い意味理解を促す観点から、「社会的事象に関する概念」の理解を充実する方向で見直す。
- その際、ここでの「概念」の理解とは、学習する知識を統合して到達する理解、すなわち、指導における単元（内容のまとまり）の知識の獲得目標となるものと捉える。
- 真偽が定かではない多様な情報が行き交う社会において、調査や諸資料から収集した情報の信ぴょう性を確認することを重視する観点から、発達段階も踏まえ、小中学校では、「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめる技能を身に付けること、高等学校では、批判的に情報を扱う視点をより一層重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付ける方向で見直す。

＜②思考力、判断力、表現力等＞

- 社会科等の学習過程の特質として、教科目標において「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、資質・能力を育成することが明記されている中で、より一層深い学びを具現化する観点から、自らの考えを批判的に捉え直す力の観点を追記する方向で見直す。

＜③学びに向かう力、人間性等＞

- 論点整理における「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」、「他者との対話や協働」、「学びの主体的な調整」、「学びを方向付ける人間性」の4要素を基に整理する。

2. 目標及び見方・考え方のあり方②

(2) 見方・考え方のあり方

【補足イメージ2-①～2-③：25～27ページ参照】

ア. 社会科等における捉え方

- 従前の「見方・考え方」として、小学校社会科では「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」としていた。
- このうち、「社会的事象」は社会科が扱う事象や対象を示すものであり、学ぶ「対象」と位置づけられる。また、「位置や空間的な広がり」等については、学ぶ上で着目すべき当該教科等の固有の物事を捉える「視点」と位置付けられる。さらに、「比較・分類したり」等については当該教科等の固有の考え方や判断の仕方として「方法」と位置付けることができる。
- 新たな「見方・考え方」においては、各教科等を学ぶ本質的な意義を端的に示す観点から、「対象」と抽象的な「視点」と「方法」を示すこととし、「高次の資質・能力」においては、具体的な「視点」と「方法」は一体的に記載する。
- その際、従前の「見方・考え方」で示していた「各教科等の学びの深まり」を促す事項は、「思考力、判断力、表現力の総合的な発揮」の中で内容に即して具体的に示すこととする。
- なお、従前、社会科等において「見方・考え方」として扱っていた事項は、既に現場においても広く浸透していることを踏まえ、新たに高次の資質・能力に位置付ける「学びの深まり」を示す要素を呼称する際には、継続性を確保する観点から、例えば、「社会的な視点や方法等」として呼称する。

イ. 見直しに向けた考え方

<①当該教科で扱う事象や対象>

- 現実社会では、社会的事象に加え、「事象」を表象するものとして「言説」も含め、多様な情報が混然一体として存在するものであることから、「社会的事象や言説」として整理する。

※表象としての「言説」はあくまでも思考の契機であり、実際には「事象」との関係の中で扱うべきものであることに留意

※「事象」と、その事象についての多様な表現である「言説」は、同次元ではないことを前提とする

<②当該教科固有の物事を捉える視点>

- 地理、歴史、公民の各分野固有の抽象的な「視点」として、高次の資質・能力との違いも踏まえつつ、整理する。（22ページ参照）

<③当該教科固有の考え方や判断の仕方>

- 新たな「見方・考え方」では、各教科等の資質・能力が身につく中で、様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生につなげていけることを示す。
- このことに加え、社会科等においては、社会的事象や言説について、様々な視点から課題を考え、確かな根拠に基づいて公正に判断することが重要であることから、新たに「見方・考え方」では、「よりよい社会の形成」に向けて社会に見られる課題を「多面的・多角的」に考えるとともに、確かな根拠に基づき、「公正に判断」することとして整理する。

3. 資質・能力の構造化のポイント

(1) 高次の資質・能力のあり方

- 高次の資質・能力（「（知識及び技能の）統合的な理解」「（思考力、判断力、表現力等の）総合的な発揮」）については、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うものである。
- また、「統合的な理解」「総合的な発揮」による構造化は、「深い学び」の実装に向けた授業づくりを支え、学習過程の改善に資するとともに、学習指導要領等へ示す個別の学習内容を「各教科等の本質的な理解の獲得を重視する観点から真に必要なものか」という視点からの見直しに資するものである。
- このため、社会科等における「統合的な理解」「総合的な発揮」については、以下の「示し方」や「考え方」に基づき示すこととする。

ア. 示し方

- 「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師がもてるようにするため、高次の資質・能力については、原則、各分野・科目の各内容項目（中項目）ごとに構成する。その際、各分野・科目の内容構成の特質に応じ、一定の違いを許容する。
- また、特に「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、各分野・科目の学習上の特性や系統性も踏まえて、考察・構想・表現の学習過程について段階的に示すものとする。
- 従前の「見方・考え方」で示していた「各教科等の学びの深まり」を促す事項は、「総合的な発揮」の中で内容に即して具体的に示すものとする。
- 内容項目に該当事項がない場合は、当該資質・能力の深まりを可視化する「知識及び技能の統合的な理解」等については示さない。

イ. 考え方

- 「統合的な理解」では、社会的事象に関する個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる概念として習得された状態を示している。これにより、個別の用語の暗記にとどまらず、それらの意味が結びつけられて統合的に理解できるような授業への改善を教師に促す。
- 「総合的な発揮」では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の社会的な視点や方法等を示している。これにより、これまで社会科において「見方・考え方」と捉えられてきたものの具体化を図るとともに、知識・技能が統合的に理解されるために重要となる、学習過程を通じて追究する「本質的な問い」を教師が構想しやすくする。
- また、「総合的な発揮」では、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる社会の創り手を育成することを重視する。このことを通して、社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察したり、社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめたりする観点からの指導を促進する。

【補足イメージ3-①～3-②：28～29ページ参照】

【補足イメージ4-①～4-④：30～33ページ参照】

【補足イメージ5-①～5-⑤：34～38ページ参照】

【補足イメージ6-①～6-③：39～41ページ参照】

【補足イメージ7-①～7-②：42～43ページ参照】

※高次の資質・能力の具体的なイメージは、補足イメージ3～6のとおりだが、WGでのイメージをもとに、取りまとめの趣旨を踏まえ、告示までに文部科学省において引き続き一層わかりやすいものになるように検討すべきである。

(2) 表形式化の形式

- 社会科等については、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等を一体的に育成することが重要であることから、「並列パターン」で構造化する。

4. 内容の改善のあり方①

(1) 系統性・体系性の整理

ア. 共通

- 単なる知識を網羅的に学習するのではなく、社会科等における学習がより探究的な学びとなり、児童生徒の本質的な理解を深めるため、学習指導要領解説において、学習上の課題（問い）等を更に充実することで、社会科等における学習がより課題を追究したり解決したりする活動を重視し、社会認識の育成に向けた授業づくりに繋げる。その際、主権者教育や人権教育、消費者教育など、他教科等と関連が深い内容を中心に、関連する教科等（家庭科、道徳、特別活動、総合的な学習・探究の時間等）との連携を推進する。

イ. 小学校段階 【補足イメージ8、10：44、46ページ参照】

- グローバル化する国際社会を踏まえ、児童の思考、認識の拠点を発達の段階に合わせて、身近な地域から始め、国際社会へと拡げていくという考え方は継続しつつ、グローバル化など地域社会の変化を含めた内容に見直す。

ウ. 中学校段階 【補足イメージ9、10：45、46ページ参照】

- 小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現するため、中学校社会科に地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける分野横断の単元（A・B・C）を設け、小学校社会科や高等学校地理歴史科・公民科とより円滑な接続を図る。その際、分野横断のねらいを実現できるようにするため、現行の各分野の内容の一部あるいは全部を移行し、その上で各分野の内容の改善を図る。
 - 小学校社会科の学習を踏まえた、中学校社会科への学習の動機付けを行う分野横断の単元「社会へのまなざし（仮称）」を各分野の既存の内容を統合・整理して設ける。
 - 地理的分野と歴史的分野の学習を踏まえた、公民的分野の学習への動機付けを行う分野横断の単元「私たちと社会（仮称）」を各分野の既存の内容を統合・整理して設ける。
 - 中学校社会科のまとめとして、生徒が課題を探究する活動を通してよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を考察・構想する分野横断のまとめ単元「よりよい社会を目指して（仮称）」を位置づけ直す。

※ 現行の教科書は、分野別で構成されており、今後、分野横断の内容をどのように扱うか検討する必要がある。

エ. 高等学校段階

- 単元（個別の事象を題材に、段階的に思考を深めながら統合的に理解する学習上の構造）を設計しやすくするため、学習指導要領の内容の各項目が互いに関連をもち、単元を構造化する枠組みとして機能することを明確にする。

<①地理歴史科>

- 高等学校地理歴史科においては、小学校や中学校の学習を踏まえた学びを深めるために科目全体の見直しをもたせる導入単元への見直しや探究的な学びの促進を図る。

【補足イメージ11-①、11-②：47～48ページ参照】

a. 地理総合

- 大項目Aを再編して、地理を学ぶ意味や意義に気付き、科目の学習の見直しをもつための導入単元「地理と私たち（仮称）」へ見直す。
- その際、中学校との接続を踏まえ、地理総合の導入として、景観観察で収集した情報をGISを活用して可視化することで、地理の学習と実社会とのつながりを感じられるようにする。
- また、導入単元と各中項目を関連付け、生徒が科目のまとめであるC(2)「生活圏の調査と地域の展望」まで全体を見通して学習できるようにする。あわせて、GISについて、その後の学習においても生徒が主体的に活用できるようにするために、解説に事例を示したり、活用する場面を設定する。

b. 地理探究

- 「地理探究」のB(2)「現代世界の諸地域」を再編して、探究的な学びを促進する新項目「現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）」へ見直す。

4. 内容の改善のあり方②

- ・ 大項目B(2)の解説には「世界全体を隈なく取り上げるものではないことに留意する」という記述があり、この趣旨をより徹底し、一定のテーマで区分された地域を対象として、課題を設定し、地誌的に考察するとともに、地理的な諸課題の解決の方向性や今後の望ましい地域の在り方を展望する学習活動とする。
- ・ 中学校社会科、地理総合、地理探究を通じた探究的な学びの系統性・体系性を重視する。地理探究では、特に大項目B(2)とCの学習の接続をより強めることで、大項目Cの学習を充実させる。

c. 歴史総合、日本史探究、世界史探究

- 高次の資質・能力とのつながりを明確にしながら、生徒が学習内容に対する課題意識を問いとして表現し、その問いを生徒と教師がその後の学習で生かすことについて明記する。
その上で、各単元のまとめにおいて、日本史探究では、諸事象の解釈や歴史の画期などから生徒が形成した観点、世界史探究では、世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉えるために諸地域を構造的に読み解く観点を踏まえるなどして、探究的に学習した結果を表現することについて明記する。
- 学習上の課題（問い）の設定の方法、資料活用の具体例、生徒自身による問いの表現やその活用、探究的な学びと生徒が自ら行う探究活動との関連などについて、解説においてより分かりやすく記述する。
- 日本史探究や世界史探究の授業が、探究的な学びへの改善に繋がるよう、国において、高次の資質・能力を踏まえ、学習指導要領の内容項目において、知識を身に付けることとされている事象の関連性の整理を一層進めるとともに、教科書発行者に対して、上述で示した学習上の課題（問い）の設定方法などの充実内容やその趣旨等を踏まえた教科書編集がなされるよう促す。

<②公民科> 【補足イメージ12-①～12-③：49～51ページ参照】

- 高等学校公民科においては、小学校や中学校の学習で習得した視点や方法（考え方）を用いるなどして探究する学習を一層推進する工夫や手立てを充実する。

a. 公共

- A「公共の扉」で学習する「選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的な原理」を理解し、それらをより効果的に用いられるように、B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」及びC「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」において、次のような改善を図る。
 - ・ 内容のまとめとして現実社会の事柄や課題を関連づけて捉えた主題を設定しやすくするために、13の事柄や課題を10の事柄や課題に精選する。
 - ・ 人間や社会の在り方を捉える視点や方法（考え方）を用いて考察したり構想したりする活動を通して、現実の具体的な社会的事象と主要な概念とを関連付ける観点からわかりやすく示す。
 - ・ 他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を行う際には、詳細な制度や仕組みの解説ではなく、本来当該活動で目指している基本的な原理に焦点化し利益衡量を図るよう示す。
- 社会参画意識の涵養に関する指導の質的な充実を図るために、社会の現状を的確に把握することや、専門家や関係諸機関などの連携・協働を図ることを一層推進できるような工夫を示す。

b. 倫理、政治・経済

- 探究する学習で扱う諸課題について、社会の情勢を踏まえた見直しを図る。※諸課題については、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択
- 各科目の趣旨やねらいのもとで、公共の学習を踏まえ、倫理では、倫理学、哲学、宗教等の思想を通して、人間としての在り方生き方について思索を深め、政治・経済では現実社会の制度や課題について探究を深めるといふ、それぞれの科目の特質がより明確に示されるよう、公共と倫理、政治・経済との関係性をさらにわかりやすく示す。

4. 内容の改善のあり方③

(2) 内容の精選

ア. 学習指導要領の精選

- 全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る必要があることを踏まえ、学校段階での重複する複数の事項を扱う際の精選や構造等の見直しによる整理のほか、教科書の用語の精選も含めた教科書の内容の精選の在り方（※「イ. 教科書の内容の精選」を参照）も併せて進めることにより、多様な子供たちの学びを確実にするための余白を生み出す。具体的には、以下の方法で内容の整理を実施する。その際、調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する。

<①小学校>

- 内容の中に重複事項がある際の精選
 (例) 第4学年の「県内の特色ある地域の様子」の学習
 「県内の特色ある地域の様子」については、「伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域」「国際交流に取り組んでいる地域」「地域の資源を保護・活用している地域」の三つの地域を同様に扱うこととしているが、二つの地域に選択する方向で精選を図る。
- 総合的な学習の時間（情報の領域）の創設による役割分担での精選
 (例) 第5学年「我が国の産業と情報との関わり」の学習
 情報の領域において、情報技術のメディアが発する情報の特性等を体系的に扱うことで、情報を活用する産業の役割についての学習に重点化を図る。

<②中学校>

- 諸地域を扱う際の、他地域への応用による精選
 (例) 地理的分野「C（3）日本の諸地域」
 日本の諸地域については、①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象の5つの考察の仕方を基に、いくつかの地域について学習することとしている。その際、考察の仕方が重複する二つの地域を関連させて学習することで、考察する地域数を減らす方向で精選を図る。
- 政治・社会と文化を一体的に捉えた時代の特色の整理
 (例) 歴史的分野において、文化、政治、外交、社会の状況等を一体的に扱いながら各時代の特色を理解できるように整理する。それにより、様々な歴史的事象を相互に関連付けながら、総合的な発揮に示された「時代の特色を大観して表現する」ことを目指すとともに、学習の構造化・焦点化により精選を図る。
- 分野横断における統合・整理
 (例) 分野横断B
 現行学習指導要領の地理的分野・歴史的分野のそれぞれにある地域を題材とした学習活動（地域調査含む）に関わる内容について、身近な題材を扱うことでより実感を持った学習を進める観点から、分野横断Bの中で地理・歴史両面から一体的に扱うことにより精選を図る。
- 情報・技術科の創設による役割分担での精選
 (例) 公民的分野の「私たちと現代社会」における情報化の影響などに関する学習
 情報・技術科において、情報化やAI等の先端技術の進化に伴う現代社会に与える影響を体系的に扱うことで、それらを活用することに伴う社会の変化や課題を考察する学習に重点化を図る。

4. 内容の改善のあり方④

<③高等学校>

- 上位概念への統合による整理
 (例) 「日本史探究」の中項目の知識及び技能に明記されている内容項目のうち、近現代で取り扱う内容項目について、現行で新たに導入した歴史総合の取り扱いを踏まえ、学習指導要領でより上位の概念的な理解を実現できるよう学習の構造化・焦点化による精選を図る。それらを踏まえ、教科書等の記載も含め、個別の用語について精選を図ることができるようにする。
- 現実社会の事柄・課題の統合による整理
 (例) 公共の「B自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」
 ア(ウ)「職業選択」と「雇用と労働問題」の2つの事柄・課題を「雇用と労働問題(職業選択を含む)」にまとめることにより精選を図る。

イ. 教科書の精選

- 教科書の内容の精選にあたっては、以下に掲げるように用語の精選や高次の資質・能力を踏まえた見直し、学習上の課題(問い)の充実、図や資料の活用の在り方の見直し等を一体的に進めることとし、新しい学習指導要領を告示した後、すみやかに教科書会社への説明会等を実施し、今回の社会科、地理歴史科、公民科における改訂の趣旨等とあわせて、丁寧に説明する。

<①用語の精選>

- 社会科等では、入試の影響もあり、用語の暗記量の多寡により評価される風潮が根強くあり、こうした学習観も背景に、特に中学校、高等学校のそれぞれの教科書において網羅的に内容が記載されることにより、各学校段階での内容に重複が発生し、教科書の分量を肥大化させている要因の一つとなっている。
- このため、次の方向性(以下、「教科書等における用語等の精選方針(仮称)」という)に基づき、用語の精選を図るとともに、その趣旨を徹底するため入試の改善を担保する方策について引き続き検討する。

<検討イメージ(案)>

- 現状と課題
 - ・ 学習指導要領と教科書等の差分や入試問題の分析
- 方向性
 - ・ 高次の資質・能力を踏まえた用語の精選
 - ・ 課題(問い)を解決するために必要な用語への精選

※ 中学・高校の教科書編集に間に合うよう、令和9年秋までに一定の方向性を示すことが求められる。

4. 内容の改善のあり方⑤

＜②高次の資質・能力を踏まえた内容の精選＞

- 「高次の資質・能力」を活用することにより、個別的な事象を整理する工夫などを行い、探究的な学びの充実に向かう様々な工夫・改善を行うよう促す。
- その際、「日本史探究」や「世界史探究」などの教科書に記載されている歴史用語については、網羅的に掲載するのではなく、高次の資質・能力を踏まえて編集を行うことが重要である旨を周知する。なお、この方向性については、今後検討する「教科書等における用語等の精選方針（仮称）」において示す。

＜③学校種の特性を踏まえた整理＞

- 例えば、歴史領域では、小学校で先人の業績や優れた文化遺産、中学校で我が国の歴史の大きな流れ、高等学校で歴史の変化や展開等に関わる諸事象について学ぶこととなっていることを踏まえ、以下の見直しを行う。
 - 小学校の歴史領域に関する学習については、世の中の動きを人物の業績や優れた文化遺産を通して歴史を大まかに理解するという構成であることを踏まえ、事象を網羅的に取り扱うものではないことから、教科書が通史的な構成とならないよう促す。
 - 中学校及び高等学校段階の学習について、今回の議論で示された高次の資質・能力を踏まえ、学習の構成を一層工夫し、これまでの既習事項については軽重をもって扱うことを促す

＜④学習上の課題（問い）の充実＞

- 知識を網羅的に記憶するのではなく、本質的な理解や探究的な学びが充実するよう、学習指導要領解説において、学習上の課題（問い）をベースにした記載を充実することにより、社会科等における教科書の在り方を大きく転換する。また、デジタル学習基盤も活用した定期試験における記述式問題の出題や、高校入試、大学入試等の改善を促す。

- これらは「知識及び技能に関する統合的な理解」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」を重視した授業づくりを実質的に後押しすることに繋がるものと考えられる。

（例えば、「歴史総合」の解説に記載されているような明確かつ端的な問いについて、「日本史探究」や「世界史探究」でも同様の観点から充実することにより、教科書の改善を推進する）

【「歴史総合」の解説における記載例】

○「第一次世界大戦の展開」の問い

「あなたは、第一次世界大戦が長期戦となり、未曾有の被害が発生したことについて、その最も大きな要因は何だと考えるか」

○「冷戦下の地域紛争」の問い

「あなたは、地域紛争（ベトナム戦争や中東戦争）はその地域にどのような課題を残したと考えるか」

＜⑤図や資料の活用の在り方の見直し＞

- 地図帳や副教材（資料集）の活用やデジタル学習基盤の整備により、児童生徒が自ら情報収集できる環境であること等を踏まえ、教科書編集の際における掲載する写真や図などの資料の在り方を整理する。その際、教科書には信頼性の高い資料を掲載する役割があることについても留意する。

※上記の見直しにあたっての留意すべき視点について、「教科書等における用語の精選方針（仮称）」を検討する中で示すこととする。

4. 内容の改善のあり方⑥

(3) 内容の充実

- 社会情勢の変化等を踏まえ、持続可能な社会の創り手として求められる力をより一層育成するため、実行可能性にも留意しながら、①グローバルな協調や競争に関する世界共通の課題や、②社会構造の変化に伴う我が国特有の課題等の観点などについて、次の視点から必要な見直し（すでに学習指導要領等において示されている項目も含む）を行う。

①グローバルな協調や競争等に関する視点

- ・政治的・経済的な力関係の変化や地域紛争の動向等を含む国際情勢について、我が国との関係性を踏まえ、多面的・多角的に捉える視点
- ・自然災害や防災、環境（海洋を含む）に関する内容の取扱い
- ・生成AIをはじめとするデジタル技術の進展が社会にもたらす意義や影響に関する視点
- ・国際社会における我が国の役割や国際協力の在り方など国際的な枠組みの中で捉える視点 等

②社会構造や国内情勢の変化に関する視点

- ・グローバル化の進展に伴う地域社会の変化を、身近な事象と結び付けて捉える視点
- ・食や農林漁業を取り巻く状況の変化や、食料の合理的な価格形成や食料安全保障に関する内容の取扱い
- ・社会制度教育の意義・役割に関する内容の位置付け
- ・金融経済の仕組みや機能に関する理解の視点
- ・自衛隊が果たしている意義・役割を踏まえた取扱い
- ・領土に関する教育の発達段階に応じた取扱い
- ・経済安全保障など多様な安全保障の概念や意義・役割、それに影響を与える構造の変化に関する視点
- ・北朝鮮当局による拉致問題の内容の取扱い

- ・アイヌに関する理解について、関係法令(※1)の趣旨を踏まえた取扱い
- ・子ども基本法(R4)、障害者差別解消法(R3改正)(※2)、理解増進法(R5)(※3)等を踏まえた人権に関する内容の取扱い
- ・旧優生保護法(※4)やハンセン病(※5)に関する歴史や経過、被害の実態を踏まえた正しい理解に基づく人権教育(個人の尊重や人権の尊重の意義の理解と関連付けて扱う)に繋げるため、他教科との連携も含めた必要な取扱い 等

③その他

- (※1) アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律
- (※2) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
- (※3) 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律
- (※4) 令和6年9月30日に原告団・弁護団・優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会(優生連)・国の間で、偏見差別の根絶に向けた施策の推進等に取り組むことなどを定めた「基本合意書」を締結。同年12月27日に総理が推進本部長である「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた対策推進本部」において、「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画」を決定。その中に、「旧優生保護法の被害を踏まえた対応」として「今後の教育課程における取扱いについて検討する」旨が明記。
- (※5) 令和元年7月12日に、人権啓発、人権教育などの普及啓発活動の強化に取り組むこと等に言及した内閣総理大臣談話を公表。令和5年3月に厚生労働省主催の「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」において「報告書」を公表。その中に、「教科書」や「学習指導要領」にハンセン病問題を書き込むことなどが明記。

注：上記①と②は整理上の分類であり、各項目によっては重複する部分もある。

- 上記に掲げる内容の充実に際しては、研修等を通じた教師の指導力向上が必要である。

4. 内容の改善のあり方⑦

(4) 主権者教育の促進

ア. 基本的考え方

- 主権者教育は、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を発達段階に応じて、身に付けさせるものとされている。

※平成28年6月「最終まとめ～主権者として求められる力を育むために～」(「主権者教育の推進に関する検討チーム」)

- 主権者教育は、国民主権を担う公民として、国民が自らの意思で政治に参加し、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことを目指していることを改めて理解することが重要である。
- 社会参画意識を一層向上させるため、児童生徒自身が有権者となること、または有権者であることを意識し、自らの判断で権利を行使することができるように、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、具体的かつ実践的な指導を行うとともに、外部機関等も活用した実践的な活動をより充実する方向で見直す。

※ 上記の指導にあたっては、次ページに掲げる通知等を踏まえ、政治的中立性を確保することが重要である。

- その際、主権者教育は学校教育全体に関わるものであることを踏まえ、これらの取組を総合的な学習・探究の時間や特別活動と連携して実施するとともに、いわゆるメディアリテラシーの涵養も含め、各教科を通じて主権者としての適切な判断に必要な資質能力を育むことも重要であることに留意が必要である。

- 特に、令和5年度から施行されているこども基本法において子供の権利の保障、意見表明及び社会参画の機会の確保等が示されていることを踏まえ、特別活動(※)とも連携しながら、子供たちが主体となって実感を持って活動する機会の充実を図る。

※ 特別活動WG取りまとめにおいては、「児童会、生徒会活動の内容に、学校運営に対する意見表明に関わる記載を設けることが適当である」とされており、これらの取組と連携を図ることも重要である。

イ. 具体的な方向性

- 主権者教育は社会科、地理歴史科、公民科の全てに関連するものであり、その促進に向けては、学校の年間指導計画に位置付けるほか、a.主権者教育の取組を深めていく視点と、b.主権者教育の取組を広げていく視点を同時並行的に進めていくことが重要である。

<a. 主権者教育の取組を深めていく視点>

- 主権者として、合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会との関わりを意識する課題を設定し、社会の現状を把握して、社会生活に活かそうしたり、学習の成果をまとめたり振り返ったりする活動の推進(下に掲げる実践的な活動を推進する際に重視すべき視点)

- 子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動の推進(模擬選挙、模擬投票、模擬議会、模擬請願など)

※ 形式的な活動にとどまらず、多様な意見を交わしあった上で、合意形成を図るなど、社会科学習としての意義を踏まえた活動とすることが重要。その際、こども基本法の基本理念において、全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されることなどについて触れることも重要である。

※ 以上のような取組が充実されるよう、学習指導要領解説も含めて見直すことを検討する。

4. 内容の改善のあり方⑧

<b. 主権者教育の取組を広げていく視点>

- 選挙管理委員会や議会事務局、NPO法人等の外部機関等との円滑な連携・協働
- 他教科（特別活動、総合的な学習・探究の時間等）との連携強化

<指導上の留意事項>

主権者教育の実施にあたっては、平成27年10月29日の「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」の通知や令和8年4月7日の「学校における校外活動の安全確保の徹底等について」の通知で示した考え方に基づく指導を行うことは重要であり、国においてもその趣旨を引き続き周知する。

※ 上記の活動で情報収集等を行うにあたり、「社会的事象等について調べまとめる技能」を活用すること。

※ 外部機関等との連携にあたっては、従前から国が示している上記の指導上の留意事項を事前に共有するなど、共通認識を図ることが重要である。

- a及びbの視点と併せて、文部科学省において、各学校で実施する実践的な活動の取組がより円滑に実施されるよう、総務省や議会事務局、首長部局等と連携するなどの必要な対応を行う。

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方①

(1) 課題を追究・解決する学習の充実

【補足イメージ13：52ページ参照】

- 社会科等における「主体的・対話的で深い学び」をより一層推進するためには、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする「課題を追究したり解決したりする活動」を通じた学習を充実していくことが必要である。
- この活動（課題把握→課題追究→課題解決→新たな課題発見）では、課題把握の段階において、社会的な視点や方法等を用いた児童生徒中心の課題の設定が重要である。
- また、課題把握や課題追究、課題解決の段階においては、多様な立場からの様々な情報が溢れる現代社会の中で、自らの考察や意見形成、他者との議論などの根拠たりえる情報の吟味や活用の方法の獲得が喫緊の課題となっており、情報を収集し、読み取り、まとめる「社会的事象について調べまとめる技能」の見直しを行っていくことが必要である。
- さらに、新たな課題発見の段階では、生徒が自分の学び方、調べ方を振り返って、新たな問いを見出したり追究したりすることが重要である。

ア. 社会的事象等について調べまとめる技能の見直し

【補足イメージ14：53ページ参照】

- 社会科等における「社会的事象等について調べまとめる技能」については、技術の進展に伴いインターネット等で収集した情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することがこれまで以上に求められていることを踏まえ、収集した情報や読み取った情報、まとめた情報の信ぴょう性等を確認する新たな技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能）として位置付けた上で、現行の関連する内容を含め整理・充実する。その際、収集した情報の取扱いや情報の発信については、総合的な学習の時間における「情報の領域（仮称）」等の「情報技術の適切な取扱い」での学習と関連させることが重要である。

※ 情報の収集等にあたっては、インターネット等の活用のほか、図書や新聞等の活用も重要であることに留意する。

イ. デジタル学習基盤を活用した学習の充実

- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究・解決する活動」において、学習の質の高まりを促進するために必要な基盤として位置付け、以下の学習を踏まえて見直す。
 - a 課題把握：社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
 - b 課題追究：適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等、グループ内での活発な議論のための資料の共有等
 - c 課題解決：まとめレポートの作成や発表・共有等
- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

ウ. AI活用の考え方

- 社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的な考え方とする。
- 具体的には、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題であり、例えば、口頭試問の要素を取り入れる、GIGA端末のアンケートソフトのテストモードを活用して、ブラウザ閲覧や活用ができない環境下で自らの考えを根拠をもって記述させることなどが考えられる。

※「初等中等教育段階における生成の利活用に関するガイドライン」の改訂や、さらなる技術の進展など情報技術の変動性や陳腐化の可能性を踏まえた対応を行っていく必要があることに留意する。

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方②

(2) 地域を題材とした学習活動のあり方

- 小学校に比べて、中学校の地域調査の実施率が低い状況となっているが、AI等の技術が更に進展することが見込まれる中で、身近な題材を扱うことでより実感を持った学習を進めることは重要である。したがって、中学校社会科に新たに設ける接続単元において、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）をより一層推進するために、同活動を適切に位置づけ地理・歴史両面から取り扱うこととする。
 - 現行学習指導要領の地理的分野・歴史的分野の地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）に関わる内容について、歴史的分野や公民的分野との関連性も踏まえつつ、分野横断の単元として整理する。その際、分野横断の単元は中学校社会科の各分野を有機的に結び付ける単元であることを踏まえて、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）に取り組むことに留意する。
 - 地域の諸課題やその解決を見通した学習課題を設定することで、社会参画意識の向上に資する学習内容とする。
 - その際、地域人材を積極的に活用するなどの取組を行う。
 - なお、実施時期は、原則、3年間の学習の流れや公民的分野との関連を重視するものの、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の実施時期や方法については、柔軟に実施できる方向とする（学校行事等との連携も含む）。
 - 学校現場における教員の専門性や指導経験の違い等も考慮し、分野横断で実施する地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の授業構想・実施に資する多様な指導事例等の収集、整理、周知等を国が主体で行う。
- 現実社会から課題を捉える手法として、地域を題材とした学習活動（地域調査含む）を分野横断の単元を行う際の主な方法として位置づけるとともに、実施時期や方法は柔軟に扱うことを前提とした上で、特に地域を題材とした学習においてより高い効果が見込まれ、主たる実施単元となる分野横断の新単元（「私たちと社会」）に位置付ける。

※ これらの活動の実施にあたっては、紙とデジタルの併用など多様なリソースを活用した取組が求められる。

(3) 学校外施設・人材との連携

- 外部人材等を活用することにより、より実践的かつ多面的・多角的に物事を捉えられるようになるなど、児童生徒の学びがより深まることが重要である。こうした教育的効果を十分に引き出すため、外部人材等の活用にあたっては、まず教師自身が活用の目的・意義や教育的効果、児童生徒や学校の実態等を踏まえた上で、指導計画全体を設計するとともに、外部人材との綿密な事前打合せ等を行うことが重要である。また、学校のみで対応可能な範囲は限られることから、教育委員会等が主導した取組も重要である。そのため、以下に掲げるような取組について、学校だけでなく教育委員会等での好事例や取組のアイデアを含めて、国において整理した上で周知する。
 - 地域人材等の活用の一層の工夫と仕組みの構築
各学校において、学習で活用した地域の資源や地域人材、学校外施設などを継続的に活用できるように必要な情報を学校内で共有・引き継いでいくなどの工夫の例示
 - 行政機関・学校外施設との連携協力
学校を所管する都道府県・市町村教育委員会等において、学習に活用可能な学校外施設に関する情報を収集・整理し、各学校に周知することや、学校と学校外施設をつなげる仕組みなどの構築の例示
 - デジタルコンテンツ等の効果的な活用
情報化が進む社会において博物館や資料館等におけるデジタルコンテンツが充実している実態もある。実体験を伴う現地での学習の重要性は引き続き重視する必要性がある一方で、学校や地域、児童生徒の状況によっては、学校外施設への訪問が難しい場合もある。このため、1人1台端末を活用し、博物館や資料館、図書館等のデジタルコンテンツを効果的に活用した取組の例示
 - その他

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方③

(4) 学習評価のあり方

- 個人内評価として、「学びに向かう力の3要素」（初発の思考や行動・好奇心、学びの主体的な調整、対話や協働）を思考・判断・表現の過程で教師が一体的に見取ることとなるため、学習指導要領の改訂後に、社会等における「学びに向かう力、人間性」の目標から「学びに向かう力の3要素」を抽出し、それらから「見取る姿（仮称）」を速やかに検討する。
- その際、当該評価期間における思考・判断・表現の学習過程全体を通じて、「継続的な発揮」を見取ることができたことをもって、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することで一体的に評価する。

(5) 柔軟な教育課程の編成・実施

- 論点整理では、学習内容の学年区分について以下のとおり提言している。
 - 教科の系統性や発達段階を踏まえた指導内容を確保する役割を果たしており、教科書作成などの観点からも、引き続き一定の記載は必要。
 - その上で、児童生徒の実態に応じて必要があると判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確化すべき。
- これを受けた総則・評価特別部会では、以下の方向で検討がされている。
 - 「想定する指導学年を明示する場合は○学年相当という形で示す」とこととし、
 - 学年区分を示す場合であっても、児童生徒の実態に応じて必要があると学校が判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に指導が可能である旨を明示的に示す。
- 社会科等においても、発達段階を踏まえた学年区分は引き続き一定示しつつも、学年を超えた指導時期の前倒し・後ろ倒しを認めることにより、ある程度まとまった時間をつくりだすことが容易になり、その時間で、定着に課題のある内容の学び直しなどを実施することができる。なお、適切な学年区分の示し方や領域等に配当する時数の目安の示し方については、告示文を整理する中で検討する。
- 高等学校については、今般の教育課程の柔軟化の仕組み（単位の倍化、増単・減単をきめ細かく可能とする等）の下で、地理歴史科・公民科の諸科目の取扱いについては、多様性の包摂の観点も含め、総則・評価特別部会での議論を踏まえ、告示文での示し方を検討する。

【小学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

下線：現行からの変更点

柱書			
よりよい社会の形成に向けて、 <u>主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> 、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	・ <u>地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。</u> ・ <u>様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。</u> ・ <u>社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。</u> ・ <u>考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。</u>	・ <u>社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</u>

※学年別目標の在り方について

- ・ 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論において、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しない。

見方・考え方

- ・ 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【中学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

中学校	社会科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ，課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	地理的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>地理に関する課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	歴史的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>歴史に見られる課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	公民的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>現代社会に見られる課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 - 調査や諸資料から<u>確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、<u>自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	- 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、<u>地域の諸事象や地域的特色を理解する。</u> - 調査や諸資料から<u>地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	<u>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>地理的な課題の解決に向けて公正に</u>選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、</u>解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする</u>ことの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	- 我が国の<u>歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。</u> - 諸資料から<u>歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	<u>歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して</u>、多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に</u>選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、</u>解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、<u>国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする</u>ことの大切さについての自覚などを深め、<u>国際協調の精神を養う。</u>
	公民的分野	<u>個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める。</u> - 諸資料から<u>現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を<u>現代の社会生活と関連付けて</u>多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>現代社会に見られる課題について公正に</u>判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わろうとする態度を養う。</u> - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、<u>各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</u>

見方・考え方

- 【**地理的分野**】・社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【**歴史的分野**】・社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【**公民的分野**】・社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・地理歴史科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標		柱書	青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点		
高等学校	地理歴史科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	地理総合、地理探究	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>地理に関する</u> 課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	歴史総合、日本史探究、世界史探究	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>歴史に見られる</u> 課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
高等学校	地理歴史科	・ <u>地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>社会に見られる課題の解決に向けて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>	・ <u>地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</u>		
	地理総合	・ <u>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</u> ・ <u>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追及</u>、解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとする<u>大切さ</u>についての自覚などを深める。</u>		
	地理探究	・ <u>地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。</u> ・ <u>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>探究</u>しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとする<u>大切さ</u>についての自覚などを深める。</u>		
	歴史総合	・ <u>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>		
	日本史探究	・ <u>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>		
世界史探究	・ <u>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>			

見方・考え方	
【地理総合、地理探究】	社会的 <u>事象</u> やその言説を、 <u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係</u> などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、 <u>根拠に基づき公正に判断すること</u>
【歴史総合、日本史探究、世界史探究】	社会的 <u>事象</u> やその言説を、 <u>時系列、推移、類似や差異、因果関係</u> や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、 <u>根拠に基づき公正に判断すること</u>

【高等学校・公民科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標		柱書	青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点	
高等学校	公民科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	公共	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
	倫理	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて</u> 、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
	政治・経済	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現実社会に見られる複雑な諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	公民科	・ 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する。 ・ 諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	・ 現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。 ・ 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	・ 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・ 諸資料から収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 ・ 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</u>
	倫理	・ 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・ 諸資料から収集した、人間としての在り方生き方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	・ 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。 ・ 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</u>
	政治・経済	・ 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。 ・ 諸資料から収集した、社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	・ 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。 ・ 構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

見方・考え方

・ 社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直し（案）

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、 位置 や 空間的な広がり 、 時期 や 時間の経過 、 事象 や 人々の相互関係 などに着目して捉え、 比較・分類 したり 総合 したり、 地域の人々 や 国民の生活 と 関連付けたり すること	社会的事象やその言説を、 地域の空間的な広がり 、 時期 や 時間の経過 、 事象 や 人々の相互関係 などに着目して捉え、よりよい 社会の形成 に向けて課題を 多角的 に考え、 根拠 に基づき 公正 に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を 位置 や 空間的な広がり に着目して捉え、 地域の環境条件 や 地域間の結び付き などの 地域 という枠組みの中で、 人間の営み と 関連付ける こと	社会的事象やその言説を、 地域の空間的な広がり 、 地域の環境 、 地域間の関係 などに着目して捉え、よりよい 社会の形成 に向けて課題を 多面的・多角的 に考え、 根拠 に基づき 公正 に判断すること
高等学校地理歴史（地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、 位置 や 空間的な広がり に着目して捉え、 地域の環境条件 や 地域間の結び付き などの 地域 という枠組みの中で、 人間の営み と 関連付ける こと	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、 時期 、 推移 などに着目して捉え、 類似 や 差異 などを 明確 にしたり 事象同士 を 因果関係 などで 関連付けたり すること	社会的事象やその言説を、 時系列 、 推移 、 類似 や 差異 、 因果関係 や 現在とのつながり などに着目して捉え、よりよい 社会の形成 に向けて課題を 多面的・多角的 に考え、 根拠 に基づき 公正 に判断すること
高等学校地理歴史（歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、 時期 、 推移 などに着目して捉え、 類似 や 差異 などを 明確 にしたり 事象同士 を 因果関係 などで 関連付けたり すること	
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を 政治 、 法 、 経済 などに関わる 多様な視点（概念や理論など） に着目して捉え、よりよい 社会の構築 に向けて、 課題解決のための選択・判断 に資する 概念や理論 などと 関連付ける こと	社会的事象やその言説を、 政治 、 法 、 経済 などに関わる 概念や理論 などに着目して捉え、よりよい 社会の形成 に向けて課題を 多面的・多角的 に考え、 根拠 に基づき 公正 に判断すること
高等学校公民 （公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、 倫理 、 政治 、 法 、 経済 などに関わる 多様な視点（概念や理論など） に着目して捉え、よりよい 社会の構築 や 人間としての在り方生き方 についての 自覚を深める ことに向けて、 課題解決のための選択・判断 に資する 概念や理論 などと 関連付ける こと	社会的事象やその言説を、 倫理 、 政治 、 法 、 経済 などに関わる 概念や理論 などに着目して捉え、 人間としての在り方生き方 についての 自覚を深める ことや、よりよい 社会の形成 に向けて課題を 多面的・多角的 に考え、 根拠 に基づき 公正 に判断すること
高等学校公民 （倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、 倫理 、 哲学 、 宗教 などに関わる 多様な視点（概念や理論など） に着目して捉え、 人間としての在り方生き方 についての 自覚を深める ことに向けて、 課題解決のための選択・判断 に資する 概念や理論 などと 関連付ける こと	
高等学校公民 （政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、 政治 、 法 、 経済 などに関わる 多様な視点（概念や理論など） に着目して捉え、よりよい 社会の構築 に向けて、 課題解決のための選択・判断 に資する 概念や理論 などと 関連付ける こと	

（見方・考え方）
 ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会科等の新たな「見方・考え方」の整理の考え方

	地理	歴史	公民
新たな「見方・考え方」	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること ※公民は中学校公民的分野
高次の資質・能力	＜視点＞ 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容など ※ 地理教育国際憲章1992.8月において示されている、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域に関わる視点を地理学習の実態に合わせて修正 ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響など ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換など ※ 上記のほか、個人の尊重と法の支配、民主主義など内容によって異なる ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載

（見方・考え方）
 ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ

現行の記載

- 側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

見直し案

- 新たな「**見方・考え方**」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- 高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**。

<地理>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 位置や空間的な広がり
- 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
 - 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
 - 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
 - スケール（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
 - 変容（**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

<歴史>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 時期、推移など
- 類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなど
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
 - 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
 - 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
 - 背景や原因、結果や影響（**因果関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

高次の資質・能力について（小学校社会科）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と市区町村	市区町村の様子	- 身近な地域や市区町村は、自然条件や社会条件に伴い場所による違いがあることを理解する。 - 身近な地域や市区町村は、時間の経過に伴い、地理的環境とともに人々の生活も移り変わってきたことを理解する。	- 位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村内の場所同士を比較するなどして、市区町村の地理的環境について考え、表現することができる。 - 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地理的環境の変化と人々の生活に関連付けるなどして、市区町村の移り変わりについて考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
		地域に見られる生産や販売の仕事	地域に見られる生産・販売の仕事は、地域の人々の多様な願いを踏まえて様々な工夫をして取り組まれており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地域の生産・販売の仕事と人々の生活とを関連付けるなどして、生産・販売の仕事の特色について多角的に考え、表現することができる。
		地域の安全を守る働き	警察署や消防署などの関係機関や地域の人々は、事故や火災に連携して対処したり協力してその防止に努めたりしており、地域の人々の安全を守るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、関係機関や地域の人々の活動と人々の生活とを関連付けるなどして、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	私たちの生活と都道府県	都道府県の様子	都道府県には、自然条件や社会条件など地理的環境に特色があり、県内ではその特色を生かしたまちづくりや産業の発展に人々が協力して努めていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件や社会条件同士を比較したり、人々の生活とを関連付けたりするなどして、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
		人々の健康や生活環境を支える事業	飲料水の供給や廃棄物の処理など人々の健康や生活環境を支える事業は、安全で衛生的な仕組みで安定的に供給や処理を実現するため様々な工夫・改善が行われており、人々の快適な生活を支えていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、事業と人々の生活との関連付けるなどして、人々の健康や生活環境を支える事業の役割について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		自然災害から人々を守る活動	県庁など地域の関係機関や地域の人々は、協力して対処したり備えたりして防災・減災につとめており、自然災害から人々を守るために大切な働きをしていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、関係機関や地域の人々の活動と人々の生活とを関連付けるなどして、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		県内の伝統や文化、先人の働き	県内の伝統や文化は、地域の人々の努力により保存や継承されてきたことや、先人の働きが、地域の生活の向上や地域の発展に貢献したことなどを基に、今日の自分たちの生活はこれまでの人々の願いや努力の上に成り立っていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地域の人々の取組や先人の働きを総合するなどして、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。

高次の資質・能力について（小学校社会科）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と国土	我が国の国土の様子	我が国の国土は、地形や気候などの地理的環境に特色があり、人々の生活が自然条件に適応して営まれていることや、行政機関や地域の人々は、地域の自然条件に応じて、災害・公害の防止や森林保護など、国民の健康や生活環境を守る取組に努めていることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活とを関連付けるなどして、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		我が国の産業と情報の関わり（食料生産・工業生産・情報を活用して発展する産業）	我が国の産業は、自然条件や社会条件、社会の変化に対応しながら、産業に関わる人々の様々な工夫や努力により営まれており、国民の食料確保や国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、産業と国民生活とを関連付けるなどして、産業が果たす役割を考えたり、これからの産業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
	私たちの生活と国や国際社会	我が国の政治の働き	我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われており、国民主権の考え方の下、社会の変化に伴う様々な課題への取組を通じて国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、日本国憲法や政治の働きと国民生活とを関連付けるなどして、我が国の政治の働きについて様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。
		我が国の歴史上の主な事象	我が国の歴史において、先人の業績が国家や社会の変化に大きな影響を及ぼしてきたことや、優れた文化遺産が長い歴史をもち今日まで保存・保護されてきたことを基に、今日の自分たちの生活は、これまでの歴史を通じた先人たちの働きの上に成り立っていることを理解する。	時期や時間の経過などの視点に着目して、歴史上の主な事象を総合するなどして、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
		国際社会における日本の役割	我が国は、地球規模の課題の解決に向けて今後も国際社会の平和と発展のために責任と義務を果たす必要があることや、我々国民は、世界の人々との交流を通して異なる文化や習慣を尊重し合いながら、相互に理解を深めることが大切であることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係、時期や時間の経過などの視点に着目して、国際社会と我が国の国際協力や国際交流を関連付けるなどして、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。

高次の資質・能力について（中学校社会科（分野横断））

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（分野横断）	A 社会へのまなざし	中学校社会科は三つの分野で学習が進められ、それぞれに特徴的な視点や方法が存在し、それらを活用することで、社会的事象を多様な側面や立場から捉えることができることを理解する。	社会的な視点や方法等を用いて、地域の特色やその歴史、現代社会の仕組みや働きについて、具体的な事例を取り上げ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		B 私たちと社会	よりよい社会を形成することに向けて、地域や社会における課題解決のためには、地理的及び歴史的な視点や方法に加えて、現代社会を捉える視点や考え方を組み合わせて用いることが必要であることを理解する。	社会的な視点や方法等を用いて、地域で見られる諸課題について、持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域や過去の課題と比較・関連付けたりしながら、地域さらには社会の現在や未来の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
		C よりよい社会を目指して		社会的な視点や方法等を用いて、現代の社会的事象から課題を見いだし、社会参画を視野に入れながら、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちが主体的によりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。

高次の資質・能力について（中学校社会科（地理的分野））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（地理的分野）	A 世界の様々な地域	(1)世界の地域構成	大陸や大洋の形状や位置、地球上の位置の表し方、主な国々の位置関係など、世界を空間的な広がりから捉え、地球的規模で地理的な諸事象や現代世界の動向等を理解する基盤として、世界の地域構成の概略を理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、地球的規模の水陸分布や国家の位置関係などの地域構成を世界の空間的な広がりから大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)世界各地の人々の生活と環境	世界の多様な地域について、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けて変容したり環境に影響を与えたりすることを捉えることで、世界の人々の生活に多様性が生じていることを理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を、自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(3)世界の諸地域	世界の諸地域における自然及び人々の生活等の地域的特色を理解するとともに、地域的課題と地域的特色を関連付けて捉えることで、地球的課題は、地域的特色に応じて現れ方が異なったり変容したりすることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響と、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		B 日本の様々な地域	(1)日本の地域構成	国土の位置や領域の範囲など、我が国を空間的な広がりから捉え、日本の地理的な諸事象や現代世界の動向等を理解する基盤として、日本の地域構成の概略を理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、日本の位置や領域などの地域構成を日本の空間的な広がりから大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)日本の地域区分と諸地域	様々な主題から区分した日本の諸地域について、自然環境や産業などの地理的事象を有機的に関連付けて捉えることで、諸地域の特色や課題を明らかにすることができることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、適切な事象を取り上げ、日本の諸地域における自然的及び社会的な地域的特色を、他の事象や課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(3)日本の地域的特色と世界とのつながり	日本の地域的特色や課題を世界とのつながりを踏まえて理解するとともに、よりよい社会の実現に向けて、日本の地域的課題を世界的な視野から捉え、その解決に向けて考えることの重要性を理解する。	人間と自然環境との関係、地域間の結び付きやスケールなどに関わる視点に着目して、世界とのつながりを踏まえた日本の地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

高次の資質・能力について（中学校社会科（歴史的分野））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会 (歴史的分野)	A 近世 までの日 本とアジ ア	(1)古代までの日本	列島周辺地域との関係を背景に、日本列島において律令国家が形成されたことや、国際的な要素を吸収したり、国風化が進んだりするなどしながら固有の文化が形成されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。
			(2)中世の日本	列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力との関係の中で展開されるとともに、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(3)近世の日本	ヨーロッパ勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、幕府と藩による支配体制が確立され、様々な秩序が身分制の下で形成されるとともに、生産力の向上や国内外の情勢変化などによって幕府の政治や社会が変化し続けたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
	社会 (歴史的分野)	B 近現 代の日 本と世界	(1)近代(成立期)の日本と世界【仮称】	欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、日本において中央集権的な諸政策を通じて近代国家のしくみが形成されるとともに、近代的な文化や生活が取り入れられたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代(成立期)の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(2)近代(展開期)の日本と世界【仮称】	国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、日本で立憲制を基盤とした政治体制が成立するとともに、工業化などの近代産業や近代文化の発展、第一次世界大戦後の国際協調に向けた動向や国民の政治的自覚の高まりについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代(展開期)の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(3)現代社会へ向かう日本と世界【仮称】	冷戦やグローバル化する世界の動向を背景に、第二次世界大戦の惨禍と国際協調の意義や、民主化と再建、国民生活の向上の過程に生じた成果や課題について理解するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現在の社会とのつながりについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、現代社会へ向かう日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。

高次の資質・能力について（中学校社会科（公民的分野））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（公民的分野）	A 私たちと現代社会	(1)私たちが生きる現代社会と文化の特色	現代日本の社会を特色付ける情報化、グローバル化、少子高齢化の課題の理解に基づき、法、政治、経済などの仕組みを通じて、私たちが社会に関わることがよりよい社会の実現につながることを理解する。	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目し、私たちの社会への関わりによって、将来の法、政治、経済、文化、国際関係の在り方がどのように変化し得るかについて、現代日本の社会を特色付ける課題に関わる具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)現代社会を捉える枠組み	多様な人々が個人として尊重され、共に社会生活を送るためには、対立を調整し合意を形成して実現する必要がある、そのような合意の適切さを判断する基準として効率と公正が重要であることを理解する。	対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		B 私たちと経済	(1)市場の働きと経済	経済に関する仕組みやその働き、経済活動の意義の理解に基づいて、個人や企業による生産・消費などの経済活動に関わる選択が、市場の働きによって、有限な資源の効率的な交換、配分に繋がっていることを理解する。	分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)国民の生活と政府の役割	国や地方公共団体の財政及び租税の仕組みや意義の理解に基づいて、個人や企業、国や地方公共団体といったすべての経済主体が連携・協働を図ることで、現代社会に見られる経済的な課題を効果的に解決できることを理解する。	分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
		C 私たちと政治	(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義の理解に基づいて、日本国憲法の基本原理について理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)民主政治と政治参加	主権者である国民や自治の主体である住民の意思が反映され、国や地方公共団体が民主的に運営されるためには、国民や住民一人一人が政治に参加することが重要であることの理解に基づいて、国や地方公共団体の政治の基本的な仕組みについて理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
		D 私たちと国際社会の諸課題	(1)世界平和と人類の福祉の増大	国家主権、国際機構や国際法といった国際社会に関する基本的な事項や国際社会の現状などの理解に基づいて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けた地球規模の諸課題の解決には、国際協調や協力が重要な役割を果たすこと及び私たちが国際社会に主体的に関わることが大切であることを理解する。	持続可能性などの概念的な枠組みに着目して、主体的に国際社会に関わることをに向けて、世界平和と人類の福祉の増大のために私たちにできることについて、多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、それらをもとに議論したりする。

※ 現行学習指導要領のD（2）については、分野横断Cで扱う

高次の資質・能力について（高等学校（地理歴史科「地理総合」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理総合	A 地理と私たち	(1)地図や地理情報システムと現代世界	日本や世界の地域構成や国内・国家間の人やモノの移動等に関わる結び付きについて、地図や地理情報システム（GIS）を活用して可視化して捉えることで、それらが果たす役割や社会の様々な場面で役に立っていることを理解する。	位置や分布、スケールなどに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		B 国際理解と国際協力	(1)生活文化の多様性と国際理解	世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境と相互に影響し合うことで多様性が生じたり、情報化やグローバル化により変容したりすることを理解するとともに、自他の文化の尊重と国際理解の重要性について理解する。	人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)地球的課題と国際協力	世界各地でみられる様々な地球的課題について、それらの現状や要因、課題が相互に関連していることを捉え、課題を解決し、持続可能な社会を実現させるためには、各国の取組とともに国際的な協力が必要であることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		C 持続可能な地域づくりと私たち	(1)自然環境と防災	自然災害発生の程度や頻度は、自然環境や社会条件と関わっているため、過去の土地利用やハザードマップなどの地理情報を効果的に活用して地域の災害リスクを把握し、地域に応じた防災・減災や備えを考えることが大切であることを理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)生活圏の調査と地域の展望	持続可能な地域づくりに向けた生活圏の調査を通して、地理的な課題を他地域との結び付きや、地域の成り立ち、変容などから捉え、様々な立場から解決に向けた取組を構想することの重要性について理解する。	持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に向けた取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。

高次の資質・能力について（高等学校（地理歴史科「地理探究」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理探究	A 現代世界の系統地理的考察	(1)自然地理的な事象の考察	世界の自然地理的な諸事象について、空間的な広がりから追究する系統地理的な視点や考察方法を用いて捉えることで、空間的な規則性や傾向性と関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを考えることができることを理解する。	人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、自然地理的な諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
			(2)人文地理的な事象の考察	世界の人文地理的な諸事象について、空間的な広がりから追究する系統地理的な視点や考察方法を用いて捉えることで、空間的な規則性や傾向性と関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを考えることができることを理解する。	地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、人文地理的な諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	地理探究	B 現代世界の地誌的考察	(1)現代世界の地誌的考察と課題の研究	世界の諸地域について、多様な事象を有機的に関連付けて追究する地誌的な視点や考察方法を用いることで、地域的特色や地域的課題の現状や要因、解決に向けた取組を総合的に考えることができることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察し、構想し、表現することができる。
		C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1)持続可能な国土像の探究	日本の地理的な諸課題について、系統地理的及び地誌的に考察した課題の現状や要因、解決に向けた取組などを関連付けて捉えることで、将来の日本の国土像の在り方を構想できることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。

高次の資質・能力について（高等学校（地理歴史科「歴史総合」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	A歴史の扉	(1)歴史と私たち	現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。	諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。
			(2)歴史の特質と資料		
	歴史総合	B近代化と私たち	(1)近代化への問い	資料等の情報を基に、立憲体制を基礎とした国民国家の形成や産業革命を通じた工業化などの近代化に伴う生活や社会の変化が、現代的な諸課題と関係していることについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)結び付く世界と日本の開国		
			(3)国民国家と明治維新		
			(4)近代化と現代的な諸課題		
	歴史総合	C国際秩序の変化や大衆化と私たち	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い	資料等の情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大による大衆社会の形成などの国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変化が、現代的な諸課題と関係していることについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)第一次世界大戦と大衆社会		
			(3)経済危機と第二次世界大戦		
			(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		
	歴史総合	Dグローバル化と私たち	(1)グローバル化への問い	資料等の情報を基に、科学技術の革新を背景とした人・商品・資本・情報等の国境を越えた流動化など、グローバル化に伴う生活と社会の変化について理解するとともに、近現代の歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題が形成されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			(2)冷戦と世界経済		
			(3)世界秩序の変容と日本		
			(4)現代的な諸課題の形成と展望		

高次の資質・能力について（高等学校（地理歴史科「日本史探究」））

				知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	日本史探究	A 原始・古代の日本と東アジア	(1)黎明期の日本列島と歴史的環境	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と原始・古代の展望		
			(3)古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		B 中世の日本と世界	(1)中世への転換と歴史的環境	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、多元的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と中世の展望		
			(3)中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		C 近世の日本と世界	(1)近世への転換と歴史的	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、統一的政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と近世の展望		
			(3)近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		D 近現代の地域・日本と世界	(1)近代への転換と歴史的環境	- 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 - 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	- 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 - 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
			(2)歴史資料と近代の展望		
			(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造		
			(4)現代の日本の課題の探究		

高次の資質・能力について（高等学校（地理歴史科「世界史探究」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	A 世界史へのまなざし	(1)地球環境から見る人類の歴史	歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。	時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察、表現することができる。
			(2)日常生活から見る世界の歴史		
		B 諸地域の歴史的特質の形成	(1)諸地域の歴史的特質への問い	資料等の情報を基に、諸地域の歴史的特質への問いに照らして、生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などにおいて共通性と多様性をもつ諸地域が世界各地に形成されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。
			(2)古代文明の歴史的特質		
			(3)諸地域の歴史的特質		
		C 諸地域の交流・再編	(1)諸地域の交流・再編への問い	資料等の情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などによって、諸地域の交流が広がるとともに、新たな地域のまとまりが形成されたり諸地域の関係が変化したりしたことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
			(2)結び付きユーラシアと諸地域		
			(3)アジア諸地域とヨーロッパの再編		
		D 諸地域の結合・変容	(1)諸地域の結合・変容への問い	資料等の情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、科学・技術の発達、自由貿易の広がり、二度の世界大戦と国際協調の動きなどによって世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化について多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。
			(2)世界市場の形成と諸地域の結合		
			(3)帝国主義とナショナリズムの高揚		
			(4)第二次世界大戦と諸地域の变容		
		E 地球世界の課題	(1)国際機構の形成と平和への模索	資料等の情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間と空間のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			(2)経済のグローバル化と格差の是正		
			(3)科学技術の高度化と知識基盤社会		
			(4)地球世界の課題の探究		

高次の資質・能力について（高等学校（公民科「公共」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	公民	A 公共の扉	(1)公共的な空間を作る私たち	人間がよりよく生きるため、個人として尊重されるとともに、自らの資質・能力を高め、人間として成長し、自立的な主体として社会に参画することの意義について理解する。	個人の尊厳や人間と社会の多様性と共通性などの概念的な枠組みに着目し、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	人間がよりよく生きることと公共的な空間の在り方の関係に着目して、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や公正などの義務を重視する考え方など、よりよい公共的な空間を築くための選択・判断の手掛かりとなる考え方の理解に基づき、現代の諸課題を考察することが重要であることを理解する。	現代の倫理的課題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで、課題の本質を的確に捉え、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて多面的・多角的に考察し、表現する。
			(3)公共的な空間における基本的原理	個人を尊重し、協働の利益を確保することなどが、公共的な空間を作る目的であることについて、民主主義、法の支配などの公共的な空間における基本的原理を理解する。	幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、人間が協働する理由、協働関係を妨げる要因について考察した上で、公共的な空間における基本的原理が、協働のための条件や協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として、どのような役割を果たすかということについて、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	公共	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち		人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴を踏まえて、自立した主体としてそれらの仕組みを通じて社会に参画することにより、現代の諸課題を公平・公正あるいは効率的に解決することができることを理解する。	現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して、関係する者の利害を適切に考慮した上で、多面的・多角的に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
		C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、事実に基いて考察した上で、その課題を解決する方法について、関係する者の利害を適切に考慮し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、協働して多面的・多角的に考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。

高次の資質・能力について（高等学校（公民科「倫理」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	倫理	A 世界史へのまなざし	(1)人間としての在り方生き方の自覚	人間としての在り方生き方に関わる概念や理論についての理解のもとで、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)国際社会に生きる日本人としての自覚	日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいての理解のもとで、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
	倫理	B 現代の諸課題と倫理	(1)自然や科学技術に関わる諸課題と倫理		他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
			(2)社会と文化に関わる諸課題と倫理		様々な他者との協働、共生に向けて、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。

高次の資質・能力について（高等学校（公民科「政治・経済」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	A 現代日本における政治・経済の諸課題	(1)現代日本の政治・経済	- 個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念や理論などを用いることで、現実社会の諸事象や諸課題を、政治と法の意義と機能、経済活動と市場などといった、現代日本の政治・経済の仕組みや制度と関連付けて、より多面的・多角的に捉えられることについて理解を深める。 - 自立し、主体的に生きる国民主権を担う公民として他者と協働して、利害を調整しながら、よりよい社会を形成していくことが大切であることを理解する。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 - 現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 - 政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見だし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
			(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
	政治・経済	B 国際社会の諸課題	(1)現代の国際政治・経済	国際社会の変遷、貿易の現状と意義などといった、現代の国際政治・経済の仕組みや制度と関連付けて、現実社会の諸事象を通して概念や理論について理解を深め、自立し、主体的に生きる国民主権を担う公民として他者と協働して、異なる価値を調整しながら、国際平和と人類の福祉に寄与していくことが大切であることを理解する。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 - 国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 - 政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
			(2)国際社会の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）



次は「中世の日本」の学習か。教科書の見開き2ページの学習をそのまま積み重ねるだけでは、時代の特徴を大観することは難しいだろうな。そもそも、この学習内容はどのような資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標	
見方・考え方	
高次の資質・能力	
（統合的な理解） 列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	（総合的な発揮） 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特徴を大観して表現することができる。
知・技	思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。そのためには、課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特徴を大観して表現できるようにしたいな。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認できるから、それらを基に単元計画をつくれそうだ。



知識に偏りすぎた指導にならないようにするために、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成したいな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。



本単元は、(ア)武家政治の成立とユーラシアの交流、(イ)武家政治の展開と社会や文化の変化の2つの項目からなるんだ。課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特徴を大観して表現するために、評価課題を「中世の日本は、どのような特徴がみられた時代だったのかを説明しよう！」と設定し、それに向けて学習計画をつくってみよう。
(ア)では、「鎌倉幕府の支配にはどのような特徴がみられたのか」という問いを設定してみよう。まず課題把握として導入の1時間を設定しよう。次に①鎌倉幕府の成立、②元寇(モンゴル帝国の襲来)、③農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習するから、「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」、「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」、「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」という問いを立てて、4時間設定しよう。その後、それらを題材に、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察する時間を2時間設定しよう。最後に、考察したことを表現する時間を1時間設定すると、合計で8時間になるな。
(イ)も同様に8時間設定したら、最後に単元のまとめを表現しよう。評価課題に取り組むことで、これまでの学習を生かして、中世の日本について時代の特徴を大観して表現できるようにしよう。この活動を1時間設定すると、本単元に充てる授業時数は合計で17時間になるな。



評価課題や学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。資質・能力が身に付いているか、きちんと見取れる評価にしたいな。



知識・技能は、評価課題「中世の日本は、どのような特徴がみられた時代だったのかを説明しよう！」の取組状況から見取ろう。
思考・判断・表現は、多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特徴を大観して表現することができているかをワークシートから見取ろう。
デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

※高次の資質・能力及び各学習内容については現時点の内容を記載したものであり、今後の検討状況を踏まえて内容を見直す。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）

単元構想のイメージ

1. 単元名：中世の日本

2. 分野の見方・考え方

社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

3. 高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、追究、解決に向けて見直しをもとうとしているか
- ・主体的な課題の追究、解決に向けて、自らの学びを振り返ったり、新たな課題を見いだしたりしているか
- ・よりよい社会の実現を視野に、他者と協働して、課題を追究、解決しようとしたり、課題の解決を視野に社会に関わろうとしたりしているか

5. 単元の評価規準

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現
	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりしたことを理解している。	・時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現している。

6. 評価課題

中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのかを説明しよう！

7. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流 ・課題を把握する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」 ・課題に対する見通しを立てる。	思		
2	・鎌倉幕府の成立について学習する。 「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」	知		
3	・元寇(モンゴル帝国の襲来)について学習する。 「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」			
4	・農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習する。 「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」			
5				
6	・武士の政治への進出、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。 「鎌倉幕府の支配の特色を多面的・多角的に考察しよう」	思知	○	
7				
8	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」	知思	○	小項目のまとめを表現する。
9-16	(イ) 武家政治の展開と社会や文化の変化			
17	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現する。 「中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのか」	知思	○ ○	単元のまとめを表現する。

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】



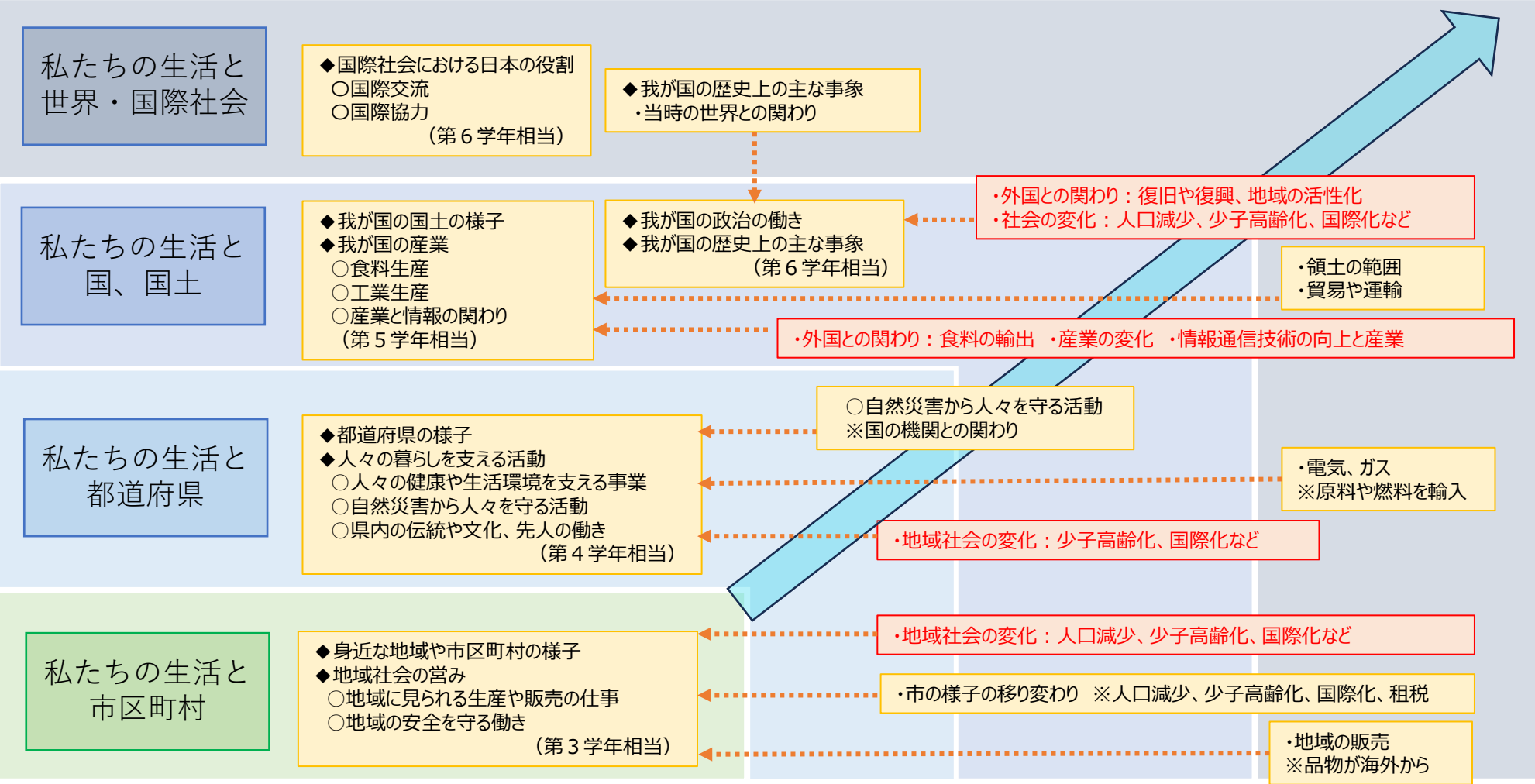
このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

※高次の資質・能力及び各学習内容については現時点の内容を記載したものであり、今後の検討状況を踏まえて内容を見直す。

小学校社会科における系統性・体系性の再整理

グローバル化する国際社会に伴い、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっていることを踏まえ、グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直す。例えば、市町村や都道府県の様子などを扱う際に、自分たちの身近な地域においてもグローバルな環境との接点が増えてきていることについての理由や背景などについて学習する。

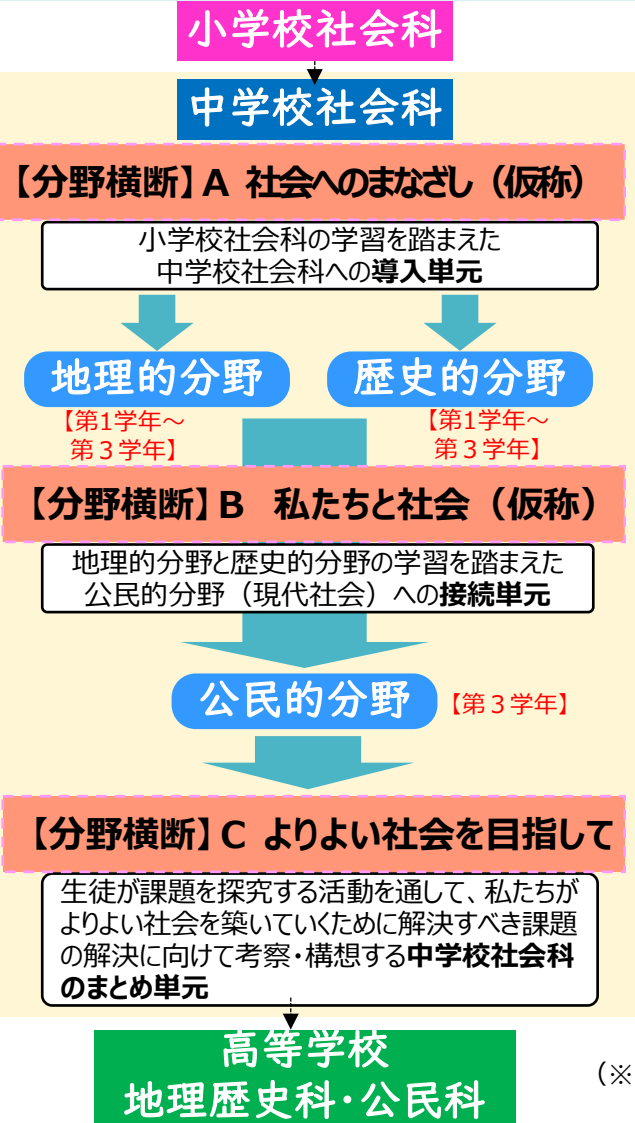
その際、発達段階にも考慮し、身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続する。



中学校社会科における改善イメージ（案）

小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断の単元（A・B・C）に統合・整理や位置づけを見直す。

その際、**地理的分野、歴史的分野、公民的分野における必要な学習が適切に実施**されるとともに、地理的分野及び歴史的分野の学習の基礎のもとに公民的分野へ円滑に移行されるよう、**実施時期も念頭に検討**を行う。あわせて、既存の学習事項の移行や統合、精選など学習内容の整理を行うことで、**全体として学習内容の増加とならないよう検討**する。



分野横断 A「社会へのまなざし」の学習イメージ	
<単元の問いの例> 私たちの暮らす社会を理解し、社会と自分との関わりを考えるためには、どのように学び方を工夫できるだろうか。	<導入単元に期待されること> ・社会科の3年間の学習の流れや分野ごとの学習の見通しをもつ ・地理的分野（世界や日本の学習）への動機付け ・歴史的分野（各時代の特色の学習）への動機付け
<単元の題材・学習例> 小学校社会科における市区町村から世界・国際社会の学習を総合的に活用	

分野横断 B「私たちと社会」の学習イメージ	
<単元の問いの例> 多様な地域や環境、様々な歴史の中で、私たちは社会の一員としてどのように関わることができるだろうか。	<接続単元に期待されること> ・公民的分野（現代社会を捉える視点や方法（考え方）やそれらを用いて課題の解決を図る学習）への動機付け
<単元の題材・学習例> 身近な地域から社会の課題を見出し、他の地域や歴史と関連付けて考察し、課題の解決に向けて選択・判断	

分野横断 C「よりよい社会を目指して」の学習イメージ（現行の公民的分野のD(2)）	
<単元の問いの例> 社会に参画する主体として私たちがよりよい社会を築いていくためにはどのようにすればよいだろうか。	<まとめ単元に期待されること> ・社会参画意識の醸成（期待される視点例：現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきことはなにか。私たちがよりよい社会を築いていくために、どのようなことを考え続けていくか。）
<単元の題材・学習例> 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考察・構想し、構想したことを妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現	

現実社会から課題を捉える手法としての地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の学習を行う際の主な方法（※）として位置付ける。

（※）分野横断の各単元のねらいに対して、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）が直接体験を生み出すことで、よりよい学びを促す方法となることを例示したり、具体的な手法を例示したりすることにより、教員が取り組みやすくすることを検討。

45

		地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
		地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
小学校	私たちの生活と市区町村	身近な地域や市の様子 仕事の種類や産地			地域に見られる生産や販売の仕事	市役所などの公共施設の場所と働き 地域の安全を守る働き	国際化 外国との関わり	市の様子の移り変わり		
	私たちの生活と都道府県	県の様子 県内の特色ある地域の様子	47都道府県の名称と位置		人々の健康や生活環境を支える事業 開発、産業などの事例（選択）	自然災害から人々を守る活動 国際交流に取り組む地域	産業、伝統的な文化	公衆衛生の向上 過去に発生した地域の自然災害 県内の伝統や文化、先人の働き		
	私たちの生活と国、国土	我が国の国土の様子と国民生活 生産物の種類や分布 工業の盛んな地域の分布 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々	自然環境に適応して生活していること 我が国の農業や水産業における食料生産 我が国の工業生産 我が国の産業と情報との関わり 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		輸入など外国との関わり 貿易や運輸		生産量の変化 技術の向上 工業製品の改良 情報を生かし発展する産業	
	私たちの生活と世界・国際社会			外国の人々の生活の様子		我が国の政治の働き 我が国の国際協力	グローバル化する世界と日本の役割	我が国の歴史上の主な事象		国際社会での重要な役割 当時の世界との関わり
	分野横断A 社会へのまなざし	中学校社会科への導入単元＊学習への動機付け等								
中学校	地理的分野		日本の地域構成 日本の地域区分と諸地域 日本の地域的特色と世界とのつながり 地域区分	世界の地域構成 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	産業を中核とした考察の仕方 資源・エネルギーと産業		州という地域の広がりや地域内の結び付き 交通・通信	地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点		
	歴史的分野					ギリシャ・ローマの文明 市民革命 立憲国家の成立と議会政治 国民の政治的自覚の高まり 我が国の民主化と再建の過程		近世の日本とアジア 近現代の日本と世界	世界の古代文明や宗教の起こり 武家政治の成立とユーラシアの交流 世界の動きと統一事業 欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き 日本の民主化と冷戦下の国際社会	
	分野横断B 私たちと社会	地理・歴史的分野を踏まえた公民的分野への接続単元＊身近な地域の社会課題について考察等								
	公民的分野		少子高齢化	情報化、グローバル化	私たちが生きる現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 私たちと経済	私たちと政治	文化の継承と創造の意義 世界平和と人類の福祉の増大			
	分野横断C よりよい社会を目指して	中学校社会科のまとめ単元＊よりよい社会に向けて解決すべき課題を考察・構想等								

高等学校地理歴史科（地理領域科目）における改善イメージ（案）

地理を学ぶ意味や意義、地理総合の学習の見通しをもつための導入単元へ見直す方向で検討。（水色マーカー部分）

地理総合

A 地理と私たち（仮称）	B 国際理解と国際協力	C 持続可能な地域づくりと私たち	
(1) 地図や地理情報システムと現代世界（仮称）	(1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力	(1) 自然環境と防災	(2) 生活圏の調査と地域の展望
ねらい： ・中学校の学習を踏まえた、地理領域科目の入り口 ・地理を学ぶ意味や意義 ・地理総合全体を俯瞰し、科目における学習の見通しをもつ ・地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性の理解と、それらを用いた技能の習得	課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな問いにつなげる。 ※A→B→C(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける		生徒が自ら主題を設定して考察・構想

B(1)で地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望することを促す場面を設定し、C(1)でより探究を深められるように充実を図る。（紫色マーカー部分）

地理探究

※大項目Aについては構造化を図っているため、中項目修正

A 現代世界の系統地理的考察		B 現代世界の地誌的考察	C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	
(1) 自然地理的な事象の考察	(2) 人文地理的な事象の考察	(1) 現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）	(1) 持続可能な国土像の探究	
課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな課題につなげる。 ※A→Bと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける		生徒が自ら地域や主題を設定して地誌的に考察、構想 ※課題解決・新たな課題：地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望し、新たな課題に向かう場面を創設		生徒が自ら主題を設定して考察・構想 B(1)課題解決・新たな課題を踏まえる

高等学校地理歴史科（歴史領域科目）における改善イメージ（案）

高次の資質・能力につながりを明確にしながら、単元のまとめで探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記する。（黄色マーカー部分）

歴史総合

※示されている項目名は現行のもの。

A 歴史の扉	B 近代化と私たち	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	D グローバル化と私たち	
(1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料	(1) 近代化への問い (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題	(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済 (3) 世界秩序の変容と日本	(4) 現代的な諸課題の形成と展望
ねらい：科目への導入、歴史を学ぶ意義、学習基盤となる資料の取扱い	(1)＝課題把握：生徒が近現代の変化について問いを表現する (2)(3)＝課題追究（情報収集、考察）：近現代の歴史の変化に関する主題を設定し、資料を活用して考察する (4)＝課題解決・新たな課題：近現代の歴史の変化と現代とのつながりを考察する ※B→C→Dと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける			生徒が自ら主題を設定して考察・構想

日本史探究

世界史探究

A 原始・古代の日本と東アジア	B 中世の日本と世界	C 近世の日本と世界	D 近現代の地域・日本と世界		A 世界史へのまなざし	B 諸地域の歴史的特質の形成	C 諸地域の交流・再編	D 諸地域の結合・変容	E 地球世界の課題	
(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	(4) 現代の日本の課題の探究	(1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史	(1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	(1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の变容	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	(4) 地球世界の課題の探究
(1)(2)＝課題把握：時代の転換の考察を踏まえて、生徒が時代を通観する問いを表現し、資料を活用して仮説を表現する (3)＝課題追究（情報収集、考察）：資料を活用して、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○A→B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける				生徒が自ら主題を設定して考察・構想	科目への導入（世界史を本格的に対象とするのは初めてのため）	(1)＝課題把握：諸地域を読み解く観点について考察し、問いを表現する (2)(3)(4)＝課題追究（情報収集、考察）：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸地域を軸に構造的に把握するための主題を設定し、資料を活用して考察する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける		地球世界の課題を主題に設定した学習	生徒が自ら主題を設定して考察・構想	

高等学校公民科（公共）における事柄や課題の在り方について（案）

➤ 現行学習指導要領の13の事柄や課題

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割
- ②多様な契約及び消費者の権利と責任
- ③司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ④政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ⑤国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑥我が国の安全保障と防衛
- ⑦国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑧職業選択
- ⑨雇用と労働問題
- ⑩財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- ⑪市場経済の機能と限界
- ⑫金融の働き
- ⑬経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

➤ 改善イメージ（10の事柄や課題）

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割、多様な契約（消費者の権利と責任を含む。）

- ②司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ③政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ④国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑤我が国の安全保障と防衛

- ⑥国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑦雇用と労働問題（職業選択を含む）

- ⑧財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化

- ⑨市場経済の機能と限界、経済活動を支える金融の働き

- ⑩経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

高等学校公民科（倫理）における事柄や課題の在り方について

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「自然」…人間の生命が自然の生態系の中で、植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、調和的な共存関係が大切であることについても思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(I)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、共生といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。
- 「文化と宗教」…文化や宗教が過去を継承する人類の知的遺産であることを踏まえ、それらを尊重し、異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索できるよう指導すること。
- 「平和」…人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想できるよう指導すること。

➤ 改善イメージ（課題の例）

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、**病と治療や老い**、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の**正負の側面**と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

※「自然」については現行のとおり

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(I)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、**共生・包摂**といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。

※「文化と宗教」「平和」については現行のとおり

高等学校公民科（政治・経済）における事柄や課題の在り方について

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会
- 産業構造の変化と起業
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

➤ 改善イメージ（課題の例） ※赤字は新たに追加等した課題例

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- **人口減少**社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会（**起業含む**）
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

+

● 労働市場のグローバル化と国内の産業構造の変化

● 選挙制度と多様なメディア

● 生成AIなどデジタル技術の発展が進む社会

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境・**気候変動**と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

+

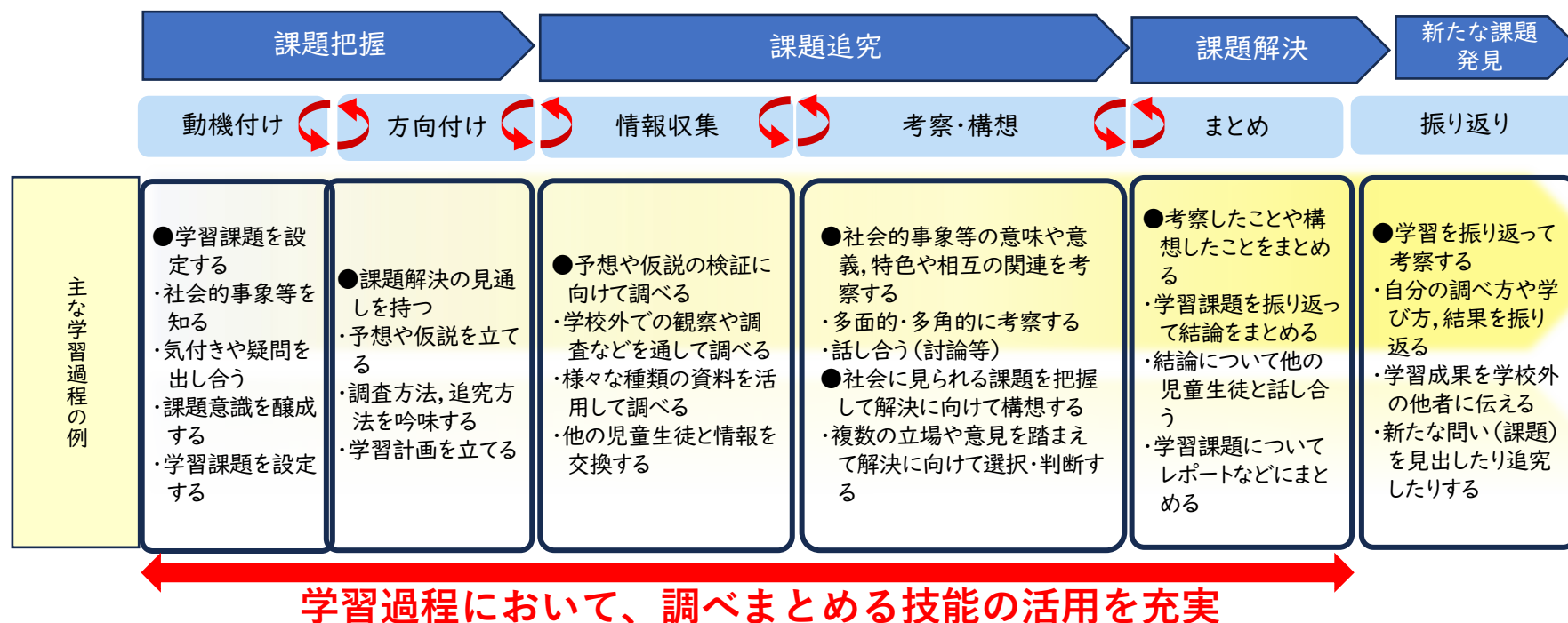
● デジタル主権の進展

● 複雑化する国際情勢と分極化

● 国際社会における国際法の役割

※課題例について、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



<中学校社会「解説」2-1 教科の目標 p.24>

課題を追究したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。こうした学習は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められており、「課題を追究したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからである。そのため「課題を追究したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。

社会・地理歴史・公民 WG		社会的事象等について調べまとめる技能（小・中・高等学校）		補足イメージ14
情報収集する技能		情報を読み取る技能	情報をまとめる技能	※青字は再整理 ※赤字は新たに追記した技能
手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能		収集した情報を社会的な視点や方法等に沿って読み取る技能	読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能	
【1】諸資料の種類と情報を収集する ○資料の種類と情報 ・地図等から位置関係や形状、記載内容などの情報を収集する ・年表から出来事や時期などの情報を収集する ・統計から傾向や変化などの情報を収集する ・新聞、図書、画像や現物資料などから情報を収集する ○その他 ・体験活動を通した仕事などに関する情報を収集する ・博物館等の施設、学校図書館やICT端末等を活用した映像や読み物などの情報を収集する ・ICT端末や情報通信ネットワークなどを活用した情報を収集する 【2】調査活動を通した情報を収集する ○社会調査活動 ・地域住民等を対象にした聞き取り調査やアンケート調査による情報を収集する ○野外調査活動 ・現地の様子や実物を観察し、情報を収集する ・写真撮影等で観察し、情報を収集する ・地図と現地との対応関係を観察し、情報を収集する		【1】情報全体の傾向や趣旨を読み取る ・位置や分布など全体的傾向を読み取る ・量や変化など全体的傾向を読み取る ・博物館等の展示物から展示テーマの趣旨を読み取る 【2】必要な情報を読み取る ○事実を正確に読み取る ・形状、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る ・方位、記号などを読み取る（地図） ・年号や時期、前後関係などを読み取る（年表） ○有用な情報を読み取る ・学習上の課題解決に向けた情報を読み取る ・目的に応じた情報を選別して読み取る ○信頼できる情報を確認して読み取る 【3】複数情報を見比べ、結び付ける ・異なる情報を見比べ（異なる地域の様子など）て、結び付ける（土地利用の様子など） ・同一事象に関する異種資料（グラフなど）の情報を見比べて、結び付ける ・同種の資料における異なる表現（複数の地図、複数の新聞や複数の原典資料など）を見比べて結び付ける	【1】活用できる基礎資料としてまとめる ・聞き取ってメモにまとめる ・情報を地図やグラフなどにまとめる（数値情報をグラフなどに転換など） 【2】分類・整理してまとめる ・項目やカテゴリーごとに整理しまとめる ・順序や因果関係など整理し年表にまとめる ・位置や方位など整理し白地図にまとめる ・相互関係を整理し図（フローチャートなど）にまとめる ・ICT端末等でデジタル化した情報を統合・編集してまとめる 【3】情報の受け手に向けて、分かりやすさに留意してまとめる ・効果的な形式でまとめる ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫しまとめる ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する	
●情報手段の特性や情報の確かさに留意した情報を収集する ・資料の表題、出典、年代、作者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を収集する ・情報手段の特性に留意して情報を収集する ・情報発信者の意図などに留意し情報を収集する ・情報の有効性（データの新旧など）に留意し情報を収集する		●資料の特性に留意して適切かつ効果的に情報を読み取る ・歴史資料の作成目的、時期、方法や作成者を踏まえて読み取る ・地図や年表などの主題や示された情報の種類や類型を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る ・資料の価値や限界を読み取る	●自らの整理した情報が妥当であるか吟味しまとめる ・まとめた情報の根拠を他者とも共有（活用した資料などの典拠などを明記するなど）する ・まとめた情報に含まれる他者の考えや資料などの引用部分を明示する ・まとめた情報について妥当性があるかを確認する	

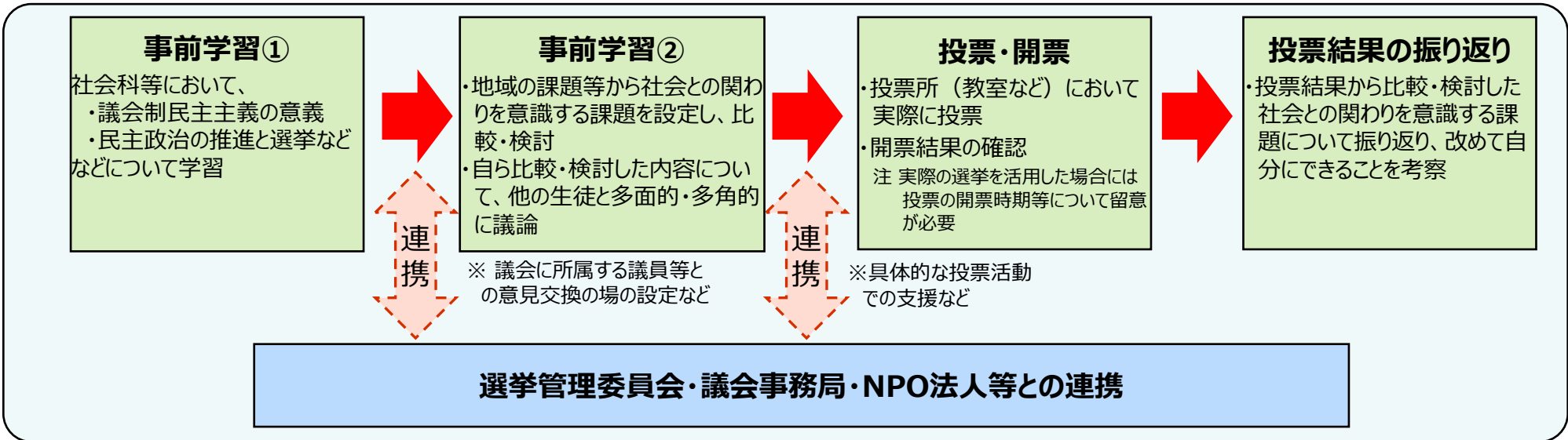
○調べまとめる技能

確認 ○情報の妥当性の

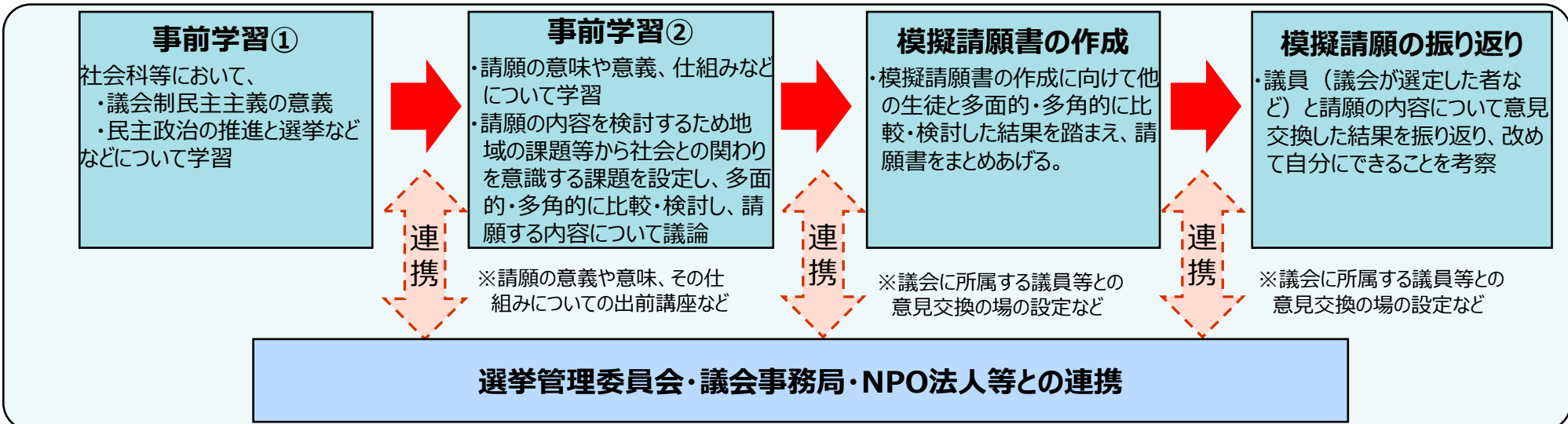
子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動のイメージ

社会参画意識を一層向上させるため、児童生徒自身が有権者となること、または有権者であることを意識し、自らの判断で権利を行使することができるように、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、具体的かつ実践的な指導を行うとともに、外部機関等も活用した実践的な活動をより充実する

● 模擬投票における連携の例



● 模擬請願における連携の例



【参考データ集】

目次

1. 社会科等の学習全般

(1) 社会科等の学習が好きな割合	57
(2) 社会科等の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ	58
(3) 社会科等の授業がどの程度分かりますか	59
(4) 社会科等を学習して、よりよい社会の在り方を考えたいと思うようになった	60

2. 主権者教育・選挙関係

(1) 若者の社会参画意識	61
(2) 国政選挙における10代の投票率	62
(3) 衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移	63
(4) 参議院議員通常選挙における年代別投票率の推移	64
(5) 高校における主権者教育の実施状況（R4）	65
(6) 令和7年度主権者教育（政治的教養の教育）実施状況調査の結果（概要）	66
(7) 「公共」の学習における生徒の学習状況及び教師の指導状況（高）	68
(8) 選挙における投票行動に影響した情報媒体	69
(9) SNSで見た情報の投票行動や投票先の決定への影響	70
(10) SNS上での情報の見極め	71
(11) 選挙におけるSNS上での候補者や政党の発信内容	72

3. デジタル学習基盤・デジタル技術関係

(1) パソコンやタブレットなどコンピュータの活用状況（小・高）	73
(2) コンピュータを活用した授業の実施状況（小・中・高）	75
(3) 子どもたちを取り巻くデジタル環境	78
(4) フェイク情報への懸念と生成AIの影響	79

4. 地域調査・学校内外の施設の活用

(1) 地域調査（フィールドワークや聞き取り調査等）の現状と課題	80
(2) 資料や地域の素材・人材の活用（高）	81
(3) 博物館や郷土資料館などの施設を活用した授業、地域の素材や人材を活用した授業	82

5. 課題を追究・解決する学習

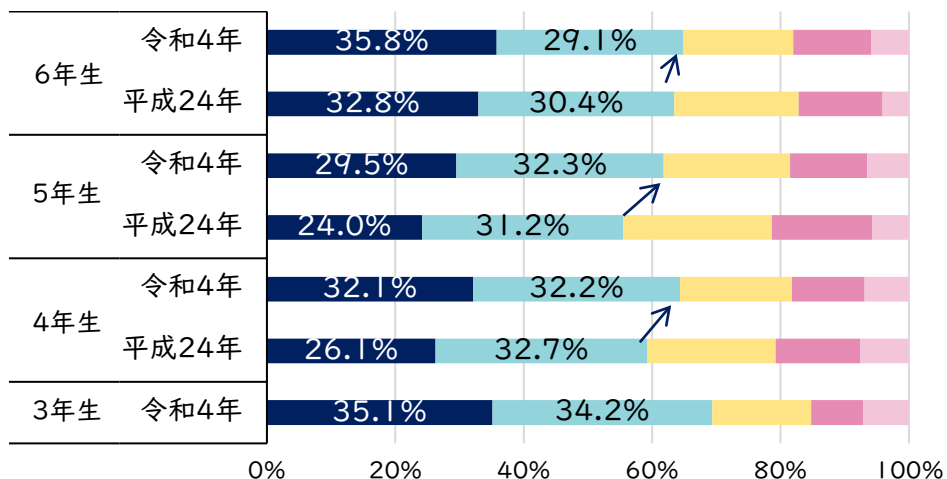
(1) 問題解決的な学習への意識（中）	86
(2) 学習課題やテーマを決めて議論することについて（高）	87
(3) 課題解決的な授業・学習活動の実施状況（中・高）	88
(4) 資料などを使って説明することについて（小・中）	90
(5) 図に表したり文章で書くことについて（中）	92
(6) 生徒に調査・探究を促す指導状況（中）	93
(7) 情報の精査、考えを深めるための指導状況（中）	94
(8) 複数の資料・立場から考える活動や情報精査の指導状況（高）	95

社会科等の学習が好きな割合

◆ 社会科の学習が好きな児童生徒は小中学校を中心として増加している

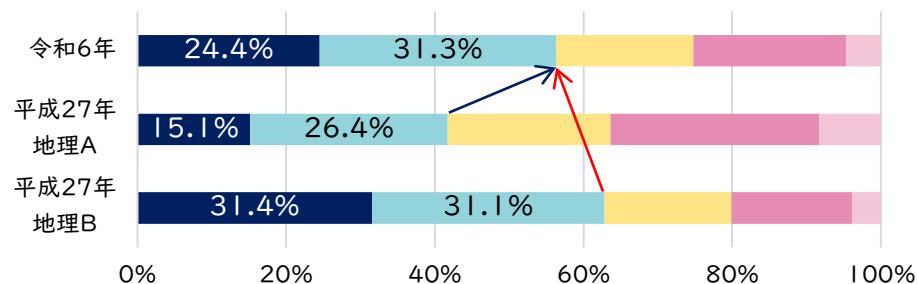
小学校

社会科の学習が好きだ

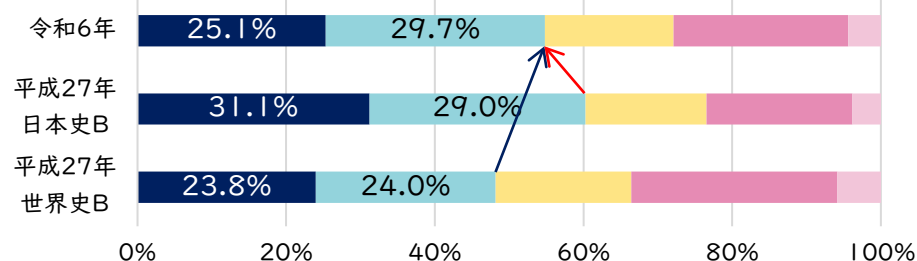


高等学校

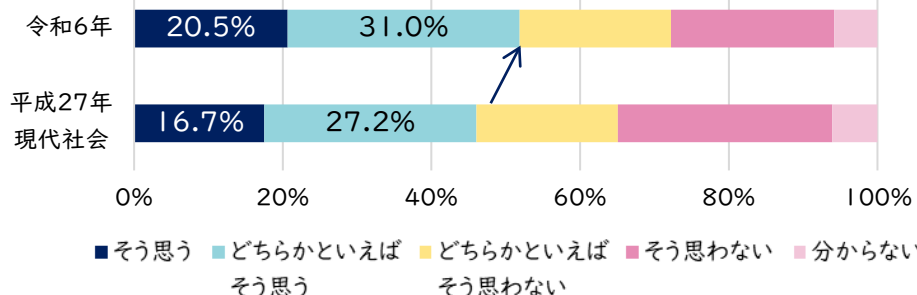
地理総合 (H27地理A,B) の学習が好きだ



歴史総合 (H27日本史B,世界史B) の学習が好きだ

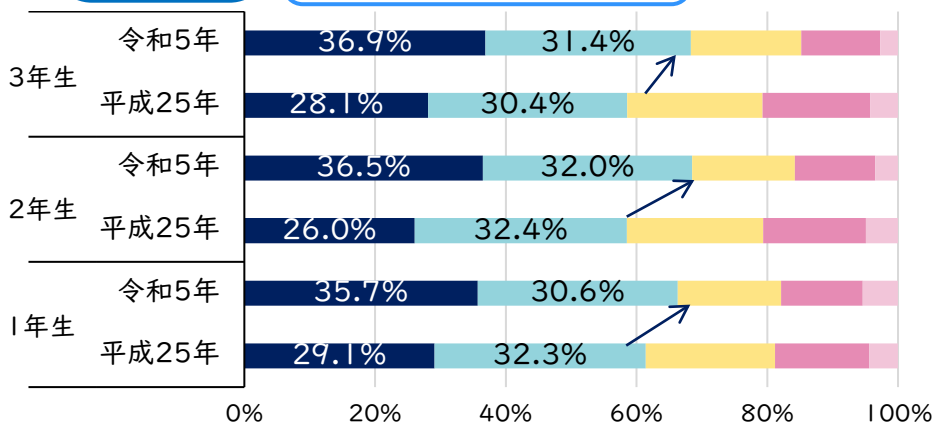


公共 (H27現代社会) の学習が好きだ



中学校

社会科の学習が好きだ

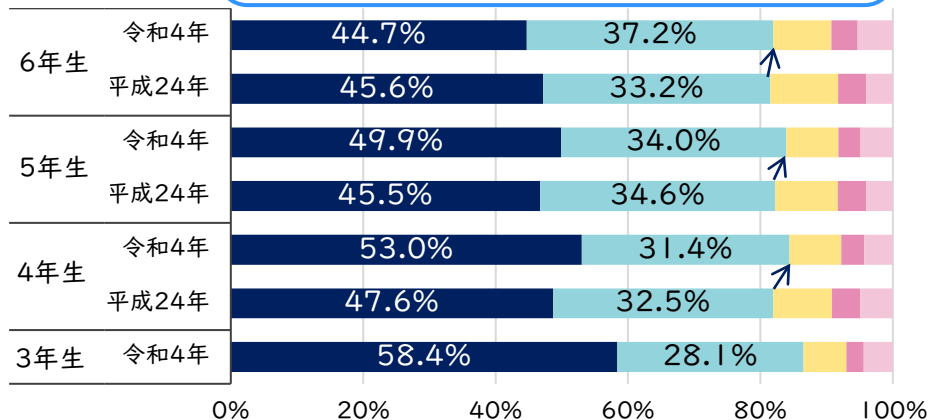


社会科等の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ

◆ 社会・地理歴史・公民を学習すれば、生活や社会の役に立つと思う児童生徒は増加傾向にある

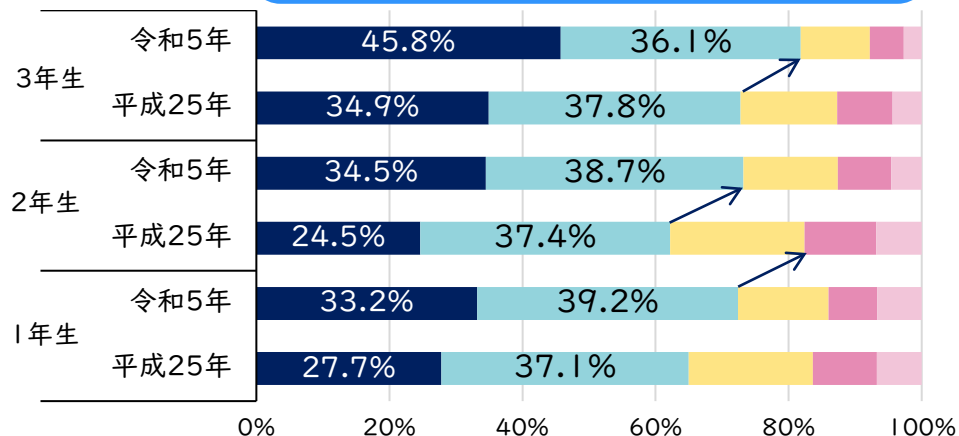
小学校

社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



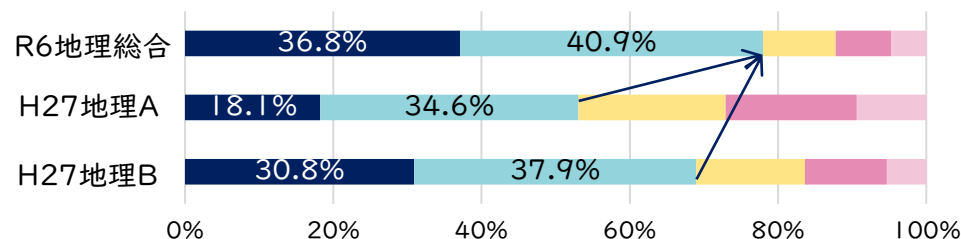
中学校

社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ

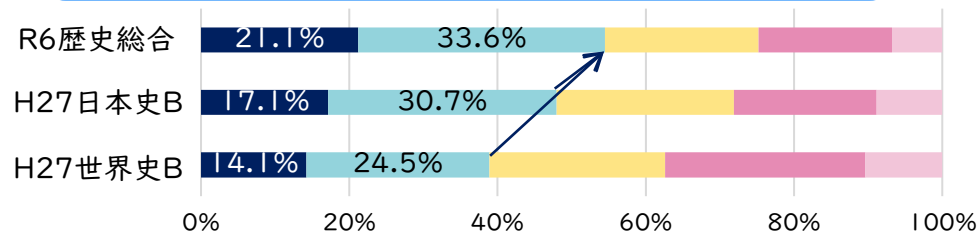


高等学校

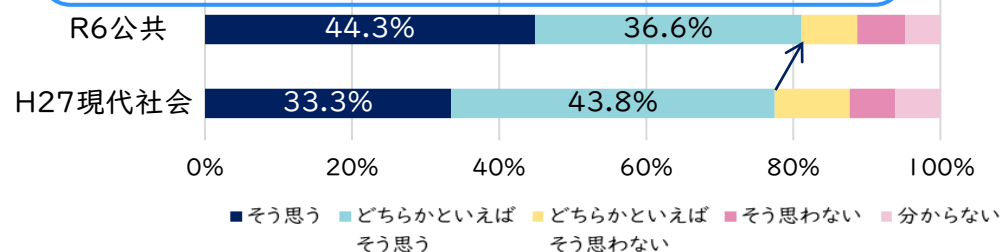
地理総合(H27地理A,B)の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



歴史総合(H27日本史B,世界史B)の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



公共(H27現代社会)の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ

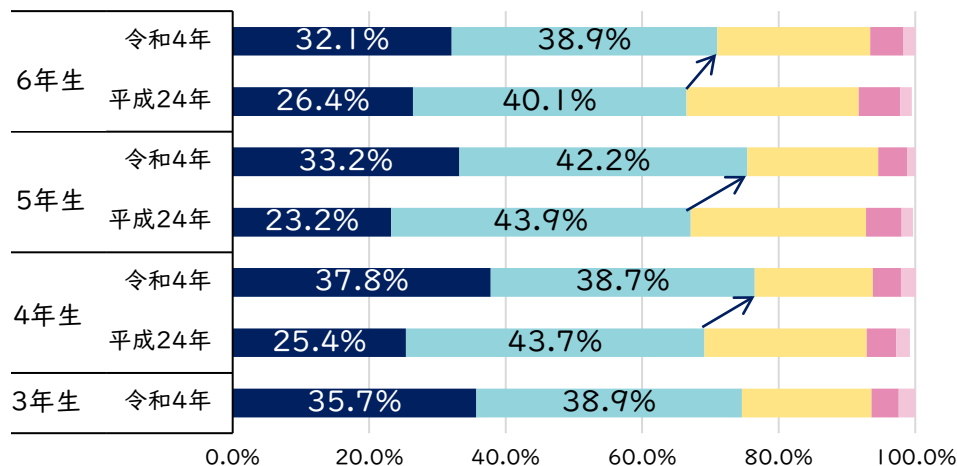


社会科等の授業がどの程度分かりますか

◆ わかりやすいと感じる授業が増加

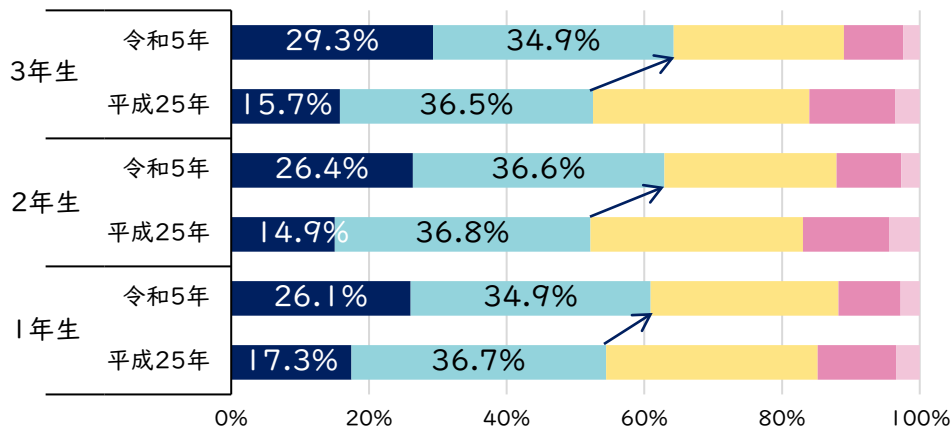
小学校

社会科の授業がどの程度分かりますか



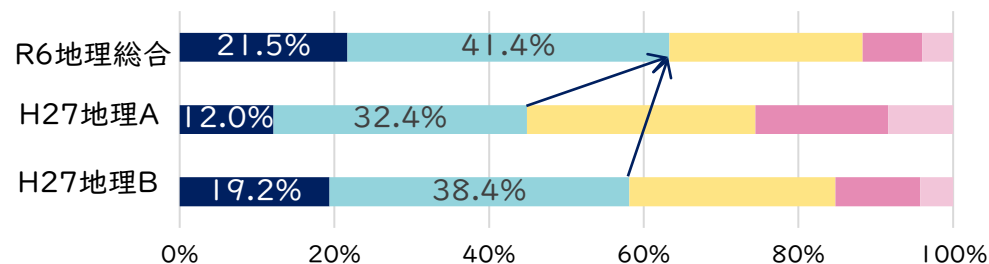
中学校

社会科の授業がどの程度分かりますか

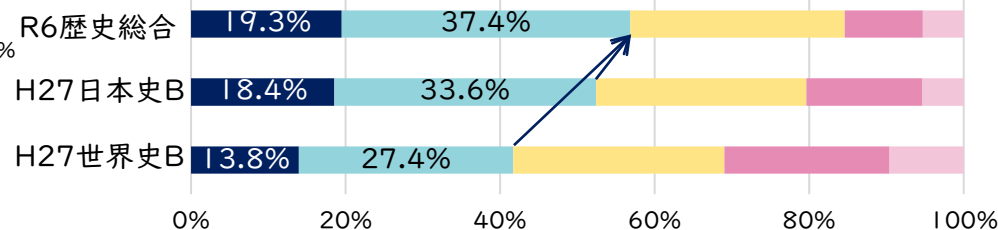


高等学校

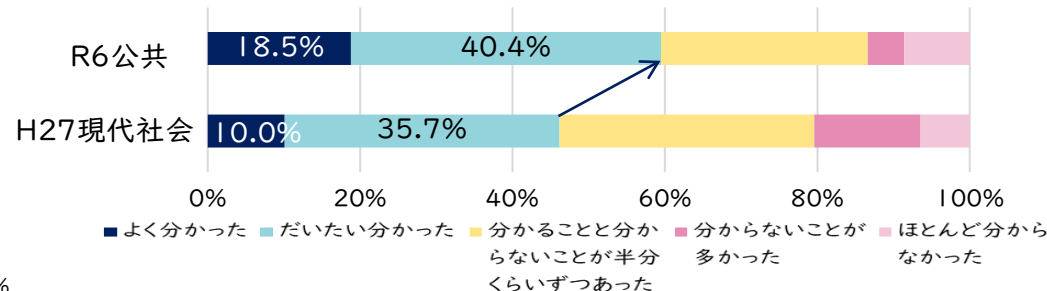
地理総合(H27地理A,B)の授業がどの程度分かりますか



歴史総合(H27日本史B,世界史B)の授業がどの程度分かりますか



公共(H27現代社会)の授業がどの程度分かりますか



(出典) 学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

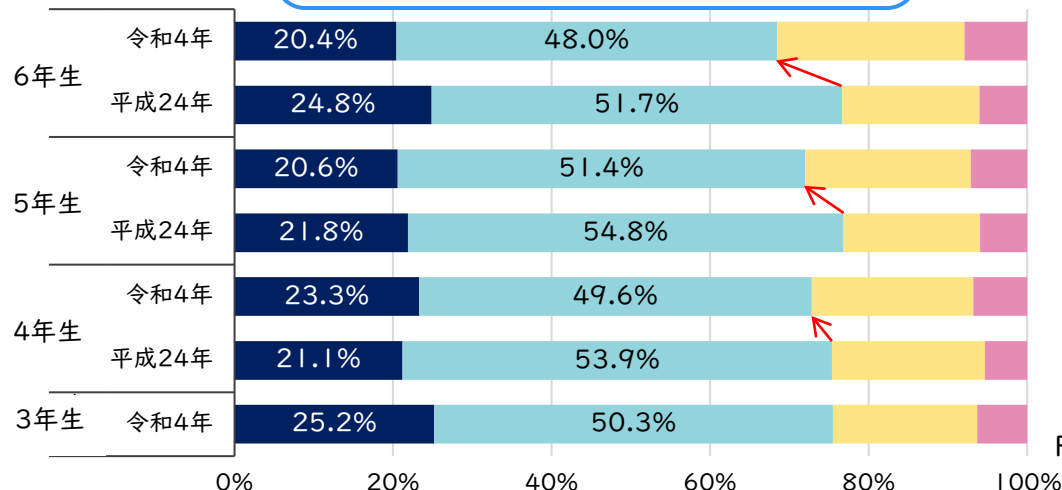
※調査方法や設問等については、前回調査と異なる場合があることに留意する必要がある。

社会科等を学習して、よりよい社会の在り方を考えたいと思うようになった

◆ 社会の一員としてのよりよい社会づくりの意識に課題

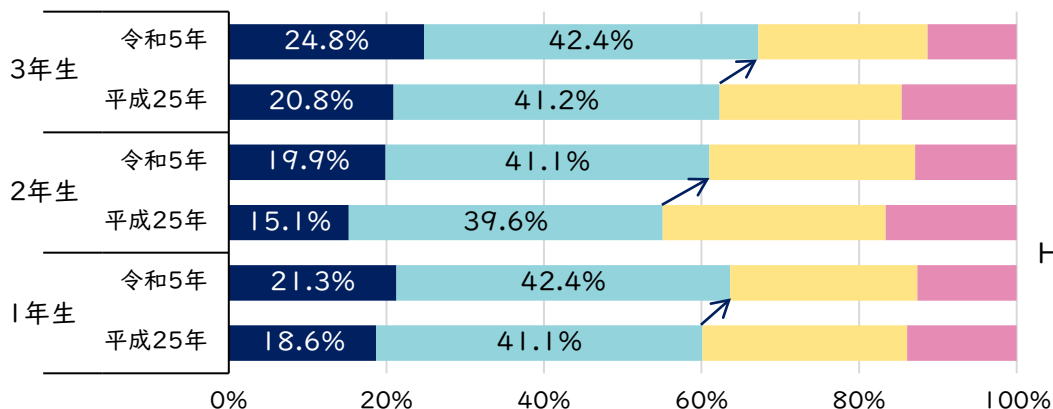
小学校

社会科の学習をもとにして、これからのよりよい社会について考えることができますか



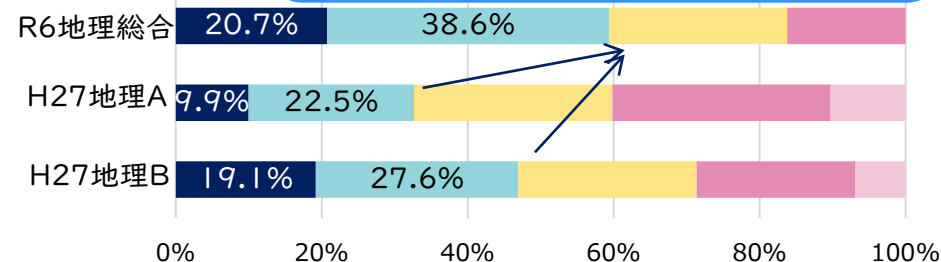
中学校

社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、社会科を勉強したいと思うようになりましたか

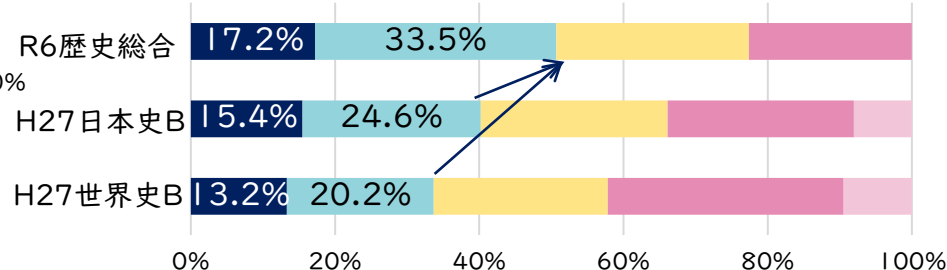


高等学校

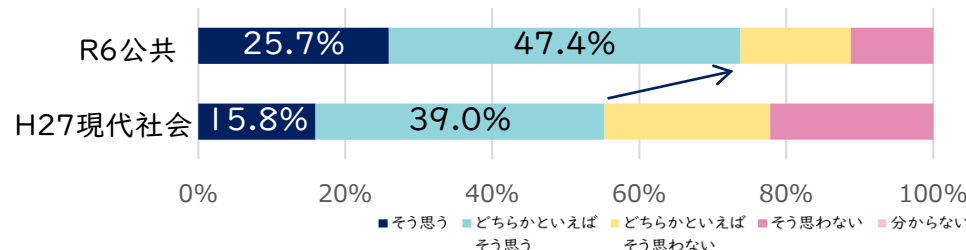
地理総合(H27地理A,B)を学習して、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、社会科を勉強したいと思うようになりましたか



歴史総合(H27日本史B,世界史B)を学習して、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、歴史総合を勉強したいと思うようになりましたか



公共(H27現代社会)を学習して、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、公共を勉強したいと思うようになりましたか

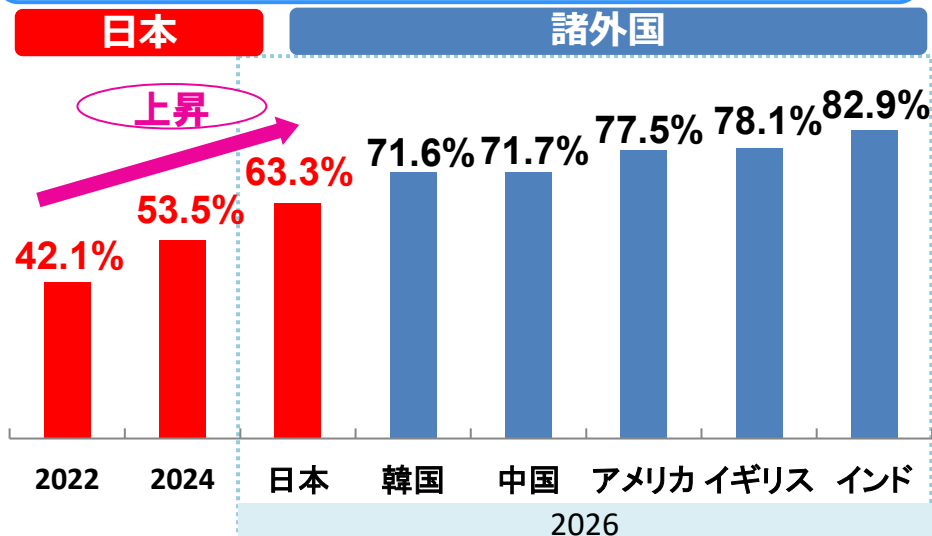


(出典) 学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

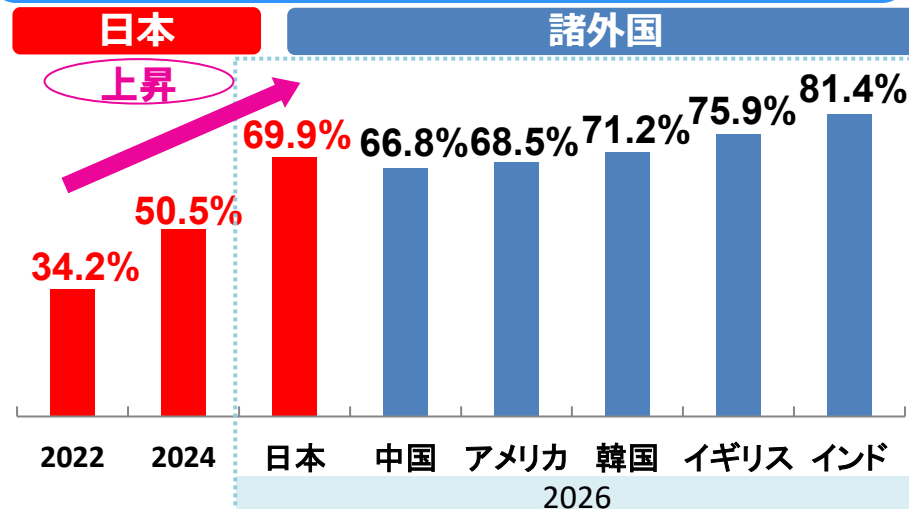
※同一の質問ではなく、同趣旨の質問等で比較している場合があることに留意する必要がある。

◆ 18歳の当事者意識は上昇傾向だが、諸外国と比較すると低い水準である

①政治や選挙、社会問題について、自分の考えを持っている

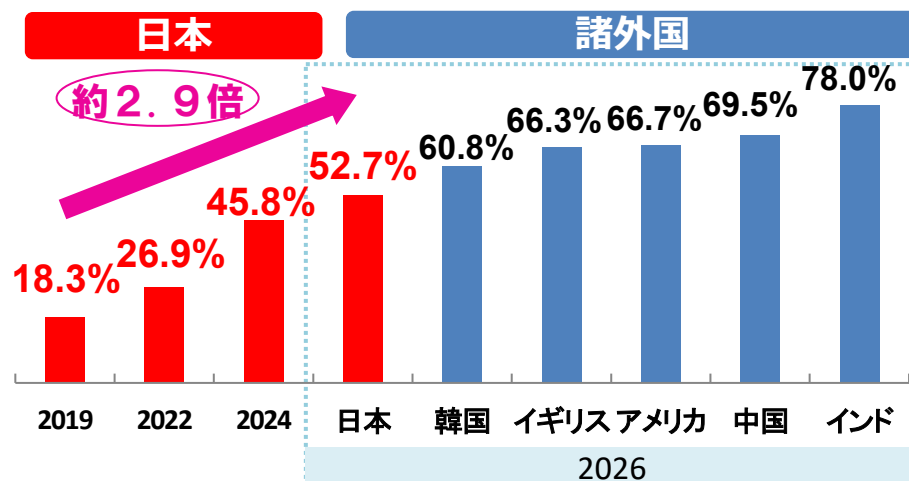


②政治や選挙、社会問題について家族や友人と議論することは大切だと思う



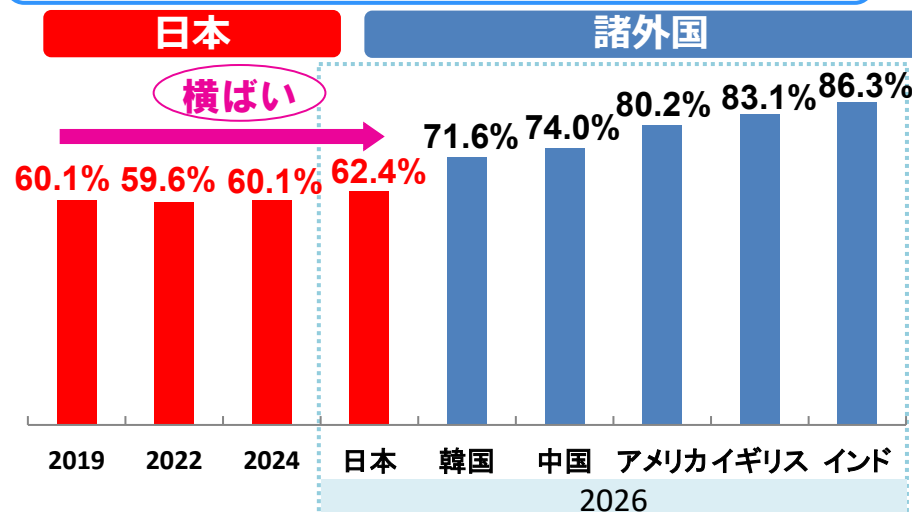
※22年、24年の質問項目は、「政治や選挙、社会問題について家族や友人と議論することがある」であったことに留意

③わたしの行動で国や社会を変えられると思う



※19年の質問項目は、「自分で国や社会を変えられると思う」、22年、24年の質問項目は「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」であったことに留意

④将来の夢を持っている



(出典) 日本財団 18歳意識調査より

直近の国政選挙における10代の投票率（速報値）について

◆ 10代の投票率は、約4割程度と全体の投票率と比べて低い

○第27回参议院議員通常選挙 年齢別投票者数調（18歳・19歳）（抜粋）
R7.9.19

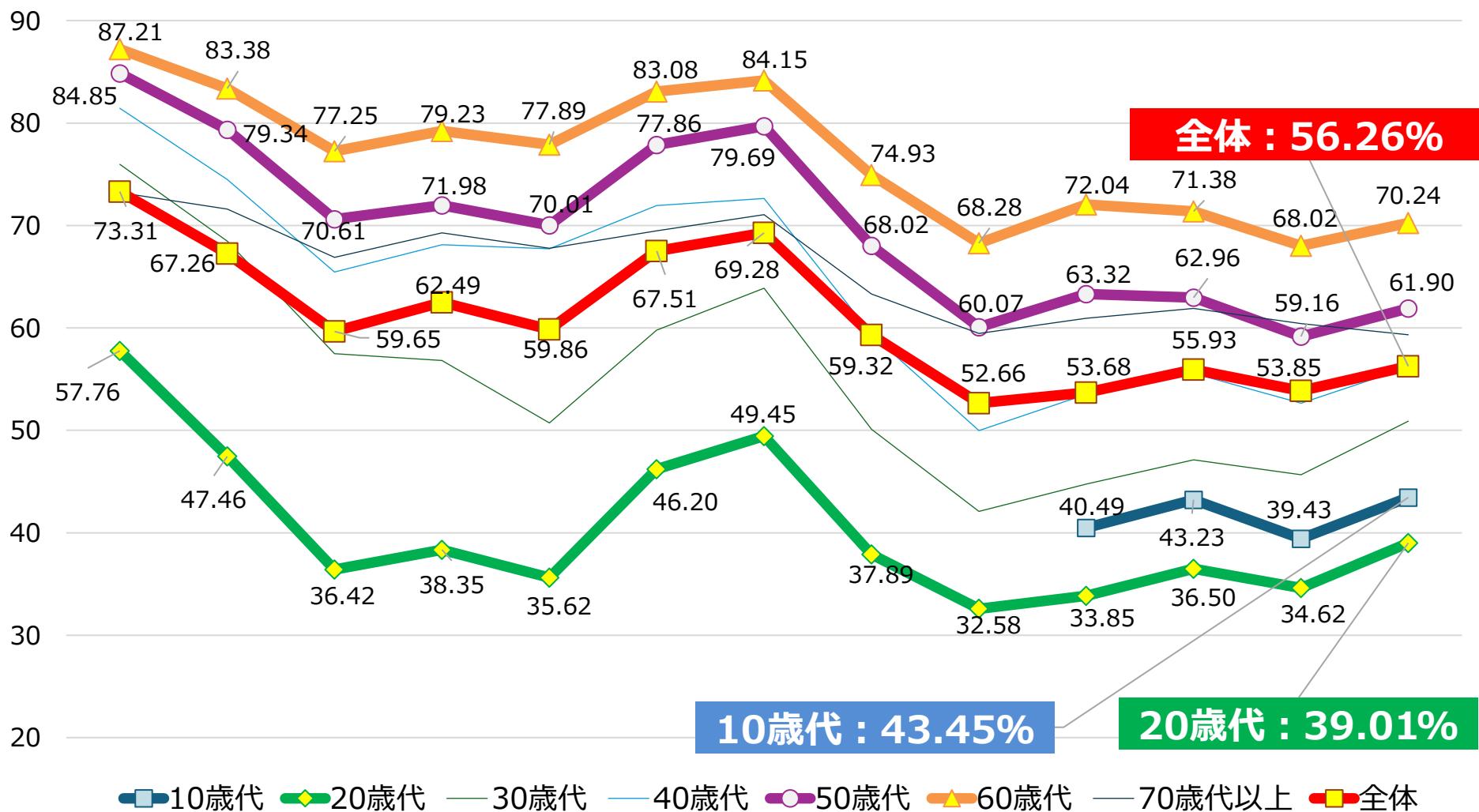
年齢	投票率（%）			【参考】全体投票率（%）		
	男	女	計	男	女	計
18	46.97	51.98	49.38	59.27	57.80	58.51
19	40.15	41.96	41.04			
計	43.66	47.01	45.29			

○第51回衆議院議員総選挙 年齢別投票者数調（18歳・19歳）（抜粋）
R8.3.12

年齢	投票率（%）			【参考】全体投票率（%）		
	男	女	計	男	女	計
18	50.04	52.93	51.47	57.13	55.44	56.26
19	33.85	36.59	35.20			
計	42.04	44.90	43.45			

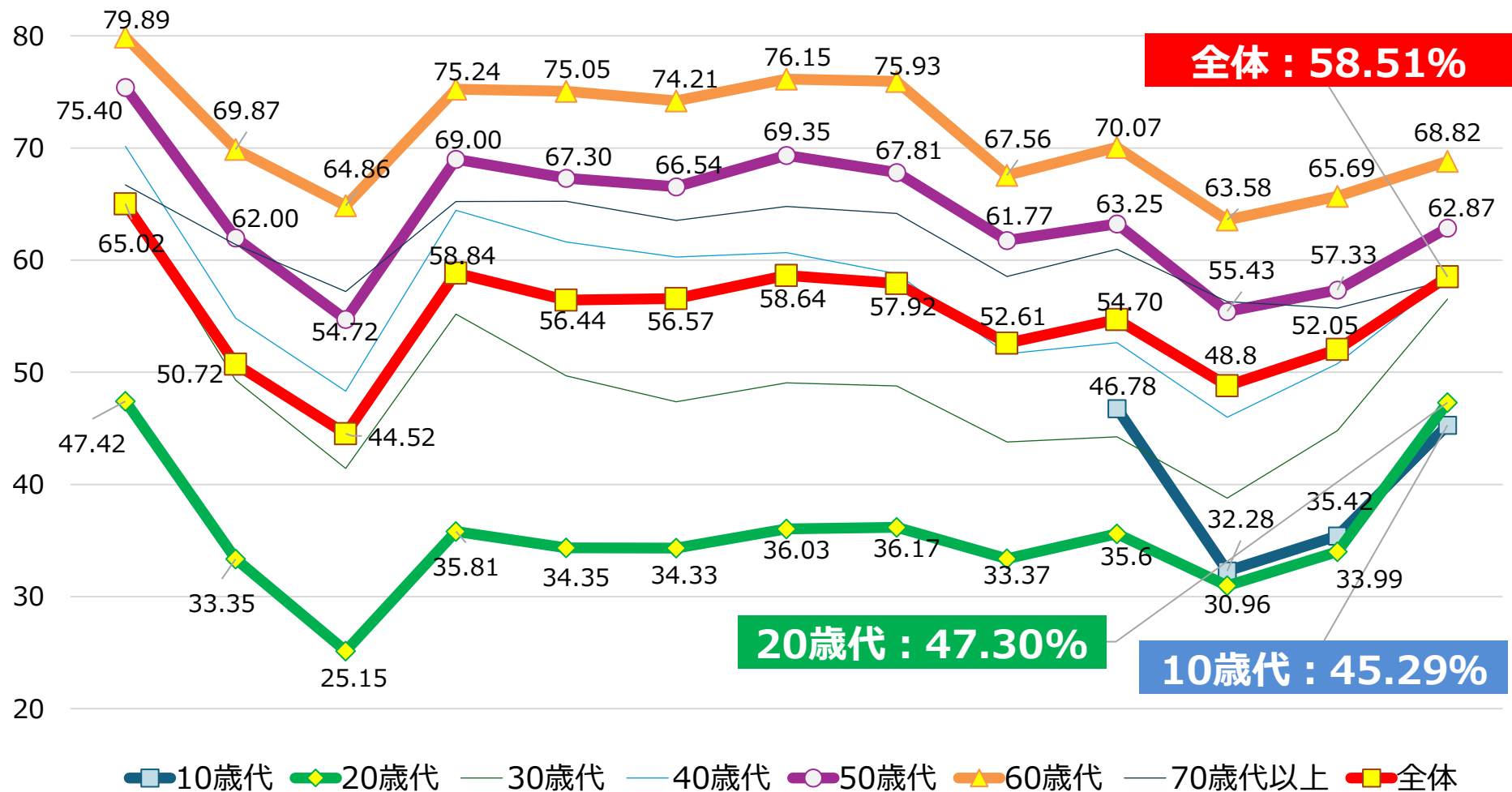
衆議院議員総選挙における年代別投票率（抽出）の推移について

◆ 若者の投票率は、約 4 割程度と他の世代と比べて低い



参议院議員通常選挙における年代別投票率（抽出）の推移について

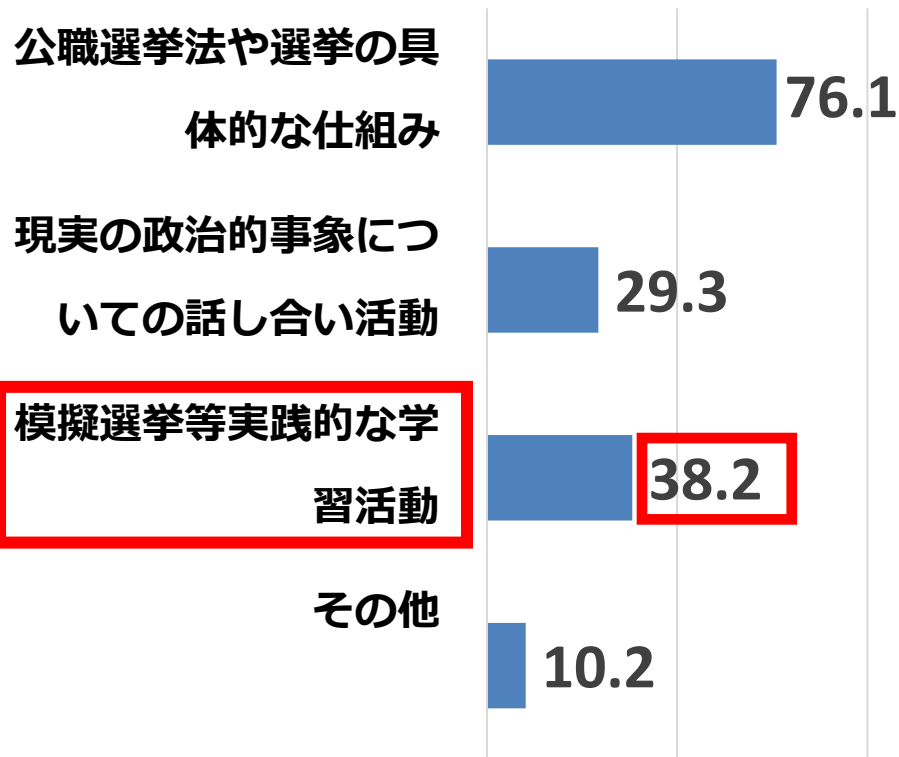
◆ 若者の投票率は、約5割以下と他の世代と比べて低い



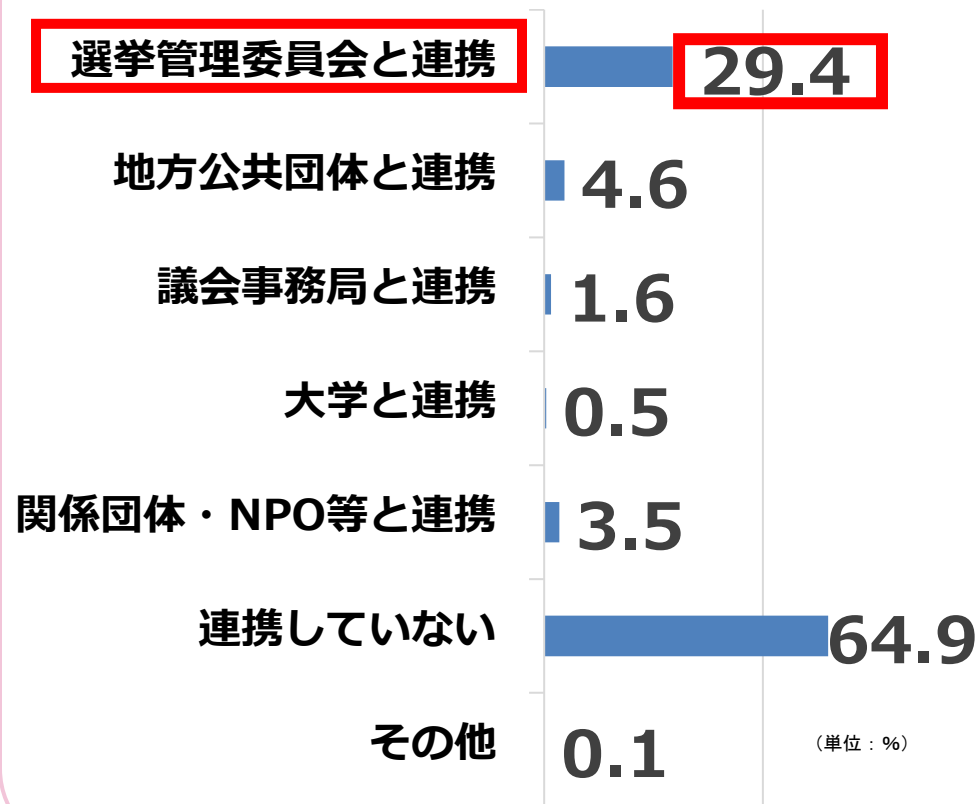
高校における主権者教育の実施状況について

- ◆ 模擬選挙等の実践的な活動は約 4 割、選挙管理委員会等と連携した取り組みは約 3 割となっている

実施した学習活動



連携した機関



(単位: %)

※全国の国公立高等学校(定時性・通信制、特別支援学校高等部等含む)のうち1,629校を対象
(有効回答数 1,306校 回収率 80.2%)

(出典) 令和4年度主権者教育(政治的教養の教育)実施状況調査(抽出調査)について(文部科学省)



令和7年度主権者教育（政治的教養の教育）実施状況調査の結果（概要）

(1)主権者教育の実施状況（学年別）

第1学年**74.0%**、第2学年**77.6%**、第3学年**80.3%**、第4学年**46.8%**が何らかの教科・科目で実施していると回答

(2)主権者教育の実施した主な教科・科目（学年別）※複数回答可

いずれの学年でも**公民科、特別活動、総合的な探究の時間**の順が多かった。

主権者教育を実施した主な教科・科目（学年別）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
1 公民科（特別支援学校（知的障害）高等部では社会科）	46.9 %	47.7 %	45.9 %	28.7 %
2 特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等）	33.5 %	34.7 %	37.8 %	22.5 %
3 総合的な探究の時間	12.4 %	14.7 %	12.8 %	7.2 %

※母数は「対象学年が在籍していない」を除く回答数
※「実施していない」と回答した学校は、第1学年26%、第2学年22.4%、第3学年19.7%、第4学年53.2%

■調査目的
令和7年度における主権者教育に関する取組の実施状況の把握

■調査対象
国公立高等学校等（全日制・定時制・通信制、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部）2,234校を対象（有効回答数1,823校 回収率81.6%）

■調査時期
2026年2月4日～2月27日

(3)学習活動の内容（学年別）※複数回答可

いずれの学年においても、**公職選挙法や選挙の具体的な仕組みに対する理解を深める活動**が最も多く実施。

第1～3学年では、これに次いで、**模擬選挙・模擬請願や模擬議会などの実践的な学習活動**が多い。

第4学年では、これに次いで、**現実の政治的事象について考察を深めるための話合いや意見交換、議論**が多く実施。

学習活動の内容（学年別）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
1 公職選挙法や選挙の具体的な仕組みの理解を深める学習活動	50.0 %	53.5 %	55.8 %	33.6 %
2 模擬選挙、模擬請願、模擬議会などの実践的な学習活動	28.1 %	32.1 %	31.4 %	13.7 %
3 現実の政治的事象について考察を深めるための話合いや意見交換、議論	19.2 %	24.6 %	27.6 %	15.9 %
4 SNS等のインターネットやメディアを通じた政治や選挙に関する情報収集やその留意点に関する学習活動	17.1 %	17.8 %	19.9 %	13.2 %
5 地域の課題解決を目標として主体的に活動する学習活動	13.2 %	14.5 %	12.7 %	7.9 %

※母数は「対象学年が在籍していない」を除く回答数



令和7年度主権者教育（政治的教養の教育）実施状況調査の結果（概要）

(4)外部団体・人材との連携（学年別） ※複数回答可

いずれの学年においても、連携していないと回答した学校が3～4割。

連携している場合、連携先として最も多くあげられたのは、いずれの学年においても**選挙管理委員会**であり、これに**地方公共団体**、**主権者教育に関する関連団体・NPO**と続いた。その他の連携先（記述）として、**地元企業**や**弁護士会**、**税務署**、**他校の生徒会**などがあげられた。

外部団体・人材との連携（学年別）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
1 選挙管理委員会	18.7 %	23.0 %	21.4 %	10.2 %
2 地方公共団体	6.2 %	7.4 %	7.0 %	2.6 %
3 主権者教育に関する関連団体・NPO	3.0 %	3.6 %	4.5 %	1.9 %
4 大学	2.2 %	2.7 %	2.5 %	1.5 %
5 議会事務局	1.4 %	2.2 %	1.8 %	0.6 %
6 連携していない	42.9 %	38.7 %	42.0 %	33.9 %

※母数は「対象学年が在籍していない」を除く回答数

(5)現実の選挙を題材にした指導（設置者別） ※複数回答可

いずれかの学年において**現実の選挙（令和7年7月の参議院議員通常選挙、令和8年2月の衆議院議員総選挙、地方選挙）**を題材に指導を実施した／する予定と回答した学校は**52.8%**。

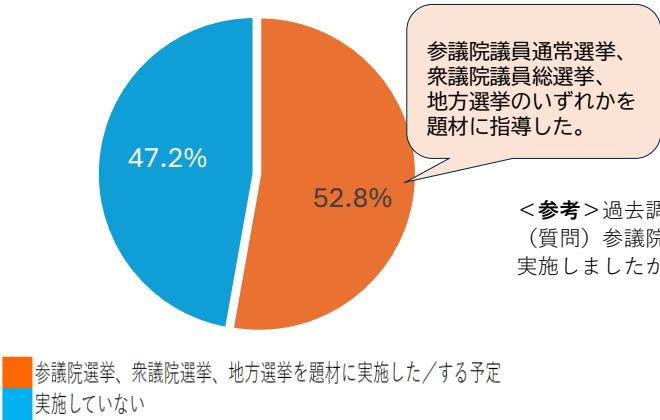
過去調査（令和4年度、令和元年度）では、第3学年の生徒を対象に参議院議員通常選挙を題材にした指導を実施したかを問うており、令和4年度は44.9%、令和元年度は41.9%の学校が実施したと回答。

現実の選挙を題材にした指導（設置者別）

	公立	国立	私立等	合計
0 実施していない	44.1 %	54.4 %	54.7 %	47.2 %
1 参議院議員通常選挙を題材として実施した	40.0 %	31.6 %	30.3 %	37.2 %
2 衆議院議員総選挙を題材として実施した／実施する予定	35.3 %	31.6 %	33.3 %	34.7 %
3 地方選挙（首長・地方議員）を題材として実施した／実施する予定	11.2 %	12.3 %	6.74 %	10.1 %

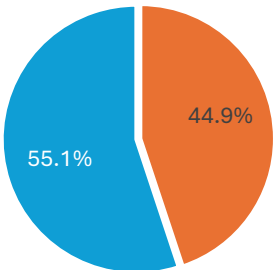
※母数は回答した学校数

令和7年度（全学年を対象）

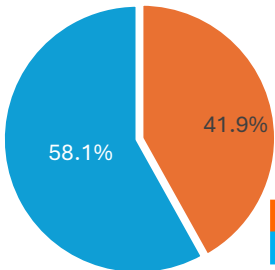


<参考> 過去調査の結果（第3学年を対象）
（質問）参議院議員通常選挙を題材に指導を実施しましたか。

令和4年度（第3学年を対象）



令和元年度（第3学年を対象）

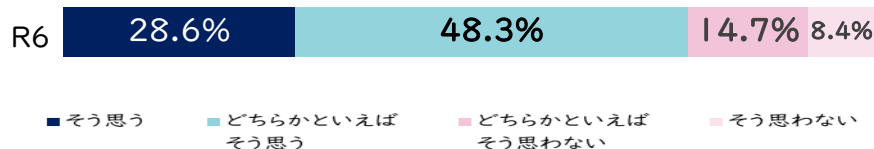


参議院選挙を題材に実施した
実施していない

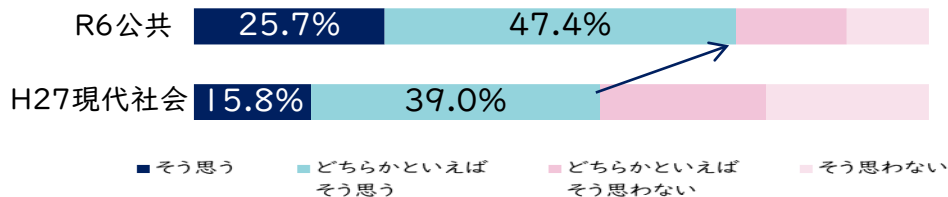
「公共」の学習における生徒の学習状況及び教師の指導状況について

◆ 人間としての在り方生き方についての探究の意識や、社会の一員としてのよりよい社会づくりの意識に成果が見られる

「公共」の学習をして、よりよく生きるための手掛かりを得ることができるようになった【生徒質問】

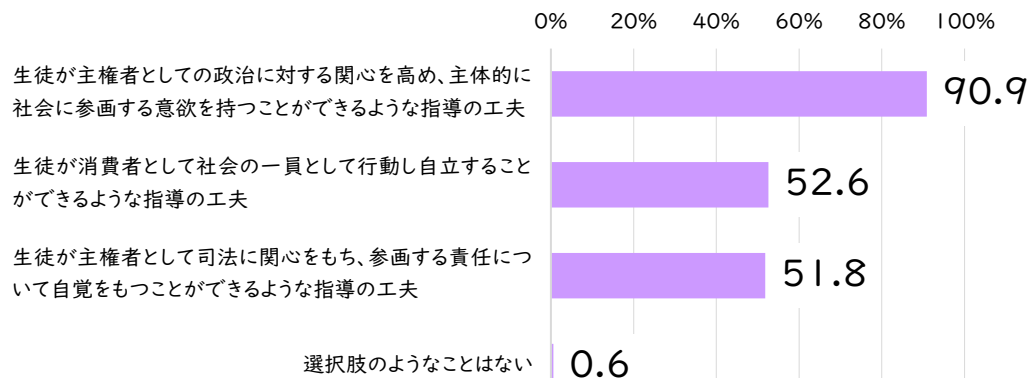


「公共」の学習をして、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになった【生徒質問】

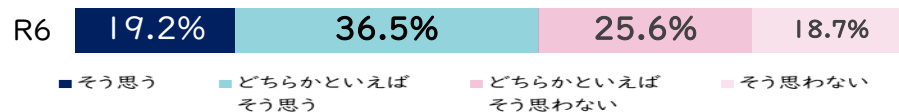


◆ 社会参画意識の涵養に関する指導の質的な充実への期待

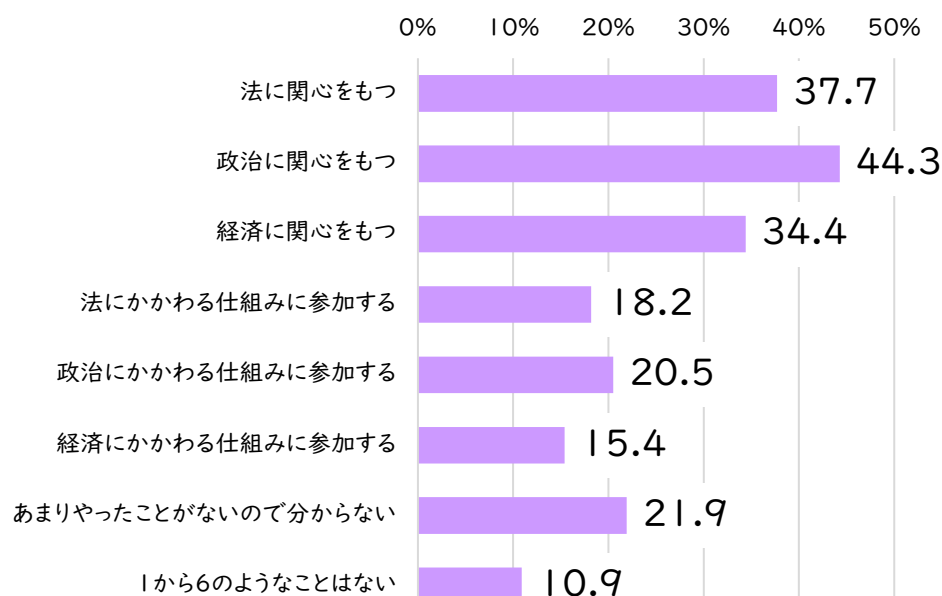
選挙権年齢、成年年齢、裁判員年齢の満18歳以上への引下げに伴い、どのような指導の工夫をしているか【教師質問】



「公共」の学習をして、見学したり、地域や現実社会で働く人に話を聞いたりしてみたいと思った【生徒質問】



「公共」の授業で、模擬選挙や模擬裁判など、模擬的な活動を行うことで、次のことが大切だと考えるようになりましたか【生徒質問】

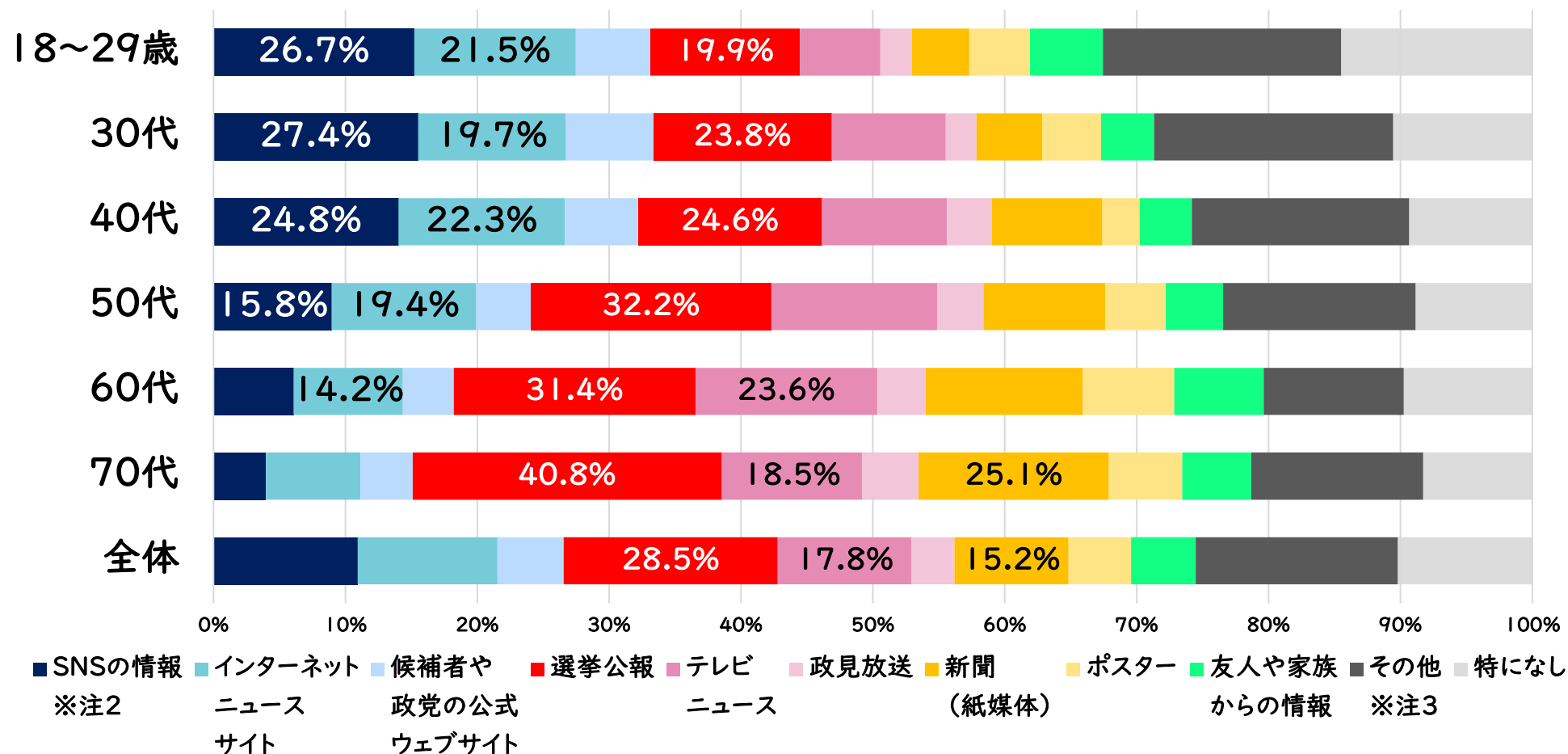


(出典) 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)
 ※調査方法や設問等については、前回調査と異なる場合があることに留意する必要がある。
 ※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。

選挙における投票行動に影響した情報媒体について

◆ 若い世代は投票行動に影響を与えた情報媒体として「SNSの情報」をあげている

あなたの投票行動に影響した情報媒体について教えてください。(2025年6月都議会議員選挙)

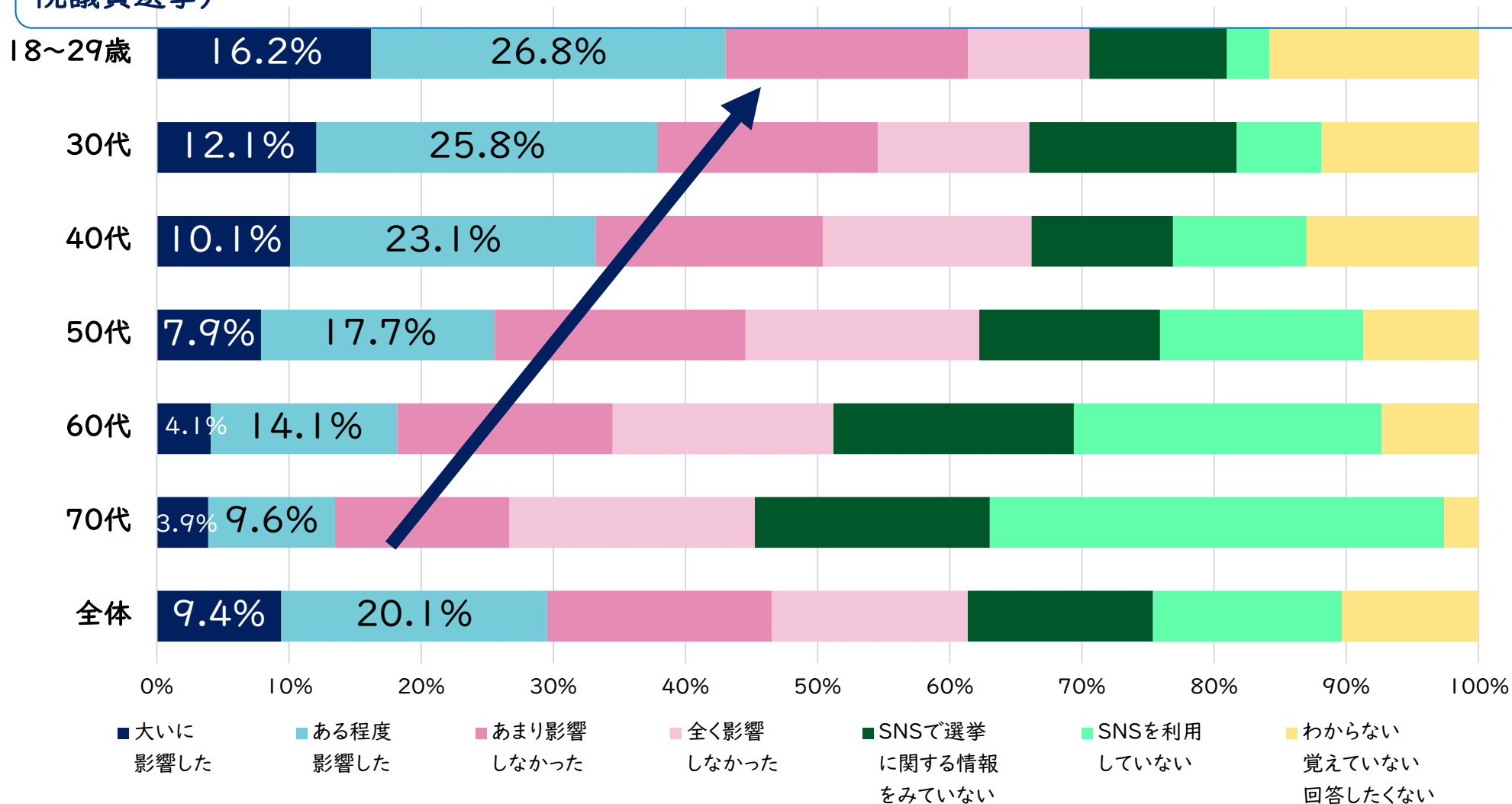


出典：(株)日本総合研究所未来価値研究所政治人材バンクプロジェクトが2025年8月19日に公表した「【都議会議員選挙・参議院選挙2025】有権者アンケート調査結果
東京都議会議員選挙（2025年6月22日投開票）、参議院議員通常選挙（2025年7月20日投開票）への選挙権を有した東京都に在住する18歳～79歳までの男女3,000人を対象
注1：投票行動に影響した情報媒体については、回答者は最大3つまで複数回答している場合がある。
注2：「SNSの情報※注3」については、「候補者のSNS(X、Instagramなど)」と「候補者発信以外のSNSの情報」を含めたもの
注3：「その他」については、「ポスティングのチラシ」「候補者マッチングサイト」「街頭演説」「選挙カーでの演説」「候補者・政党による討論会」「その他」を含めたもの

SNSで見た情報の投票行動や投票先の決定への影響

◆ 若い世代ほどSNSの情報が投票先に影響を与えたと回答している

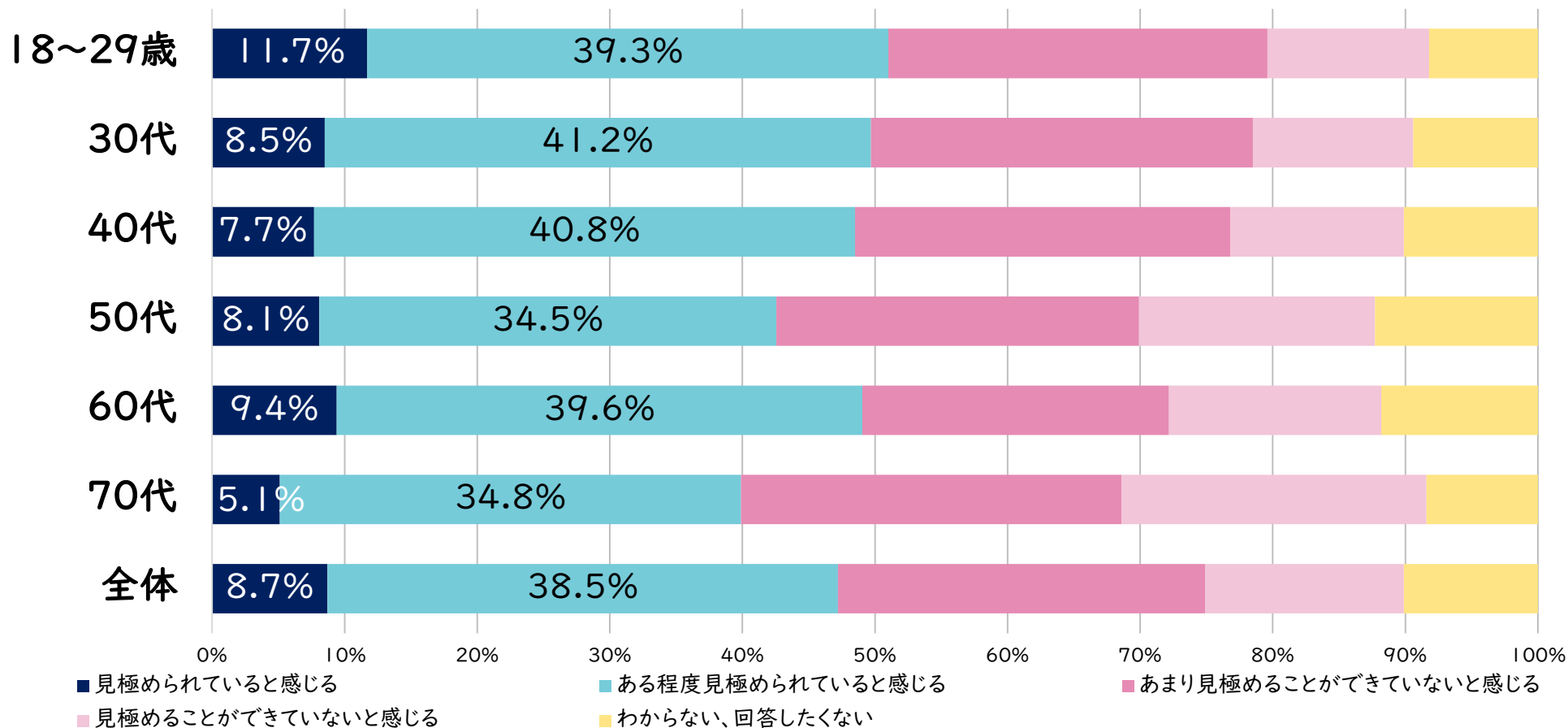
SNS (X、Instagramなど) で見た情報は投票行動や投票先の決定に影響を与えましたか (2025年7月参議院議員選挙)



SNS上での情報を見極めることができるか

◆ SNSの情報についての正確性を見極められると回答している者は半数程度

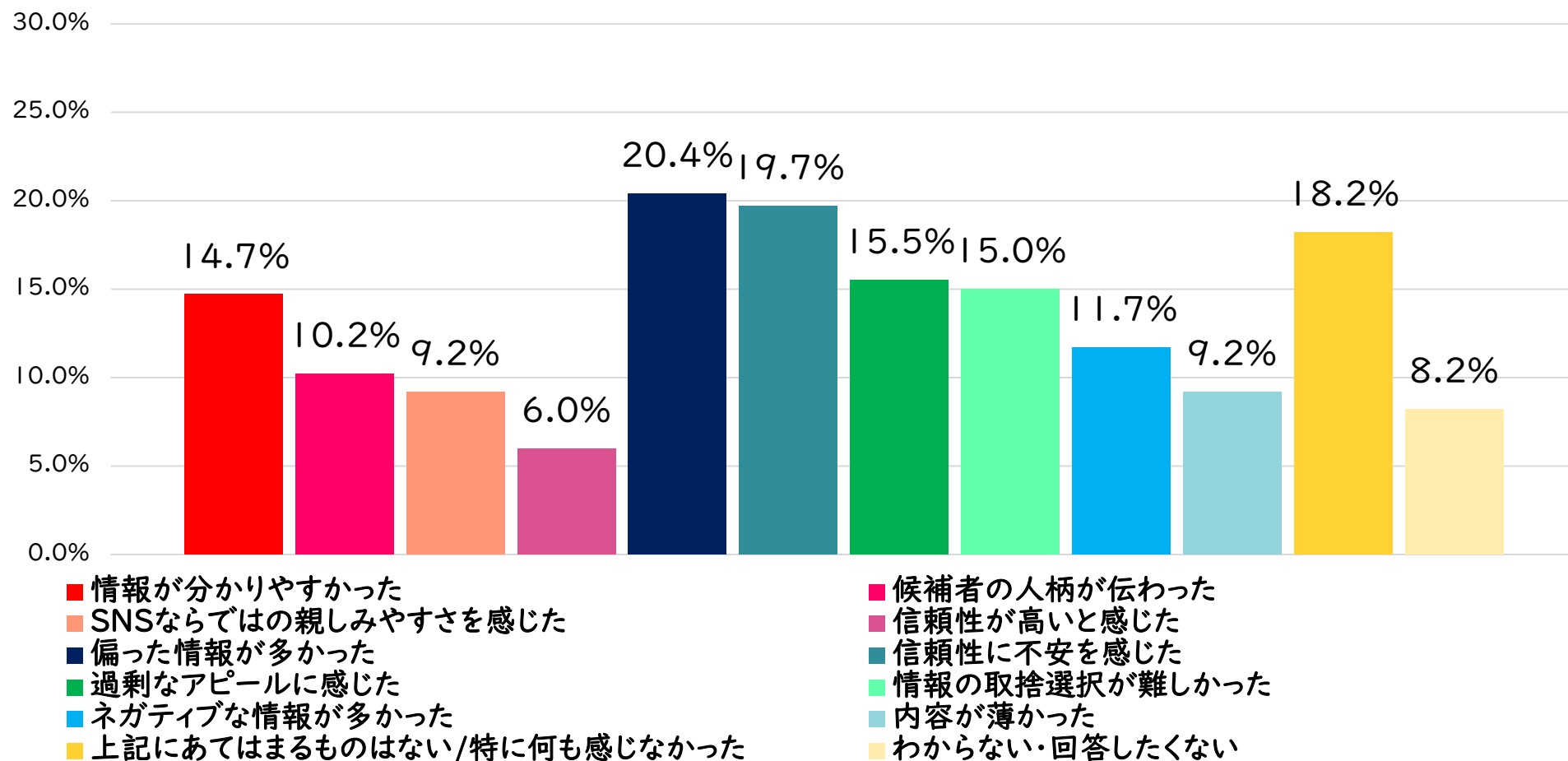
SNSで流れてくる「政治に関する第三者の投稿・情報」について、あなたはどの程度「正確な情報かどうか」を見極められていると感じますか



選挙におけるSNS上での候補者や政党の発信内容

- ◆ 候補者や政党のSNS上での発信内容について、情報の分かりやすさや信頼性の高さなど、肯定的に捉える人に比べて、情報の偏りや信頼性に不安を感じている人の割合が多い

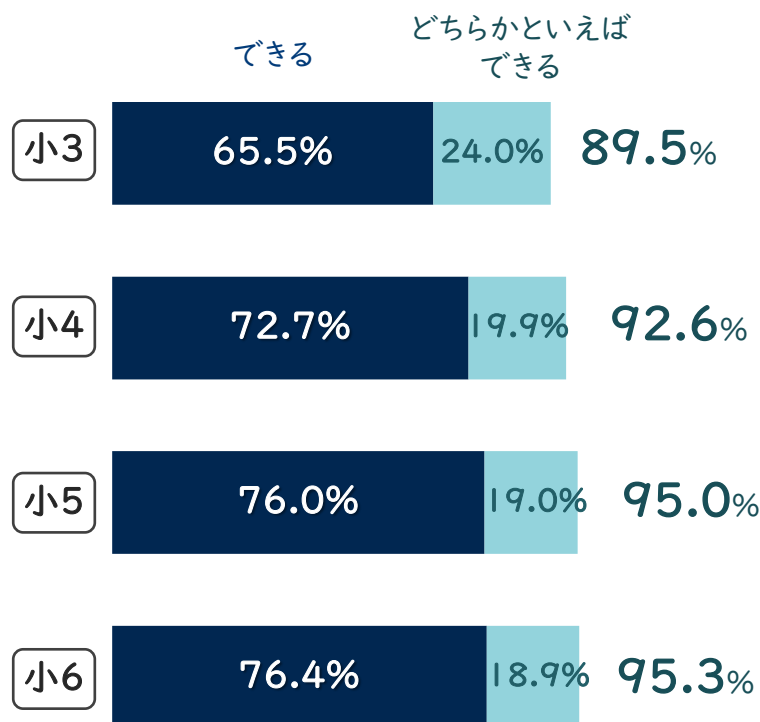
SNS上で候補者や政党の発信内容について、どのように感じましたか



出典：(株)日本総合研究所未来価値研究所政治人材バンクプロジェクトが2025年8月19日に公表した「【都議会議員選挙・参議院選挙2025】有権者アンケート調査結果
東京都議会議員選挙（2025年6月22日投開票）、参議院議員通常選挙（2025年7月20日投開票）への選挙権を有した東京都に在住する18歳～79歳までの男女3,000人を対象

- ◆ コンピュータを使うことができると回答した児童の割合は全学年で90%程度
- ◆ 使用場面、役立った場面ともに、「調べる場面」が一番高い

パソコンやタブレットなどコンピュータを使うことはできますか。



どんな場面で使いましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

	調べる場面	話し合う場面	自分の考えを書く場面	調べたことをまとめる場面	授業の感想を書く場面	自分の学習をふり返る場面	その他
小3	83.7%	24.7%	37.0%	33.8%	23.6%	22.2%	7.8%
小4	89.8%	28.9%	47.5%	49.6%	34.1%	26.3%	6.4%
小5	93.6%	33.6%	57.3%	59.8%	39.4%	29.6%	6.0%
小6	94.7%	38.3%	61.2%	65.7%	40.9%	30.9%	5.4%

どんな場面で役立ちましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

	調べる場面	話し合う場面	自分の考えを書く場面	調べたことをまとめる場面	ふり返りを 書く場面	自分の学習をふり返る場面	その他	役だったことはない
小4	84.6%	29.9%	40.9%	45.8%	28.3%	23.9%	2.6%	4.1%
小5	89.6%	34.8%	48.5%	54.8%	31.2%	26.3%	2.2%	2.4%
小6	90.8%	36.4%	48.5%	58.8%	30.3%	25.3%	2.6%	1.9%

(出典) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 「調べる」場面での活用が全科目を通して最も高く、「自分の学習をふり返る」、「自分の考えを発表する」場面での活用は比較的低い割合

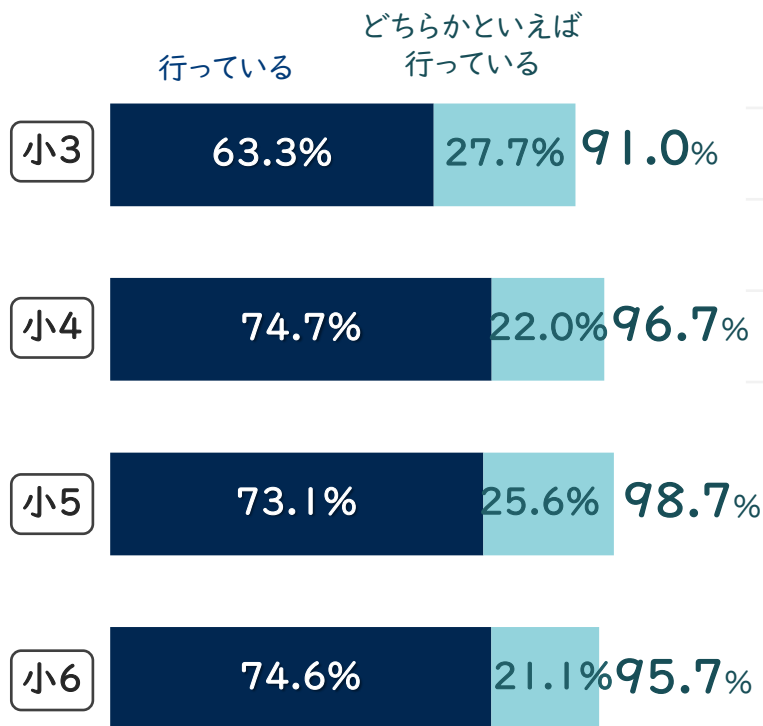
どんな場面でパソコンやタブレットなどコンピュータを活用しましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

	調べる	話し合う	自分の考え を書く	調べたこと をまとめる	授業の感想 を書く	自分の学習 をふり返る	自分の考え を発表する	その他	使ったことは ない
地理 総合	68.7%	25.4%	25.6%	31.5%	15.3%	12.4%		3.3%	19.6%
歴史 総合	58.3%	16.6%	22.9%	26.1%		11.3%	12.2%	1.4%	24.4%
公共	58.6%	23.7%	27.1%	27.6%		13.6%	15.2%	3.5%	24.9%

※地理総合では「「地理総合」の授業で「パソコンやタブレットなどコンピューターを使うこと」について教えてください。どんな場面で使いましたか。当てはまるものを全て選んでください」、歴史総合では「「歴史総合」の授業で、パソコンやタブレットなどのICT機器をどのような場面で使いましたか。当てはまるものを全て選んでください」、公共では「「公共」の授業で、どんな場面でパソコンやタブレットなどコンピュータを使いましたか。当てはまるものを全て選んでください」と聞いている。

- ◆ タブレットなどコンピュータを活用した授業の実施状況は全学年で90%以上
- ◆ 使用場面で特に多いのは「共通の資料を大きく提示する」、「インターネットで自由に調べる」
- ◆ 一方、行わない理由としては、小3・5で「準備や操作に時間がかかるから」、小6で「授業の進み方が遅くなるから」が多い

タブレットなどコンピュータを活用した授業を行っていますか。



どんな場面で使いましたか。当てはまるものを全て選んでください。

	共通の資料を大きく提示する場面	資料を児童に配布(送信)する場面	インターネットで自由に調べる場面	児童が話し合う場面	児童の考えを一覧する場面	学習したことを図や作品にまとめる場面	オンラインで遠隔地と交流する場面	学習履歴を保存する場面
小3	87.4%	63.8%	86.9%	39.4%	56.3%	39.9%	10.8%	20.6%
小4	86.5%	69.7%	95.5%	44.0%	60.3%	57.5%	15.3%	22.9%
小5	86.1%	68.7%	95.7%	49.7%	57.7%	58.5%	17.9%	20.7%
小6	85.2%	66.9%	95.7%	52.6%	60.7%	53.9%	7.5%	19.1%

なぜ、行わないのですか。(もっともふさわしいものを1つ)

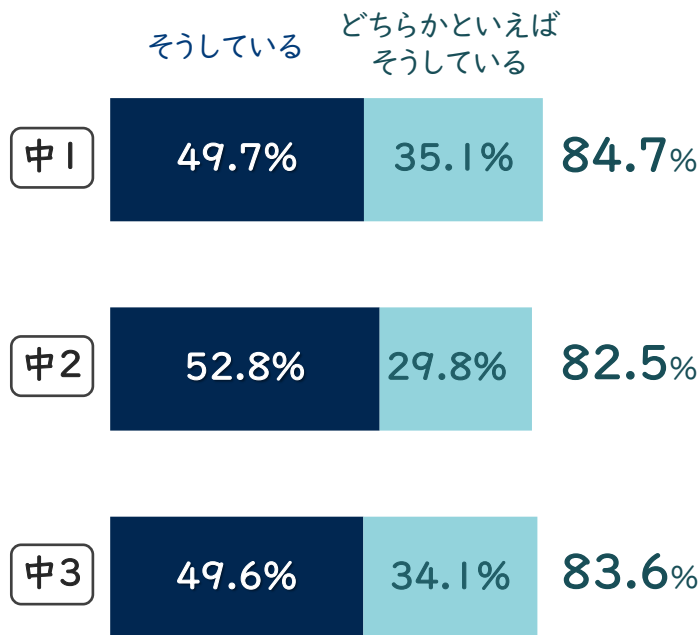
準備や操作に時間がかかるから	準備や操作が難しいから	学校の環境が整わないから	授業の進み方が遅くなるから
42.9%	21.4%	11.9%	23.8%

※3学年から6学年の教師の人数を合計して割合を算出。

(出典) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より
 ※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 授業でのコンピュータや情報通信ネットワークの活用状況に関する質問項目に対し、肯定的な回答割合が全学年で80%以上
- ◆ 使用場面で特に多いのは「共通の資料を大きく提示する」、「インターネットで自由に調べる場面」
- ◆ 一方、行わない理由としては、「準備や操作に時間がかかるから」、「授業の進み方が遅くなるから」が多い

授業でタブレットなどコンピュータや情報通信ネットワークを活用していますか。



どんな場面で使いましたか。当てはまるものを全て選んでください。

	共通の資料を大きく提示する場面	資料を生徒に配布(送信)する場面	インターネットで自由に調べる場面	生徒が話し合う場面	生徒の考えを一覧する場面	学習したことを図や作品にまとめる場面	オンラインで遠隔地と交流する場面	学習履歴を保存する場面	その他
中1	87.2%	54.1%	76.1%	53.7%	47.5%	35.5%	7.5%	16.6%	1.1%
中2	90.3%	68.1%	77.5%	48.3%	49.4%	35.8%	5.9%	12.2%	1.1%
中3	90.8%	65.9%	83.7%	60.8%	59.6%	38.0%	8.5%	13.3%	1.1%

なぜ、行っていないのですか。(最もふさわしいものを1つ選んでください。)

	準備や操作に時間がかかるから	準備や操作が難しいから	学校の環境が整わないから	授業の進み方が遅くなるから	授業で活用する場面がわからないから	その他
中1	39.4%	11.6%	5.5%	38.1%		5.4%
中2	32.6%	11.0%	6.3%	41.7%	3.9%	4.5%
中3	23.9%	13.0%	17.3%	39.0%	5.3%	1.5%

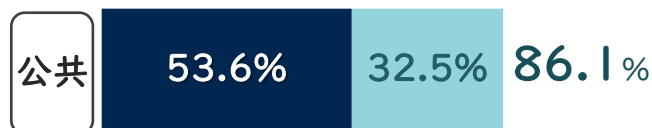
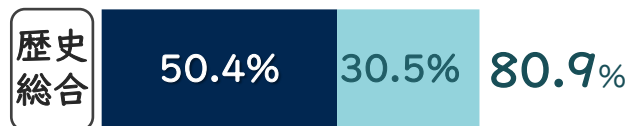
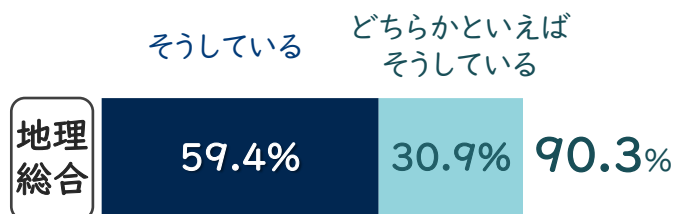
(出典) 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

※中学校生徒には、コンピュータの活用状況に関する質問を実施していないため、教師質問のデータのみを提示する。

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 授業でのコンピュータや情報通信ネットワークの活用状況に関する質問項目に対し、肯定的な回答割合が80%以上
- ◆ 使用場面で特に多いのは「共通の資料を大きく提示する」、「インターネットで自由に調べる場面」
- ◆ 一方、行わない理由としては「授業の進み方が遅くなるから」が多い

授業でパソコンやタブレットなどを活用している教師の割合



※地理総合では「授業でパソコンやタブレットなどコンピュータを活用していますか。」、歴史総合では「授業でパソコンやタブレットなどのICT機器を活用していますか。」、公共では「授業でパソコンやタブレットなどコンピュータ(や情報通信ネットワーク)を活用していますか。」と聞いている。

どんな場面で使いましたか。当てはまるものを全て選んでください。

	共通の資料を大きく提示する場面	資料を生徒に配布(送信)する場面	インターネットで自由に調べる場面	生徒が話し合う場面	生徒の考えを一覧する場面	学習したことを図や作品にまとめる場面	生徒が発表する場面	オンラインで遠隔地と交流する場面	学習履歴を保存する場面	その他
地理総合	82.7%	49.7%	77.5%	33.6%	29.2%	30.8%		3.6%	11.9%	2.9%
歴史総合	82.4%	64.1%	70.3%	42.0%	32.1%	25.4%		3.9%	11.8%	0.3%
公共	83.7%	59.5%	72.2%	39.7%	37.2%	21.7%	34.4%	3.5%	9.0%	0.7%

なぜ、行っていないのですか。(最もふさわしくないものを1つ選んでください。)

	準備や操作に時間がかかるから	準備や操作が難しいから	学校の環境が整わないから	授業の進み方が遅くなるから	授業で活用する場面が分からないから	その他
地理総合	3.4%	1.9%	4.2%	4.3%		1.6%
歴史総合	24.0%	9.8%	8.9%	44.0%	1.7%	11.6%
公共	11.5%	25.5%	21.2%	26.2%		15.6%

(出典) 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

子どもたちを取り巻くデジタル環境について

◆ デジタル時代の主権者教育の観点が大切である

① 子どもたちは常時ネット接続

● ネット利用時間の1日平均 (※1)

小学生	中学生	高校生
約3h44m	約5h02m	約6h19m

● 子供専用のスマホ保有率 (※2 2024)

小学生	中学生	高校生
72.0%	95.3%	99.1%

② 多様な情報から遮断されるリスク

● 検索結果・SNS、表示情報のパーソナライズ

✓ 日本は「知っている」：44.7% 他国は80%～90%

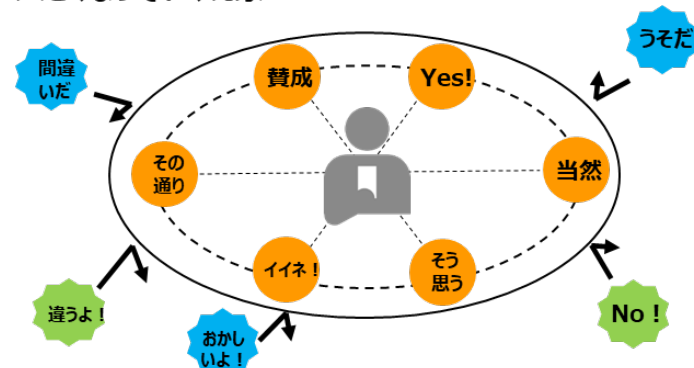
フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、
多様な意見から隔離されやすくなる現象。



エコーチェンバー現象

同じような意見が、閉ざされた空間の中で反響して
大きくなっていく現象



【出所①】

※1 内閣府 令和6年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果。ネットを利用すると回答した青少年の平均利用時間は、前年と比べ約5分増加し、約5時間2分。目的ごとの平均利用時間は趣味・娯楽が最も多く、約3時間01分

※2 ※1をもとに内閣府で作成。平成26年度より調査方法等を変更したため、平成25年度以前の調査結果を直接比較ができないことに留意。「小学生」の調査対象は、満10歳以上

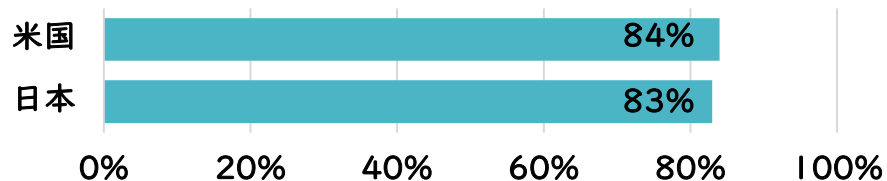
【出所②】

令和4年度総務省「ICT 基盤の高度化とデジタルデータ及び情報の流通に関する調査研究の請負」報告書「検索結果やSNS、動画、音楽等、表示される情報があなたに最適化(パーソナライズ)されていることに対する認識」

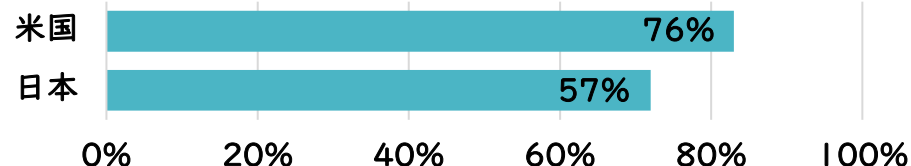
フェイク情報への懸念と生成AIの影響についてのグローバル調査

◆ 日本、米国ともに、多くの人がオンラインコンテンツについて改ざんや誤情報になることに懸念をいだいていたり、有害なディープフェイクが選挙に影響を与えたりと考えている

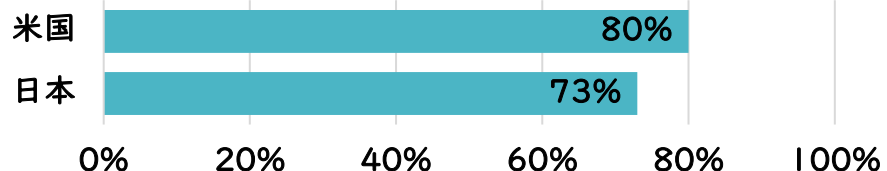
「オンラインで接するコンテンツが改ざんされやすく誤情報になることに懸念を表明」と回答した割合



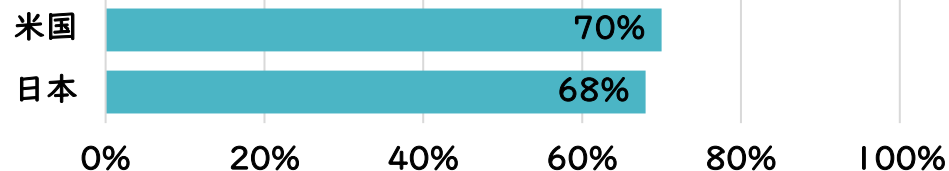
「政府とテクノロジー企業が協力して、ディープフェイクや誤情報から選挙の公正性を守るべき」と回答した割合



「誤情報や有害なディープフェイクが選挙に影響を与えると信じている」と回答した割合



「オンラインで接するコンテンツが信頼できるかどうかを確認することが難しくなっている」と回答した割合



出典: Adobe

2024年6月25日に公表した調査。米国、日本、欧州を含む世界6,000人以上の消費者を対象に、インターネット上でフェイク情報に遭遇した経験や、生成AIがもたらす影響への懸念などについて、グローバル調査を実施

※米国2,012人、日本1,023人、英国2,002人、フランス1,043人、ドイツ1,020人の18歳以上の回答者を対象に調査

◆ 特に中学校における地域調査の実施率が低い

小学校（教師）

観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか

※小学校学習指導要領では、「地域の実態を生かし、（略）観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習（略）の一層の充実を図ること」とされている。

	そうしている・どちらかといえばそうしているの割合	
学年	H24	R4
第3学年	-	94.8
第4学年	88.8	82.5
第5学年	62.2	69.1
第6学年	54.4	61.2

中学校（教師）

地理的分野において、フィールドワークや聞き取り調査などを取り入れて指導を行っていますか。

※中学校学習指導要領では、「地域調査に当たっては、（略）観察や調査を指導計画に位置付けて実施すること」とされている。

	行なっている・どちらかといえば行っているの割合	
学年	H25	R5
第1学年	7.6	12.4
第2学年	10.3	10.3

高等学校（教師）

地域調査の学習の際に、フィールドワークや聞き取り調査などの野外調査を取り入れて指導を行っていますか。

※高等学校学習指導要領では、「地域調査を実施し、生徒が適切にその方法を身に付けるよう工夫すること」とされている。

	そうしている・わりとそうであるの割合	
科目	H27	R6
地理A	4.1	-
地理B	8.2	-
地理総合	-	19.6

（出典）学習指導要領実施状況調査より（小：確定値、中・高：暫定値）

※設問文等については、前回調査と必ずしも文言が一致しないことに留意する必要がある。

※肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算をするため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

◆ 歴史総合等の授業で学校内外の施設を活用している割合は3割未満に止まっている

学校内外の施設（図書館、博物館、郷土資料館等）の活用

高等学校学習指導要領実施状況調査 教師用質問調査（暫定値）
「観察や調査・見学など体験を取り入れた授業を行っている。」

➡「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の合計 **26.2%**

「博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業を行っている。」

➡「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の合計 **27.8%**

高等学校学習指導要領実施状況調査 生徒用質問調査（暫定値）
「「歴史総合」の学習で、学校の図書館などを活用している」

➡「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の合計 **25.9%**

「「歴史総合」の学習で、博物館や郷土資料館などを活用している」

➡「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の合計 **25.4%**

デジタルアーカイブの活用例



・デジタルアーカイブの資料を操作して観察し、友達と交流しながら、資料から当時の変化を読み取る活動。



[横浜開港資料館デジタル
アーカイブ](#)



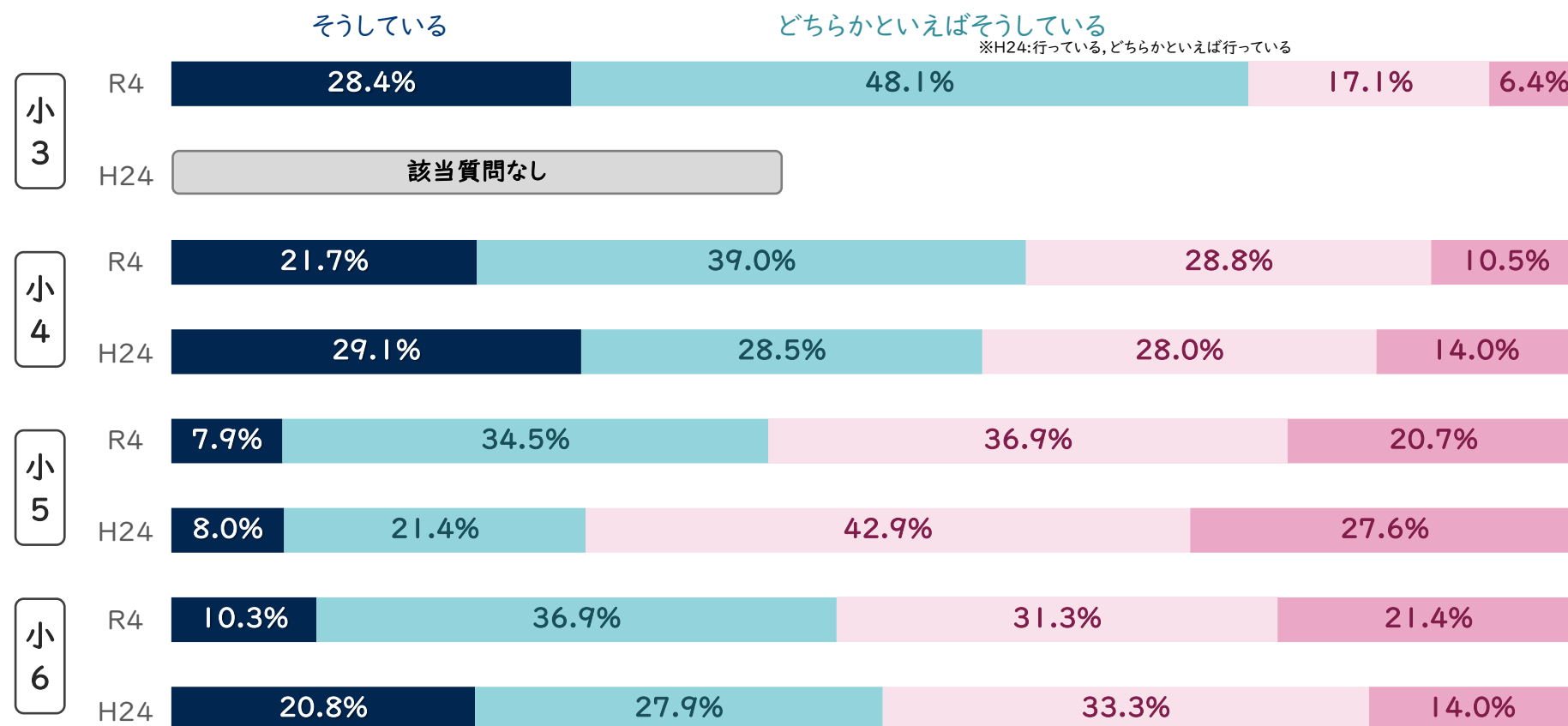
[神奈川県立歴史博物館
デジタルアーカイブ](#)

（歴史の学習を）学校の授業のみで終わらせずに空間的には教室の外へ、時間的には卒業後まで継続させ、将来にわたって学び続ける機会や方法についての認識や姿勢を育み、生涯学習へと発展させていくことが大切である。

（高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編、p.189、266、348）

- ◆ 博物館や郷土資料館などを活用した授業は、肯定的な回答が小3で76.5%、小4で60.7%だが、小5・小6では50%を下回っている
- ◆ 前回調査と比較して、小5については博物館や郷土資料館などの施設を活用した授業の実施が10ポイント程度増加している

(R4・H24) 博物館や郷土資料館などの施設を活用した授業を行っていますか

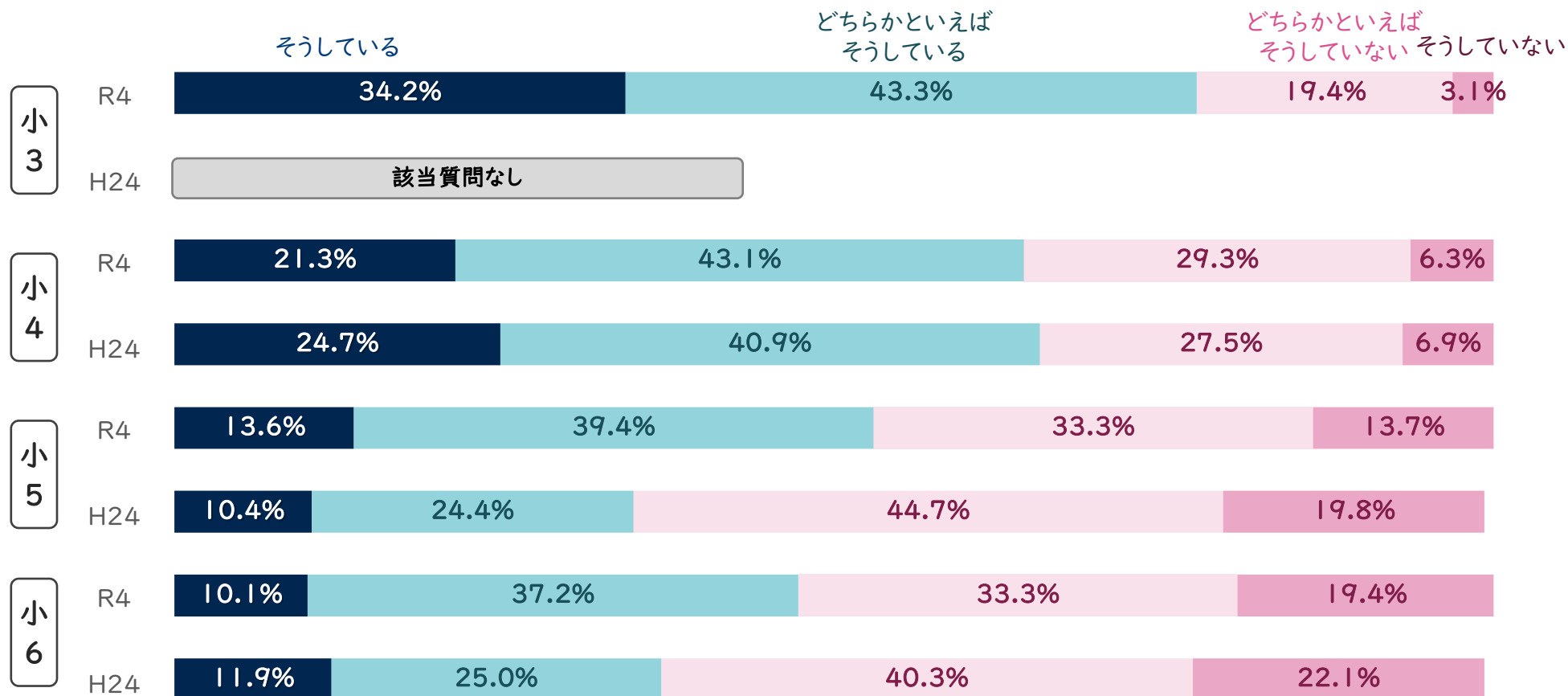


(出典) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

※設問項目ごとの割合は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までの数値で表示している。

- ◆ 地域の素材や人材を生かした授業については、小3で肯定的な回答が77.5%だが、学年が上がるにつれて下がる傾向がある
- ◆ 地域の素材や人材を生かした授業について、小6では全体の50%以下となっており、課題がある

(R4・H24) 地域の素材や人材を生かした授業を行っていますか

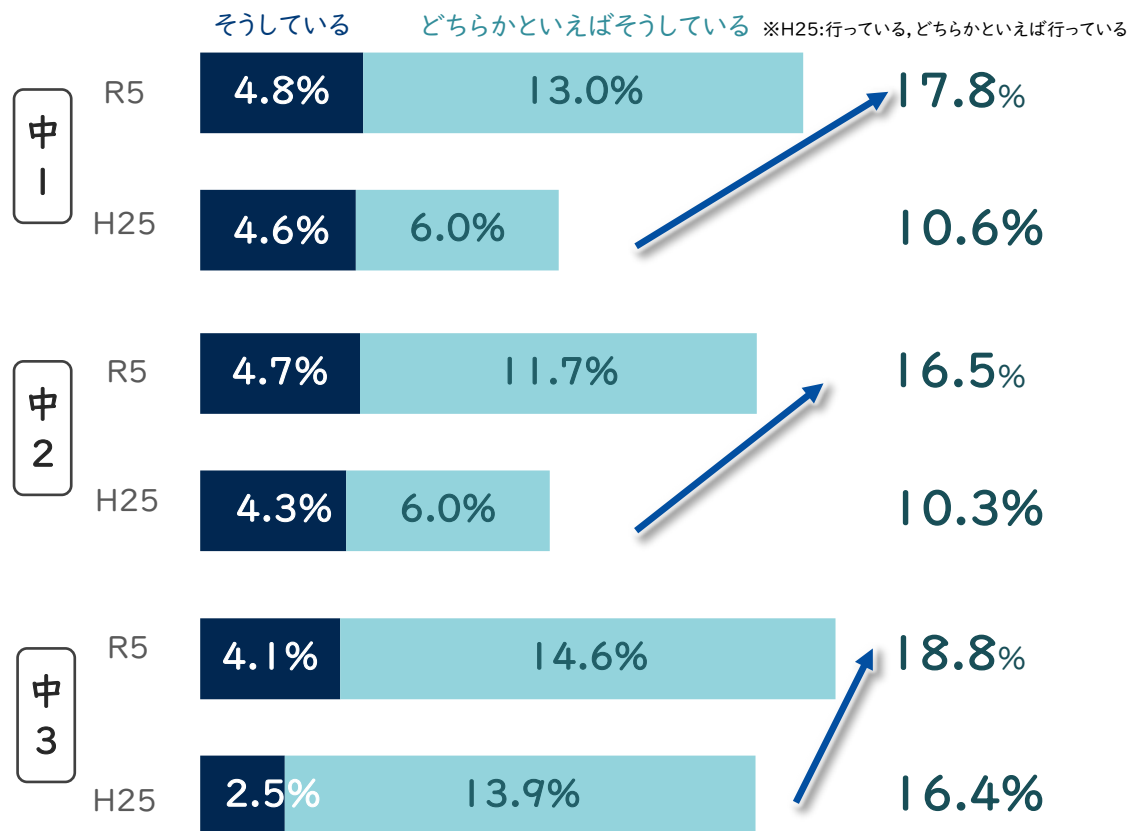


(出典) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

※設問項目ごとの割合は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までの数値で表示している。

- ◆ 前回調査と比較して、中1・中2については博物館や郷土資料館の活用が6ポイント程度増加している
- ◆ 博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業については、全体で20%以下となっており、引き続き課題があると考えられる（歴史的分野）

(R5・H25) 博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業を行っていますか



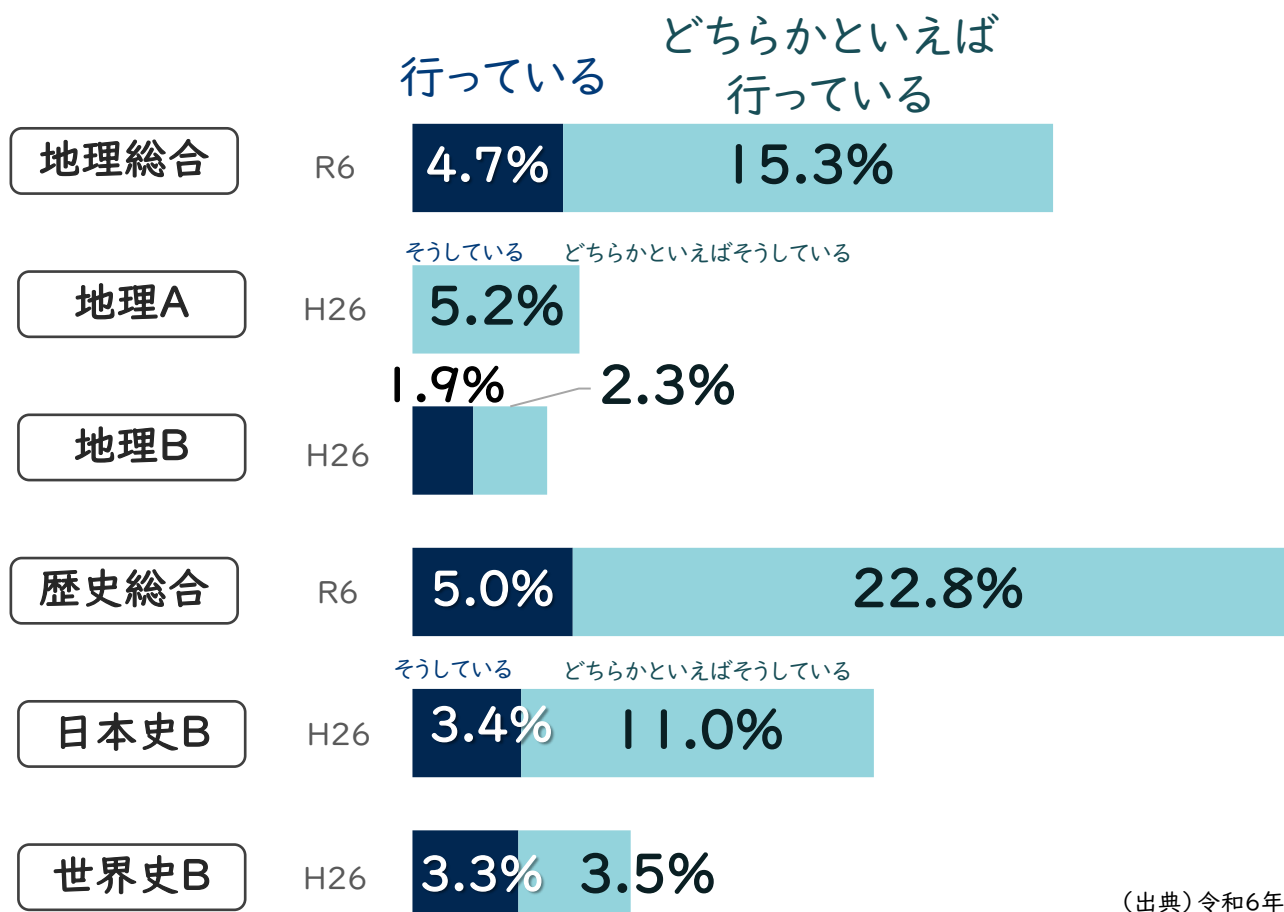
(出典) 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

◆ 博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業の実施については、前回調査より10ポイント以上増加しているが、地理総合、歴史総合ではそれぞれ全体の20%、28%程度にとどまっている

(R6) 博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業を行っている

(H26) 博物館や美術館、郷土資料館などを活用した授業を行っている

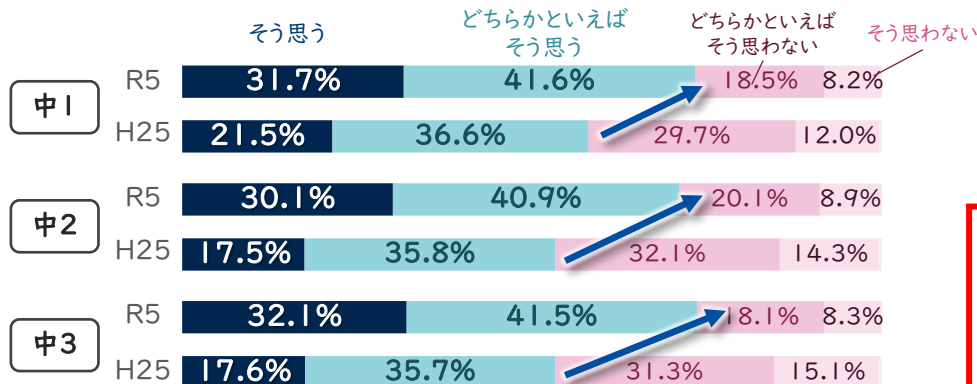


(出典) 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。85

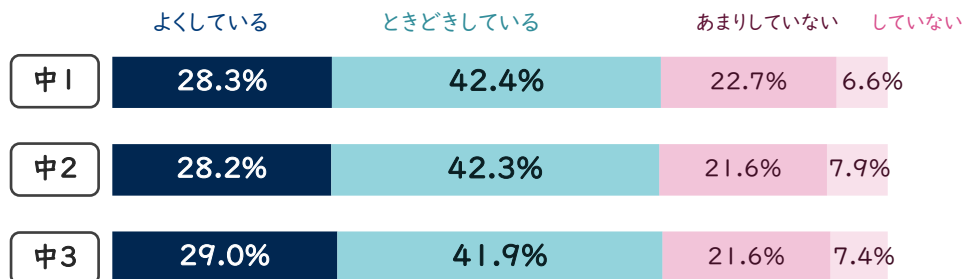
- ◆ 学習課題を設定し、その解決のためにみんなで調べたり考えたりすることが好きな生徒の割合は、全学年で前回調査を上回った
- ◆ 学習課題の解決に向けて教科書等を使って必要な情報を粘り強く収集していると肯定的な回答をした割合は約70%
- ◆ 友達の意見に対して自分の考えをもつようにしている生徒は85%を超えている一方で、資料などから疑問を見つけたり問いを作ったりしている生徒や、資料を集めて調べることが好きな生徒の割合は60%前後

学習課題(問い)を設定して、その解決のためにみんなで調べたり考えたりすることは好きですか。

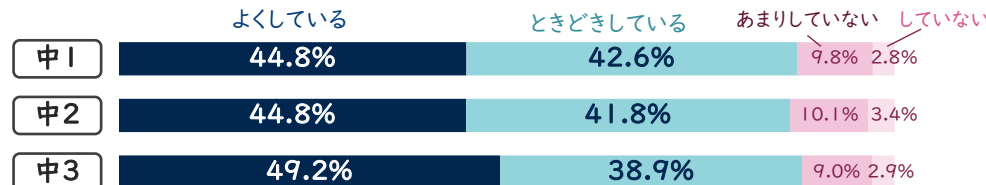


※前回調査(H25調査)では「社会科の授業で、学習課題を設定して、その解決のために調べたり考えたりすることは好きですか。」と聞いている。

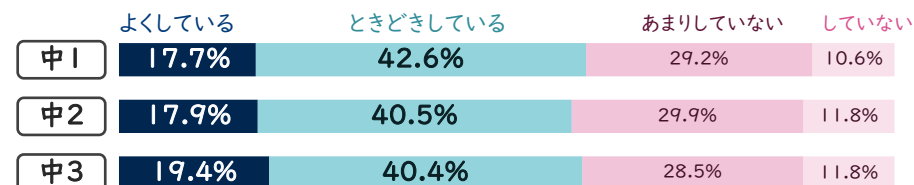
学習課題の解決に向けて、教科書や地図帳、資料集、インターネットなどを使って必要な情報を粘り強く収集していますか。



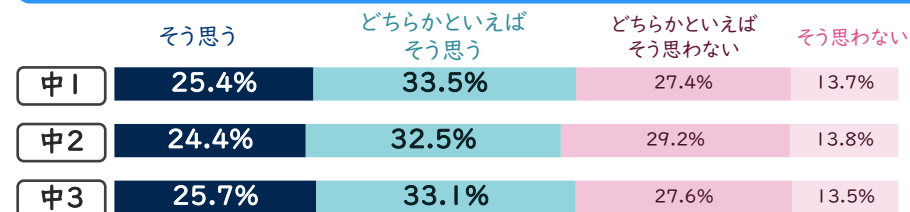
友だちの意見に対して、自分の考えをもつようにしていますか。



資料などから疑問を見つけたり問いをつくったりしていますか。



自分で資料を集めて調べることは好きですか。



(出典) 中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

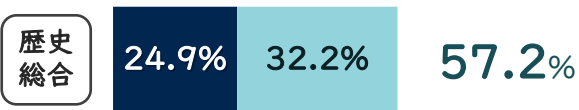
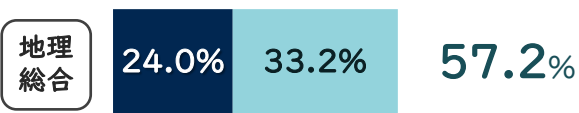
※調査方法や設問等については、前回調査と異なる場合があることに留意する必要がある。

※設問項目ごとの割合は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までの数値で表示している。

- ◆ 学習課題やテーマを決めて議論することが好きな生徒、議論している生徒は50%台にとどまる
- ◆ 議論することで「いろいろな人の考えがわかる」と回答した生徒の割合がいずれの科目も比較的高い
- ◆ 歴史総合において、「説明の仕方がわからない」と答えた生徒が比較的多い

学習課題（問い）やテーマを決めて、議論することは好きですか

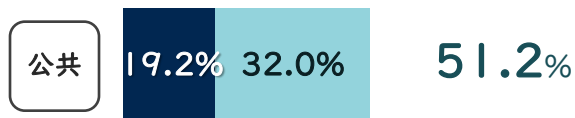
そう思う どちらかといえば思う



※地理総合では「先生や自分たちが学習課題（問い）やテーマを決めて、議論（話し合い）をすることは好きですか」と聞いており、歴史総合では「学習課題（問い）やテーマを設けて話し合う（グループで意見交換する）ことが好きだ」に対して当てはまるものを回答してもらう形式となっている。

学習課題（問い）やテーマを設定して、議論（話し合い）をしていますか。

よくしている ときどきしている



学習課題（問い）やテーマを決めて、議論することについて、どのような良さがありますか。（当てはまるものを全て選択してください）

	いろいろな人の考えがわかる	話すことが好き	自分の考えを話すことができる	社会の様子がよく分かる	みんなが活躍できる	自分の考えが深まる	新しいことを知ることができる	1から6のようない	あまりやったことがないので分からない
地理総合	61.8%	28.7%		19.3%	10.2%	37.0%	32.7%	10.9%	
歴史総合	69.1%		31.5%	18.9%	12.4%	39.4%	40.4%	3.1%	10.2%

「学習課題（問い）やテーマを設定して、議論（話し合い）をすること」について次のようなことはありますか。当てはまるものを全て選んでください。

	いろいろな人の考え方がわかる	社会の様子がよく分かる	互いの意見を認め合う	みんなが活躍できる	自分の意見がまとまる	他の人に説明することが楽しい	新たな問いを見いだす	時間が足りない	議論（話し合い）をする機会が少ない	1から9のようない
公共	53.4%	24.0%	32.4%	12.6%	18.1%	8.4%	16.1%	4.9%	14.6%	12.5%

学習課題（問い）やテーマを決めて、議論することについて、課題や難しさはありますか。（当てはまるものを全て選択してください）

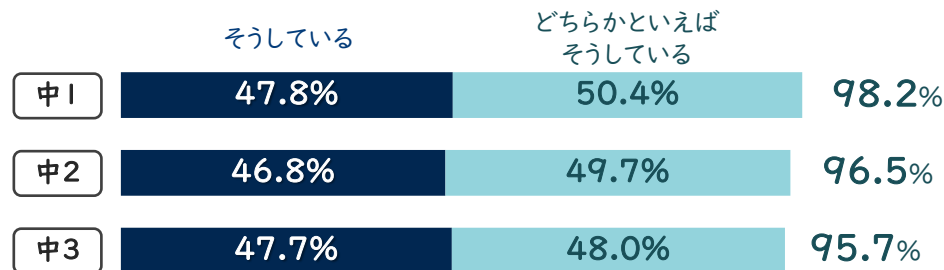
	難しくて分からない	説明の仕方がわからない	言い合いのようになる	一部の人がだけが活躍する	考える時間が足りない	自分の意見がまとまらない	恥ずかしい	1から7のようない	あまりやったことがないので分からない
地理総合	22.5%	28.8%	9.1%	24.9%	17.8%	29.9%	12.3%	20.8%	
歴史総合	25.6%	42.9%	7.6%	22.3%	16.2%	31.5%	9.9%	7.4%	13.7%

（出典）令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より（暫定値）

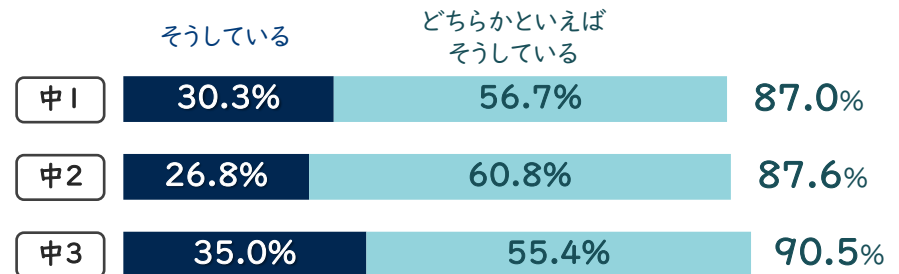
※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 生徒の疑問を引き出すような資料提示の工夫をしている教師の指導を受けている生徒の割合は、全学年で90%を超えている
- ◆ 見方・考え方を働かせる課題を設定して追究する学習活動を実施している教師の指導を受けている生徒の割合は90%前後
また、課題解決的な学習を授業に取り入れている教師の指導を受けている生徒の割合は前回調査から上昇
- ◆ 学習のまとめや振り返りの際に図や文章で書かせる指導している教師の指導を受けている生徒の割合も前回調査から上昇

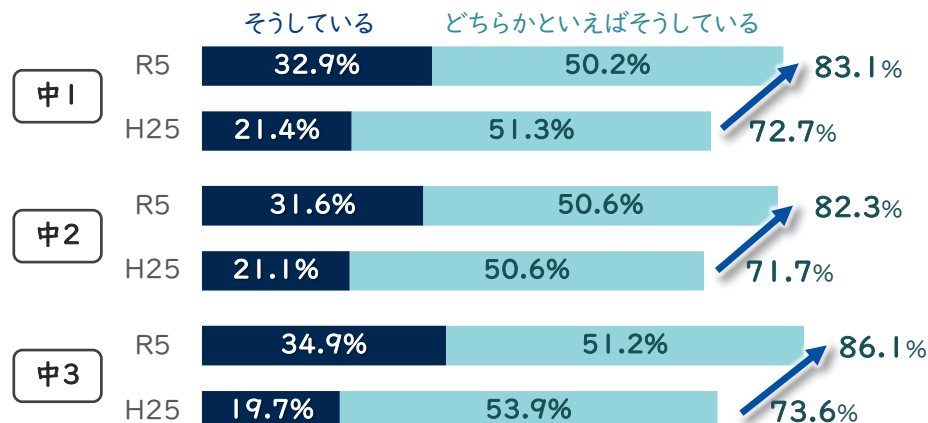
生徒の疑問を引き出すような資料提示の方法を工夫していますか。



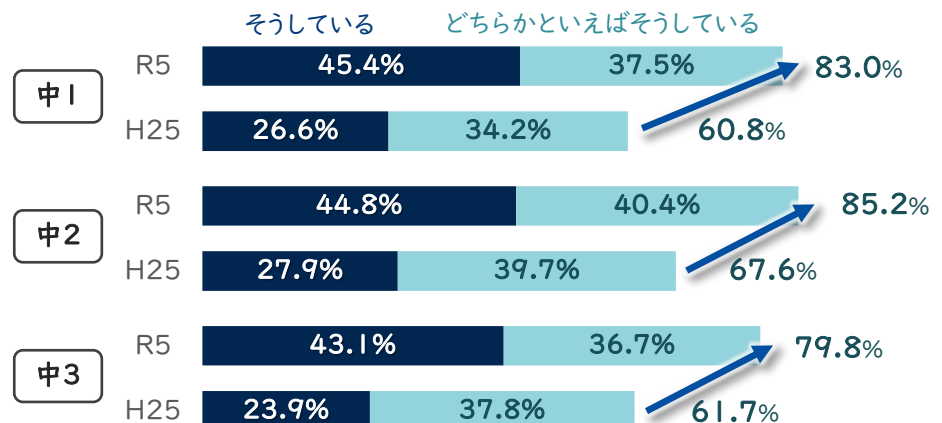
「見方・考え方」を働かせる課題(問い)を設定して追究する学習活動を実施していますか。



課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか。



学習のまとめや振り返りを図や文章で書かせるよう指導していますか。



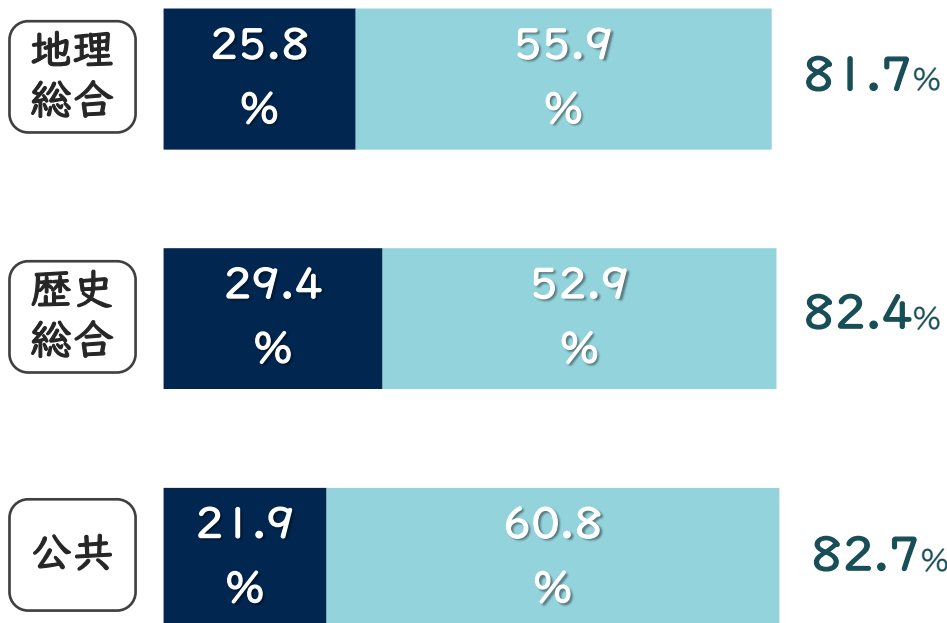
※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

(出典) 中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)
※調査方法や設問等については、前回調査と異なる場合があることに留意する必要がある。

- ◆ 学習課題（問い）を設定し、課題解決的な学習活動を取り入れている教師の指導を受けている生徒の割合は80%強である
一方で、生徒に学習課題（問い）を設定させて解決に向けて取り組む学習活動を取り入れている教師の指導を受けている生徒の割合は50%台にとどまる

教師が学習課題（問い）を設定する、課題解決的な学習活動を授業に取り入れているか。

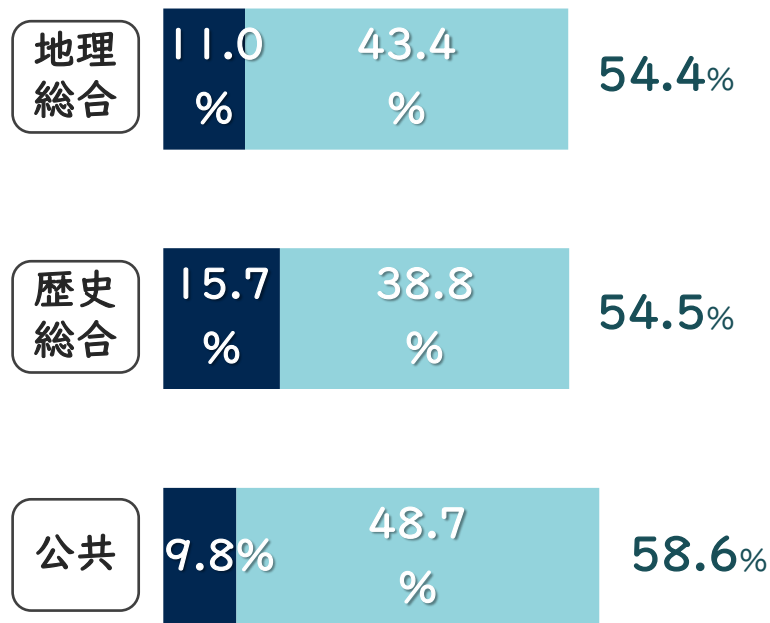
そうしている わりとそうである



※地理総合では「教師が学習課題（問い）を設定する、課題解決的な学習活動を授業に取り入れている」、歴史総合では「教師が学習課題（問い）を設定して、生徒がその解決に向けて取り組む活動を授業に取り入れている」、公共では「教師が学習課題を設定する課題解決的な学習を取り入れた授業を行っている」に対して、該当する選択肢を4件法で聞いている。

生徒に学習課題（問い）を設定させて、その解決に向けて取り組む学習活動を授業に取り入れているか。

そうしている わりとそうである



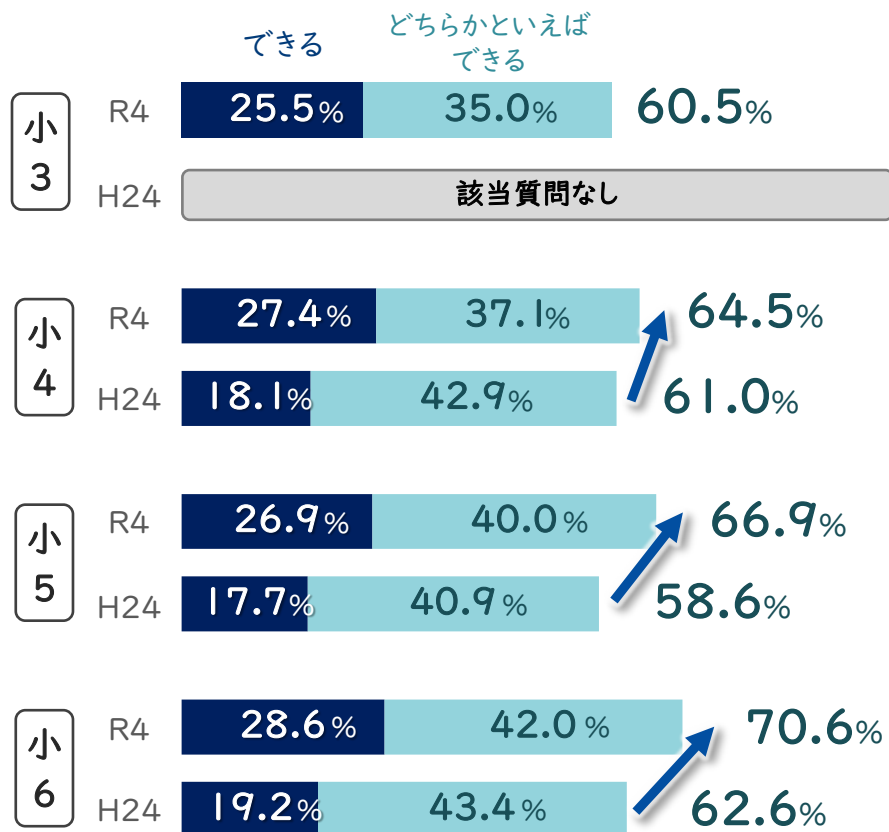
※公共では「生徒自らが学習課題を設定する課題解決的な学習を取り入れた授業を行っている」に対して、該当する選択肢を4件法で聞いている。

（出典）令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より（暫定値）

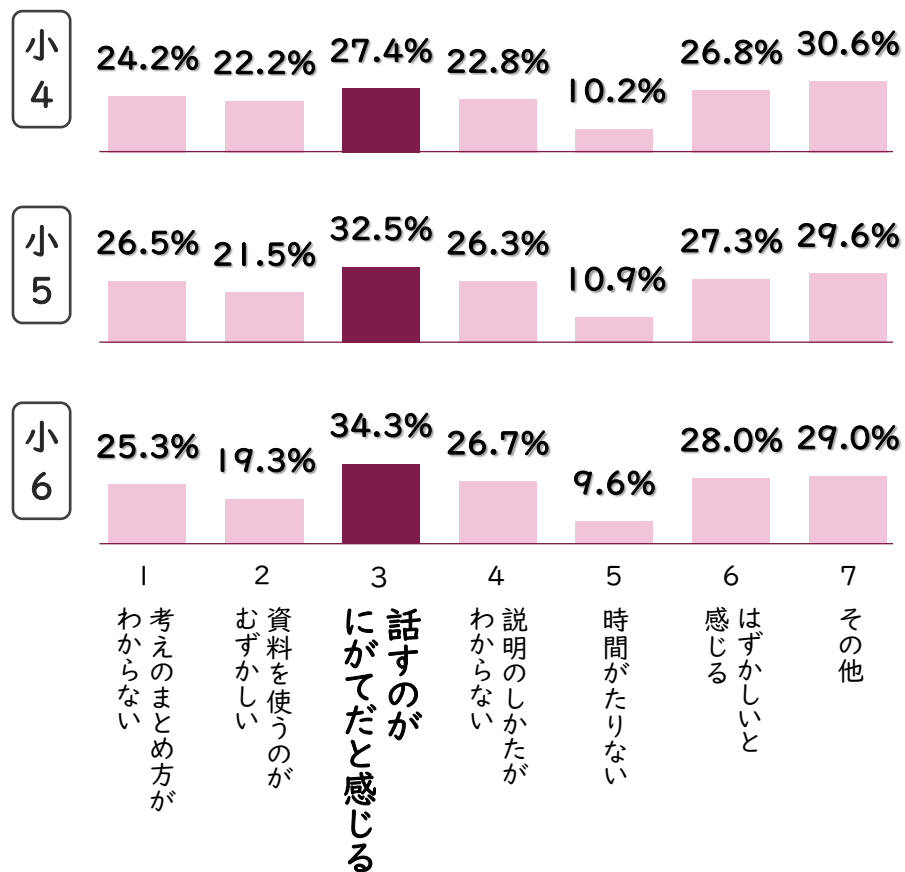
※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

◆ 自分の考えを資料などを使って説明「できる」と回答した割合が前回調査より高い一方で、「話すのがにがてだと感じる」と回答した割合が各学年共に高い

自分の考えを資料などを使って説明することができますか。



「自分の考えを資料などを使って説明すること」について、次のようなことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

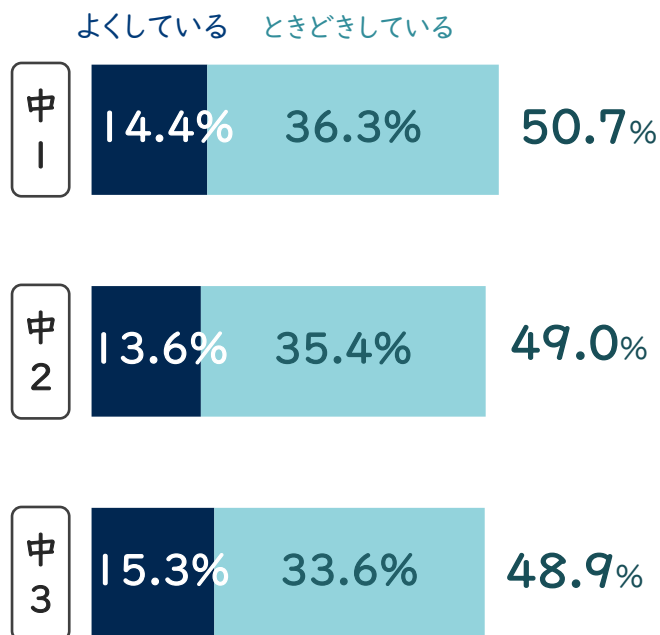


※前回調査(H24調査)では「社会科の授業で、自分の考えを資料などを使って説明することができますか。」と聞いている。

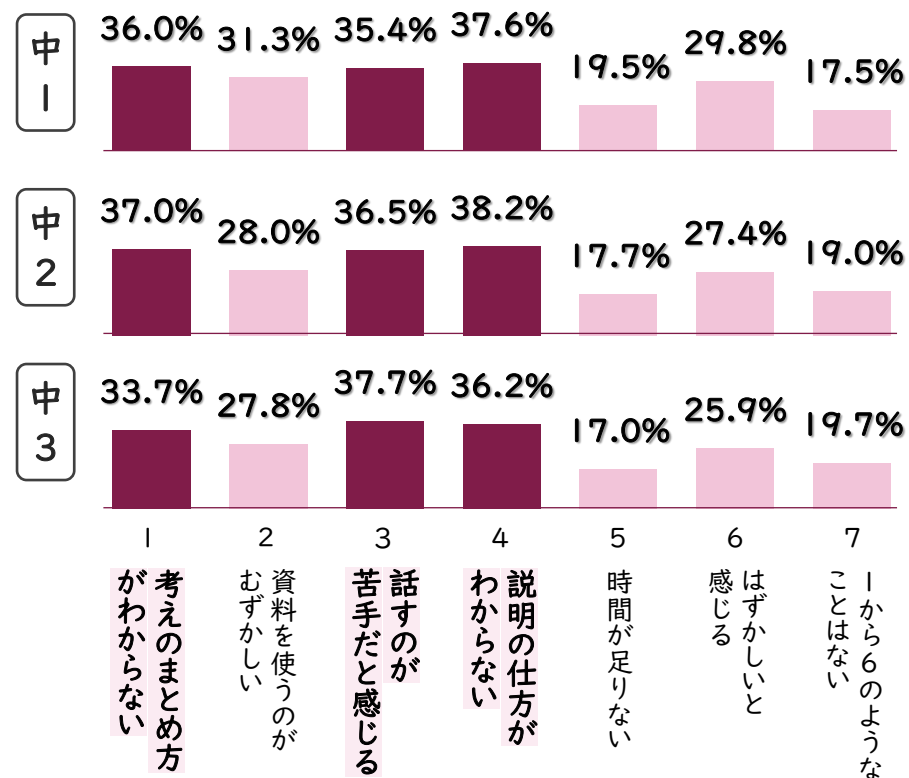
(出典) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より
 ※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、
 小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 自分の考えを資料などを使って説明していると肯定的に回答した割合は、約50%
- ◆ 「考えのまとめ方がわからない」、「話すのが苦手」、「説明の仕方がわからない」と回答した割合が各学年共に高い

自分の考えを資料などを使って説明していますか。



「自分の考えを資料などを使って説明すること」について、次のようなことはありますか。当てはまるものを全て選んでください。

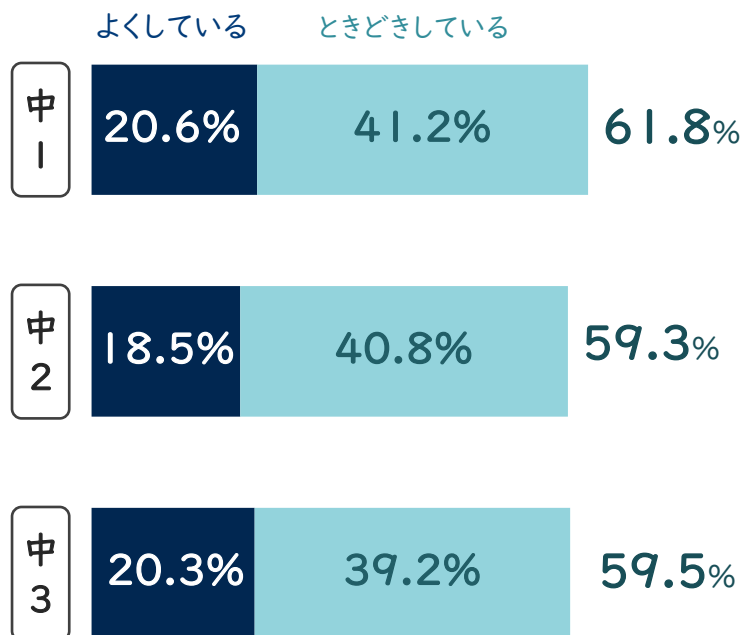


(出典) 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

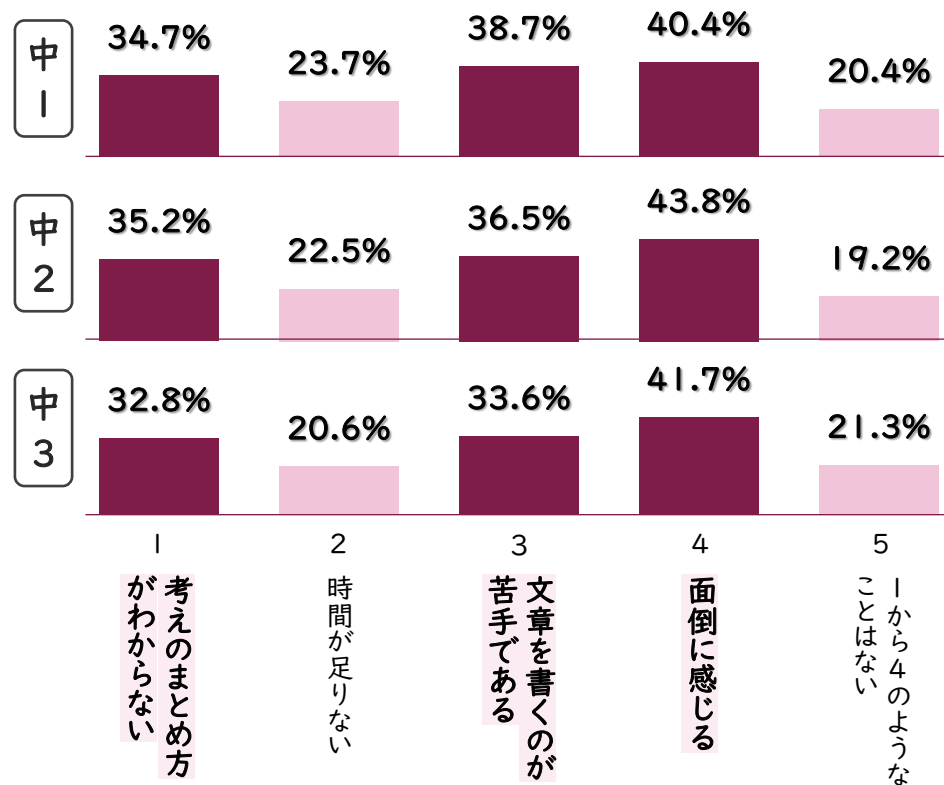
※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 調べたことを基に自分の考えを図に表したり文章で書いたりしていると肯定的に回答した割合は、約60%
- ◆ 「考えのまとめ方がわからない」、「文章を書くのが苦手」、「面倒に感じる」と回答した割合が各学年共に高い

調べたことを基に自分の考えを図に表したり文章で書いたりしていますか。

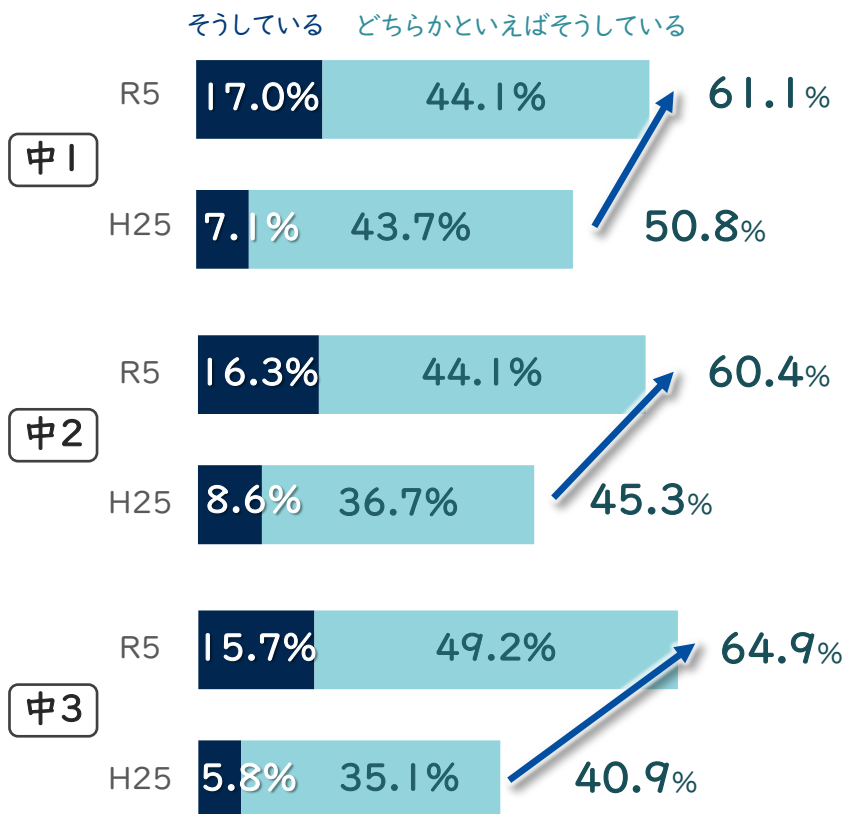


「調べたことを基に自分の考えを図に表したり文章で書いたりすること」について、次のようなことはありますか。当てはまるものを全て選んでください。

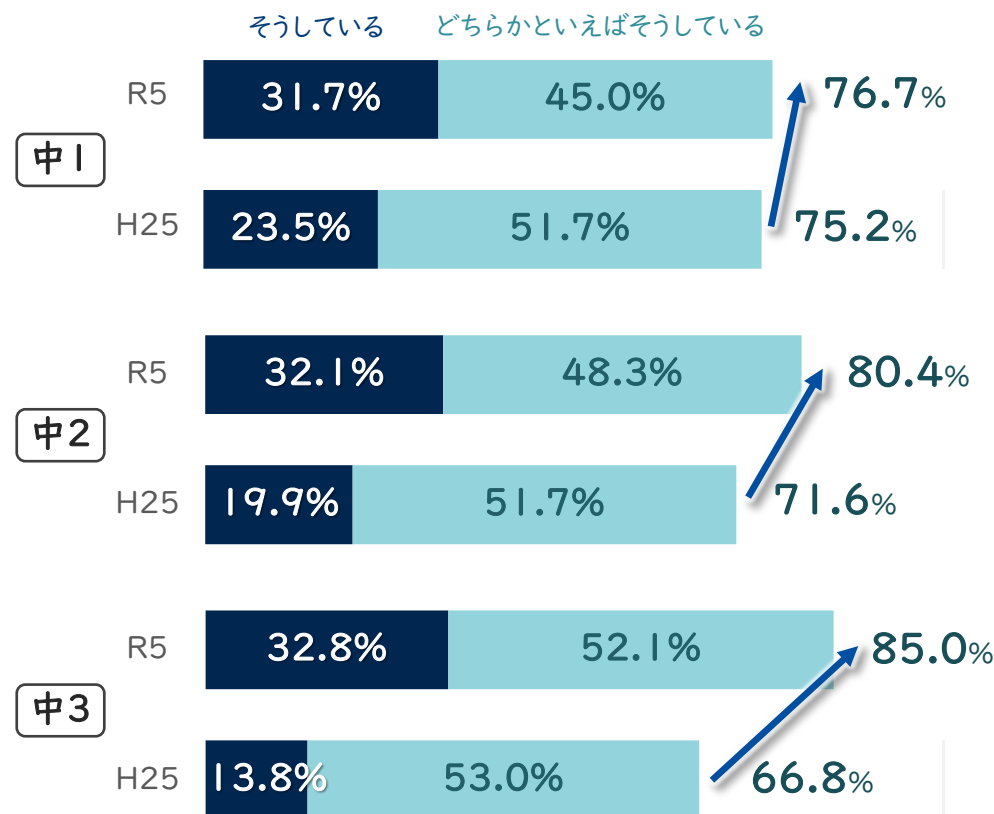


- ◆ 生徒が予想に基づいて調べる計画を立てるよう指導している教師の指導を受けている生徒の割合は、前回調査から上昇しており、60%を超えている。特に、中3については、前回から24%上昇
- ◆ 自分で資料や情報を探したり調べたりするよう指導している教師の指導を受けている生徒の割合も前回調査から上昇しており、特に中3については、前回から18%程度増の85%

生徒が予想に基づいて調べる計画を立てるよう指導していますか。



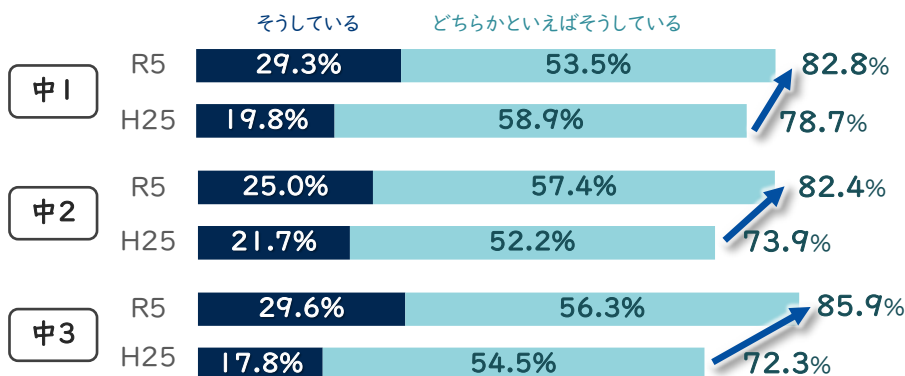
生徒が自分で資料や情報を探したり調べたりするよう指導していますか。



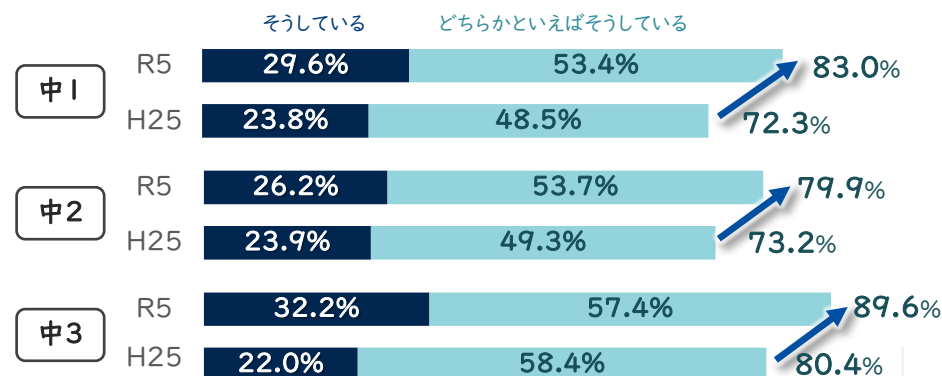
(出典) 中学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)
 ※調査方法や設問等については、前回調査と異なる場合があることに留意する必要がある。
 ※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

- ◆ 調べたことについて「特色や意味を考える」、「根拠や理由を説明する」ように指導している教師の指導を受けている生徒の割合は 前回調査から上昇し、80%~90%強
- ◆ 他の立場から考えたり他の情報と比較させたりする授業の実施状況も前回調査から上昇
- ◆ 課題やテーマを決めて討論する授業の実施状況は前回調査から上昇しているが、50%前後にとどまる

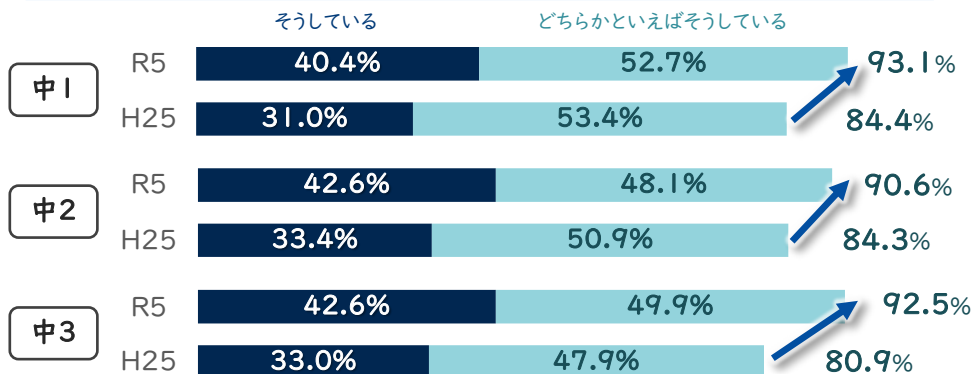
調べたことについて、どのような特色や意味があるかを考えるよう指導していますか。



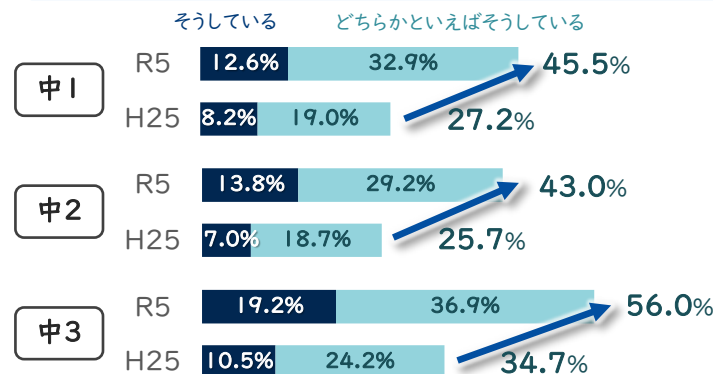
他の立場から考えたり他の情報と比べたりして考えるような授業を行っていますか。



調べたことや考えたことについて、根拠や理由を説明するよう指導していますか。

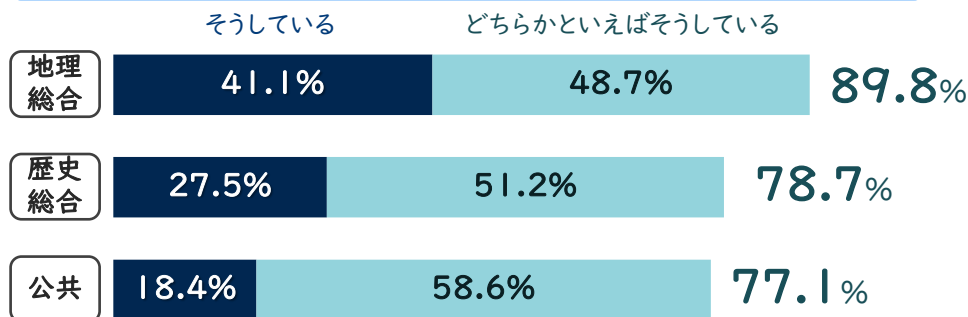


課題やテーマを決めて、討論する授業を行っていますか。



- ◆ 複数の資料を比較したり、関連付けたりする学習の実施状況は地理総合では89.8%、歴史総合、公共では70%後半
- ◆ 他者の立場や、他の情報と比較して考える授業の実施状況は、地理総合で77.3%、公共で86.8%
- ◆ 歴史総合において、調べたことの特色・意味を考えるよう指導している教師の指導を受けている生徒の割合は69.6%
- ◆ 公共において、情報の信頼性や客観性、真偽などを確認するよう指導している教師の指導を受けている生徒の割合は86.3%

複数の資料を比較したり、関連付けたりする学習活動を授業に取り入れているか



※地理総合では「いくつかの資料などから読み取れる情報を比較したり、関連付けたりする学習活動を授業に取り入れている」、歴史総合では「いくつかの資料などから読み取れる情報を比較させたり、関連付けたりする学習活動を授業に取り入れている」、公共では「複数の資料を関連させて考えさせる授業を行っている」に対して、該当する選択肢を回答する形式となっている。

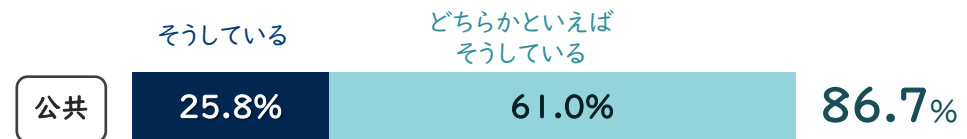
調べたことについて、どのような特色や意味があるかを考えるよう指導している



他者の立場から考えたり他の情報と比べたりして考えるような授業を行っている



他の立場から考えたり他の情報と比べたりするなど、多面的・多角的に考えさせる授業を行っている



情報の出典や発信者の立場なども踏まえ、情報の信頼性や客観性、真偽などを確認するよう指導している



(出典) 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査より(暫定値)

※各回答の数値は、小数第1位までの概数で表示。肯定的な回答を求める際は、小数第2位以下も含めて計算するため、それぞれの数値は一致しない場合がある。